

中世曹洞宗における本参研究序説（二）

— 円応寺蔵『二十七通句』、『秘密正法眼蔵』を中心として —

飯塚大 展

一、はじめに

前稿において、石屋派に属する円応寺所蔵の抄物を研究対象として、本参の位置づけを模索したつもりであるが、必ずしも成功したとは言い難く、多くの事実誤認を犯しているであろうことは私自身にとっても想像に難くない。しかしながら、公案参学の大きな部分を占めるのが、本参資料であることは事実であり、少なくとも応仁・文明の乱以降における林下曹洞宗の教学的背景を研究するに際しては避けることのできない課題であると考えている。「本参」或いは「門参」「秘参」と称されるこれらの資料は、秘密裏に師資相承される形態において、「切紙」資料のそれに同じであり、公案に対し短句形式の下語・代語・別語をもって、公案を拈提する形式は「代語」・「下語」と言われる資料に同じである。但し室町時代末期から江戸時代初頭にかけて、特に了庵派下にお

いて多くの成立を見た「代語」資料は、いわば語録に準ずるという性格を持っており、従って会下の大衆一般を対象に説示されるのが原則であり、「本参」が室中において師資の間に伝授されるのと対蹠的である。⁽²⁾ ちなみに、円応寺にも中世成立の「代語」資料が現存し、その外にも歴代の住持によって代語が作されていたことを確認することができる。⁽³⁾ 石屋派の「代語」資料については、今後の課題としたい。

本稿においても、引き続き円応寺抄物を紹介して行きたいと思う。円応寺は少なくとも江戸時代初頭まで石屋派の寺院として機能してきた。⁽⁴⁾ 一般に江戸時代前半を過ぎると、林下曹洞宗各派の有する独自性が希薄化していくように感ぜられるが、この傾向は円応寺においても当てはまるように思われる。この点は師資相承を原則とする切紙資料において看取できる。石屋派の切紙については、別に論ずることとして今は論じない。

以下、円応寺蔵の抄物資料紹介を行う前に、石屋派の本参
 目録を取り上げたい。前稿において、寒巖派下、普濟寺十三
 門派の一つである潔堂派の拠点寺院常光寺に所蔵されている
 「潔堂派参話目録」を取り上げたが、⁽⁵⁾同様に本参目録として
 は比較的成立の早いものである。あわせて、地方に展開した
 曹洞宗各派がそれぞれの公案体系を有していたことの一つの
 証左として、『月泉派秘参』の目録を紹介する。次に、やは
 り円応寺所蔵の『二十七通句』(仮題)を「透句(通句)」資
 料として取り上げる。本参が一つ一つの話頭、或いはいくつ
 かの公案や句を一括して一連の話頭として参するものである
 のに対して、一句或いは二句一対を一つの公案として扱い、
 それらの句を段階的に透過すべき体系としてまとめたもの
 が、「透句」であると思われる。⁽⁶⁾これに類似するものに、夜
 参の盤や「三位之注脚」といったものがあり、これらの関連
 性も含めて考えていきたい。最後に、『秘密正法眼蔵』(『十
 則正法眼蔵』)について、円応寺に蔵されている『正法眼并
 抄』と他の諸本との比較を行いたいと思う。

二、円応寺蔵の抄物について

円応寺は、石屋真梁(一三四五〜一四一三)を派祖とする石
 屋派伝承の禅籍抄物を多数所蔵することで知られているが、
 以下その主な典籍について述べてみたい。円応寺所蔵の抄物

については、石川力山氏の諸論稿⁽⁷⁾があり、筆者もそれにより
 ながら、概観してみたい。

語録抄(漢文抄・仮名抄)としては、瑩山紹瑾撰とされる①
 『報恩録』(零本、勝巖宗守手沢本)、②『十則正法眼并抄』(『秘
 密正法眼蔵』を合冊、朝翁珠敬写)、峨山韶碩に擬せられる③
 『山雲海月図』(標題『未語尽情』、享徳二年写本を文明十一年に転
 写)、④『自得暉録抄』(峨山和尚誦抄)、元龜三年写)がある。
 <代語>の資料としては、⑤『円應中興了然和尚法語』
 (江戸時代初期写)、⑥『秘傳集』(勝山筆写、前半が代語、後半は
 代語抄。前欠)がある。石屋派の本参資料としては、⑦『大
 菴和尚下語』(勝山禅殊筆写、一叟勝鈍の慶長四年の識語あり)、
 ⑧『閑語不見』(勝山筆写、天叢殊久から勝鈍に附与された旨の、
 元和五年の識語あり)、⑨『百則始終勘破了』(天正三年、天叢殊
 久筆写、天叢から勝鈍に附与された旨の、元和五年の識語あり)、
 ⑩『靈機宏聖道三位之次第』(禅殊書写カ、後欠)、⑪『参禅』
 (江戸時代初期写、華嶽宗藝筆写)、⑫『二十七通句』(仮題、勝
 巖宗殊筆写、華嶽手沢本)等がある。

しかしながら、円応寺の室内に於いて参ぜられていたの
 は、上記の抄物にとどまらなかったことが、祇春が円応寺に
 おいて秘書とされてきた典籍を記した「秘録」(元禄五年へ一
 六九二写、横長一冊)によってわかる。

秘録

- (1) 一、空塵書、(2) 一、十則正法眼并抄、(3) 一、嗣書、(4) 一、梅花嗣書、(5) 一、傳光録、(6) 一、五家之偈、(7) 一、洞山五位頭訣并□□□□出語要序、(8) 一、□□決議論、(9) 一、玉函秘抄、(10) 一、楊花集、(11) 一、洞上玄風、(12) 一、石屋派先師遷化之時之次第、(13) 一、參禪、一卷、(14) 一、幻寄集、(15) 一、洞山和尚諸語并洞家諸尊宿秘語、(16) 一、句双紙、(17) 一、回互圓轉環如古語、(18) 一、勤行諸出之作法、(19) 一、識之註、(20) 一、信心銘峨山和尚着語、(21) 一、未語尽情、(22) 一、所為集、(23) 一、古今禪宗、(24) 一、傳法偈、(25) 一、百則始終、(26) 一、看語不見、(27) 一、仮名見性、(28) 一、釈迦世系、(29) 一、三位之次第、(30) 一、鶯舌集、(31) 一、諸話頭參話、(32) 一、一段光明亘古今、(33) 一、楞嚴回向註、(34) 一、報恩録、二卷、(35) 一、參禪、但横トヂ、(36) 一、秘傳集、(37) 一、句双紙、(38) 一、大庵和尚下語、

(※番号は筆者が付す。□は、判読不能を示す。)

元禄五年当時円応寺において「秘録」として所蔵されていた典籍の多くは本参・代語資料であったと思われる。この目録に記載されている典籍においても現在所在が確認できないものが含まれていることは極めて残念である。しかし、それでも円応寺蔵の抄物資料は質量共に充実したものである事には変わりはない。石屋派の抄物の特徴については、未だ判然としないが、同じく石屋派に属する丈六寺蔵の典籍と幾つかの共通するものがある。就中、峨山に擬せらる『山雲海月』に

注目したい。円応寺蔵本は表題を『未語尽情』と言うが、内容は『山雲海月』であり、これは版本の『山雲海月』とは系統を異にする。⁸⁾この円応寺蔵本と同系統のものが、やはり丈六寺に蔵されており、同様に『報恩録』も、同系統のものが丈六寺に現存する。又、『梅花嗣書』、及び『正法眼蔵』の内の一巻「嗣書」が、石屋派下においては、室中の書として早くから相伝されてきたと思われる。

三、石屋派本参目録について

永久文庫蔵『正法眼蔵抽書梅花嗣書』⁹⁾には、「本参目録次第」「五大老節角代語参話、石屋和尚之下語」が付載されている。これらの資料は、室町時代中期における石屋派の参話目録として、同派の公案体系や、代語・下語の形式を知る上で貴重なものであると言える。因みに「本参目録次第」を掲げれば以下の通りである。

へ本参目録次第

- (1) 入頭大死底、(2) 生下未分、(3) 不墮死活、(4) 竹篋背触、(5) 忘智寂三関、(6) 三一色、(7) 三處之主、(8) 智不到一句、(9) 三滲漏、(10) 空劫已前自己、(11) 前八句、(12) 九帶、(13) 十智同真、(14) 黄龍三関、(15) 四喝、(16) 四法界、(17) 猪刀揚下、(18) 三種病人、(19) 露柱、(20) 婆子勘破、(21) 没後作僧、(22) 八種棒(三頓棒引也)、(23) 三悟道、(24) 佛戒魔戒、(25) 偏正一致、(26) 當自己、(27) 不睡着(類則)、(28) 外道問佛

(29) 文殊白槌、三則、(30) 世尊棺、(31) 達磨無功德、(32) 青原庐陵米、(33) 俱胝一指、(34) 不識紫上、(35) 迦葉利竿、(36) 托鉢下堂、(37) 世尊拈花

へ三十七則 別而始

(38) 正堂辨三時話、(39) 芭蕉柱杖、(40) 弥陀参、(41) 宗旨大路、(42) 德山密、(43) 夾山松子、(44) 玄沙三白紙、(45) 南泉茅鎌子、(46) 黄蘗大義渡、(47) 雲門一曲、(48) 趙州地獄、(49) 慈明愛婆(類則婆子勘破)、(50) 庐山面目、(51) 南山十八上活計、(52) 青原一足垂下、(53) 達磨面壁、(54) 達磨隻履類則拳揚別也、(55) 三輪清浄、(56) 三喫茶、(57) 翠岩眉毛撥開、(58) 雲門三句、(59) 洞山麻三斤、(60) 栢樹子、(61) 乾屎橛(三則同)、(62) 臨濟三年不被位、(63) 七堅女類則也(臨濟ノ禅ワ、此類則二見ヘシ)、(64) 二僧捲簾、(65) 兜率三関、(66) 趙州無、(67) 世間空佛性空、(68) 蘿蔔、(69) 定上座佇立、(70) 不墮死活、(71) 布衫、(72) 四門、(73) 法眼自己(類則也)、(74) 惠超問佛(同上)、(75) 丙丁童子来求火、(76) 愛我韶陽——機、(77) 一生為人——橛(類則)、(78) 雲門十五日、(79) 堅固法身、(80) 雲門東家人、(81) 七種劔(類則)、(82) 無寒暑、(83) 馬祖不安、(84) 倩女離魂、(85) 大力量人、(86) 鳥窠布毛(類則)、(87) 紙燭吹滅、(88) 睦州擔板漢、(89) 當人濁中清、(90) 傅大士講經(類則)、(91) 般若多羅講經、(92) 居一切時不起忘念、(93) 黄蘗六十棒、(94) 入門棒、(95) 棒喝二行、(96) 雲門折脚(類則)、(97) 一簇破三関、(98) 雲門須弥山、(99) 剎賓國王、(100) 百姓日々用不知、(101) 黄蘗唾酒槽、(102) 雲峰輕馱我、(103) 石霜七去、(104) 南泉牡丹花、(105) 雪峰三處相見、(106) 普化鈴鐸、(107) 并直綴、(108) 臥輪惠能、(109) 方法不侶、

(110) 龐居士辞藥山、(111) 趙州洗鉢孟、(112) 黄蘗三日耳聾(類則)、(113) 丈吐舌(又)、(114) 百丈卷席、(115) 百丈野鴨子、(116) 馬祖陞堂、(117) 作家鉢用、(118) 室内一盞燈(類則)、(119) 紙燭無油、(120) 大悲千手眼、(121) 百丈野狐、(122) 墨汁双彩、(123) 玄沙指頭築破、(124) 洞山雲岩忌齋、(125) 洞山土地神、(126) 南泉土地神、(127) 虎口裡活在兒、(128) 鐘声七條、(129) 国師三喚、(130) 二庵主堪婆、(131) 滙生漚滅、(132) 無縫境、(133) 雪峰住菴、(134) 臨濟無位、(135) 滄山水牯牛、(136) 香巖樹上、(137) 三體構、(138) 瑞岩主人、(139) 投子大死底、(140) 胡子無鬚、(141) 趙州初生孩兒、(142) 六祖風幡、(143) 丹靄木佛、(144) 無情說法、(145) 南泉斬猫兒、(146) 奚仲造車、(147) 南泉鍋子、(148) 同床皮袋、(149) 後八句、(150) 趙州無、(151) 風穴通不犯、(152) 身心脱落、(153) 本来病、(154) 趙州東院西、(155) 生来不死、(156) 山河大地、(157) 馬祖四句百非、(158) 本来面目、(159) 二返消災咒、(160) 上来参、(161) 回向参、(162) 念誦参、(163) 夜参

百廿八則

(※番号は筆者が付す)

円応寺にも、「石屋門派桃岳派本参目録」と言う一紙の切紙が存在する。

石屋派桃岳派本参目録

最初之一関。大死底句(於此類則是多)、非思量一句、首山竹篋、生来処 死版処、佛性空世間空、衲僧生死去来、御影之参、趙州東院西、泰山廟裡。佛祖之一関。功之点処(於此類則是多)、臥輪之偈、惠能之偈、葵柳節□、曹山道休、達磨不識話。

向上之一関。徳山托鉢へ於此類則是多、世尊拈華、□上大悟、天下三人賊、是三関也。

此□六則「」則古則也。

家之大事「」参、一辺消災呪

此外之参「」

(□は一字分、「」は二字以上の虫損もしくは判読不能であることを示す)

資料の状態が悪く、解読不能の所もあるが、これに依れば、石屋派下の桃岳派においては、独自の「三関」が設定され、これに契合すると印可状が附授されていたと思われる。貞享二年(一六八五)正月に法義が義(祇)春へ与えた「罷参頌」を次に掲げる。

石屋一派之三関通徹之所、悉以印證畢。

罷参頌云、

截断葛藤禪、依旧自在眠。

蘆花与明月、一一是家傳。

皆貞享二年正月日 法義(花押)

授附 (印)(印)

義春首座

地方展開を遂げた林下曹洞宗各派は、公案参学を中心とする独自の教学的体系を有していたと思われる。関東を中心に展開した了庵派下の各派については、別稿を以って考察する

中世曹洞宗における本参研究序説(二)(飯塚)

こととして、石屋派同様、独自の公案体系を有していたと思われる正法寺蔵(岩手県)『月泉派秘参』二種の公案目録を取り上げて、比較の対象としたい。月泉派は、正法寺開山の無底良韶の跡を刷いだ月泉良印を派祖とする一派であり、公案参学を主とする独自の教学体系を有していたと思われる。又、既に石川力山氏によって、最も大部であり且つ体系的な参話目録である『永平寺総目録』が紹介されている⁽¹⁰⁾。この永平寺に蔵されている公案の目録については、石屋派の寺院である円応寺においても、寛文年間に伝写されていることから、ある時期から各派独自の公案参学の体系は画一化されていく傾向にあったことを示唆するものと言える。

以下、正法寺蔵の『月泉派秘参』の公案目録を掲げる。

(A)正法寺蔵『月泉派秘参』(折本一冊、元和二年写。成岩良圓所持本)

- (1) 趙州地獄、(2) 芭蕉拄杖、(3) 啐啄同時、(4) 寶鏡三昧疊變參、(5) 生下未分話、(6) 見明星悟道、(7) 擊竹悟道、(8) 見桃花悟道、(9) 胡子無鬚、(10) 上来之話、(11) 一卓之話、(12) 兜率三関、(13) 雲門話墮、(14) 雲門六不收、(15) 諸佛出身、(16) 非思量之話、(17) 南泉斬猫、(18) 智不是道、(19) 俱胝一指、(20) 趙州洗鉢盂、(21) 至道無難、(22) 指頭築破、(23) 心路絶却、(24) 勘破之話、(25) 無之字話、(26) 観音三昧、(27) 乾峯一路、(28) 百丈野狐、(29) 心身脱落(夜参)、(30) 石霜七去、(31) 臨濟四喝、(32) (偏正五位)、(33) 宏智四借、(34) 那時三人、(35) 甘露甘

(36) 小悟無数

〔十八則 三段〕

- (37) 世尊拈華、(38) 孤峰不白、(39) 六祖不階級、(40) 五祖演他是阿誰、
- (41) 栢樹子、(42) 南岳得力句、(43) 道吾智不到、(44) 万法不侶、(45) 船子
- 夾山、(46) 外道問佛、(47) 德山吸尽去也、(48) 曹洞機、(49) 万機休罷、
- (50) 乾峯三種、(51) 香巖樹上、(52) 瑞岩主人公、(53) 馬祖不安、(54) 南泉
- 牡丹花、

(B) 正法寺蔵『月泉派秘参』(折本一冊。大休良通所持本)

〔十一則之話頭〕

- (1) 露柱裂破、(2) 自己三関、(3) 香巖樹上、(4) 劍刃上話、(5) 牛窓櫺
- 之話、(6) 孤峰不白、(7) 妄智寂之三関、(9) 西来五字、(9) 六外一
- 句、(10) 宏智八句、(11) 後八句、

〔十則正法眼蔵〕

- (12) 第一、拈華話、(13) 第二、迦葉利竿話、(14) 第三、武帝達磨、(15)
- 第四、聖諦亦不為、(16) 第五、洞山無情話、(17) 第六、々外話、(18)
- 第七、倩女離魂、(19) 第八、托鉢下堂、(20) 第九、枕头推出話、(21)
- 第十、夾山道不會、

〔月泉派獨則之透〕

- (22) 趙州地獄、(23) 芭蕉拄杖、(24) 啐啄同時、(25) 寶鏡三昧晝夜參、(26)
- 生下未分話、(27) 見明星悟道、(28) 擊竹悟道、(29) 見桃花悟道、(30) 胡
- 子無鬚、(31) 上來話、(32) 一卓之話、(33) 兜率三関、(34) 雲門話墮、(35)
- 雲門六不收、(36) 諸佛出身、(37) 非思量之話、(38) 南泉斬猫、(39) 智不

- 是道、(40) 俱胝一指、(41) 趙州洗鉢盂、(42) 至道無難、(43) 指頭築破、
- (44) 心路絶却、(45) 勘破話、(46) 無之字話、(47) 觀音三昧、(48) 乾峯一
- 路、(49) 百丈野狐、(50) 夜參(心身脱落)、(51) 石霜七去、(52) 臨濟四
- 喝、(53) 偏正五位、(54) 宏智四借、(55) 那時三人、(56) 甘露卷、(57)
- 小悟無数、

〔其外曹洞三種名〕

- (58) 世尊拈華、(59) 孤峰不白、(60) 六祖不階級、(61) 五祖演他是誰、(62)
- 栢樹子、(63) 南岳得力句、(64) 道吾智不到、(65) 万法不侶、(66) 船子夾
- 山、(67) 外道問佛、(68) 德山吸尽去也、(69) 曹洞機、(70) 万機休罷、(71)
- 乾峯三種病、(72) 香巖樹上、(73) 瑞岩主人公、(74) 馬祖不安、(75) 南泉
- 牡丹花、

(A)(B)に共通するのは、(A)において「月泉派之獨則」とされる三十六則と、「十八規、三段」(B)では、「曹洞三種名」の十八則である。(B)では、更に「十一則之話頭」、「十則正法眼蔵」が収載されている。月泉派においては、「獨則」と呼称される一則毎の公案の集合体と、幾つかの公案がまとまって一つの体系と見なされていたもの(「透(透句)」)の二種類があったことがわかる。後者の代表的なものとしては、「曹洞三位」および「曹洞五位」が挙げられる。「獨則」もまた各派毎に独自の体系の中に位置づけられていた。例えば、真岩派下の大輝派においては、百四十五則の話頭が「最初三十九則」「中参三十八則」「上参六十八則」に分類されており、

そのほかに「余参」数則を挙げている。前述の『永平寺総目録』も三段階の構成であったように、「透参」「透句」と言われる本参はその名称は異なるが、三段階の構成をとることが多い。

『月泉派秘参』に採り上げられている「十則正法眼蔵」については、後半において考察してみたい。

四、透句について

「透句」の資料としては、大安寺蔵『四十八透』⁽¹¹⁾（仮題）、龍泰寺蔵「龍泰禅寺句参透り」⁽¹²⁾（『祥雲山龍泰禅寺門徒秘参』所収）等が知られている。又、円応寺にも、「透句」の資料として『二十七通句』（仮題）が存する。本書については、末尾に資料を翻刻する。

先ず大安寺蔵の「透句」について、少しく見てみたい。本書の奥書には、

于時天正拾九（辛卯）（一五九二）歳四月十五日書之了。

大安二代与付珊藝者也。

とあり、室町時代末期成立の写本であることがわかる。その目録を掲げれば、以下の通りである

透句之目録へ枯木龍吟同位也。雖^レ然、句之法様ヲ以テ、別処

ニ位ヲ明ス。語言三昧如^レ是也。

中世曹洞宗における本参研究序説（二）（飯塚）

壹、相續之透。貳、祖教之兩位。参、五家之宗風。肆、接處師家生涯。伍、真正挙揚。陸、丈夫之透。漆、見地之透。捌、自己大錯之筋目。玖、自己之當頭。拾、自己之轉處。十一、真照渊源。十二、智不到。十三、功之轉處。十四、不轉々處。十五、智不到之渊源。十六、這邊之句。十七、合面睡着。へ付陰陽和合處。十八、那時之消息。十九、貧處涸底。廿、一句三位。廿一、位裡轉側。廿二、正中來之圖。廿三、却來消息へ付這裡行履。廿四、枯木龍吟。廿五、一陽來覆。廿六、觀音三昧。廿七、徧正理事。廿八、七種之誰。廿九、坐禅三昧へ付虛寂。三十、全太平へ那時合。卅一、乱後之太平。卅二、將軍令へ不轉、合。卅三、美人賊へ付賊手段。卅四、愁意。卅五、不犯之愁へ付不犯通。卅六、聖人之透。卅七、賢人之透。卅八、無事道人へ付行履。卅九、泯處へ脱体平常。四十、用之筋目。四十一、異類之透へ四種共ニ。四十二、無心之作用。四十三、末後牢関へ付色相本分。以上四十八透在之。丁数以上六十丁。

（※へ ⅴ内は、割註）

『四十八透』と仮題を付したが、上記の「透句之目録」には、「四十三透」迄しか見えず、その末尾に「以上四十八透在之」とあるのと相応しない。また、本文において取り上げられている透句は、「卅七透」迄でしかない。これら目録と本文との相違は、何に起因するのか、今のところ判然としな

い 「透句」の項目について、本文において、その総てではないが註記が付されている。

八、自己大錯之筋目へ此入ハニ、大節ノ諦訛アリ。出身ノ入派、脱体入派、兩位分明ニ眼ヲ著テ看ヨ。一向ニ不洒自己、又自己、目前一致自己、三段トモニ、諦訛分明ニスベシ。三透リトモニアリ。破自己、自己、目前一致ノ自己。〳

九、當頭不傾處……へ三位トモニアリ。又、三位透過ニ不レ在。〳

拾、自己点處、真照淵源へ此ノ位ヲ十分ノ知不到ニミベカラズ。自己デ大波ヲユリシヅムルサカイ也。爰ノ雲ト云ハ、迷雲也。功トミベカラズ。〳

拾一、知不到功へ点處ノ智不到、不点ノ智不到、能クノ眼ヲ付ミベシ。功ノ点處トミベカラズ。智不到ノ削リ派、三透リトモニ。〳

十二、功之轉處へ此ノ以前ノ功ノ地ニマギルムアルベシ。天地懸隔也。大切ノ節角多シ。亦タ智不到ノ淵源ト、功ノ点處ト、諦訛節角付レ眼見ヨ。〳

上来の記述に見るように、本書「透句」の体系が「曹洞三位」のそれと密接に関連していることがわかる。ちなみに、円応寺蔵の抄物で「曹洞三位」に関するものとしては、『靈

機宏聖道 三位之次第』があり、次稿で取りあげたい。次に本文の形式について、「第一透句」を例としてみてみたい。

壹、相續之透

- (1) 世尊於ニ多子塔前、以テ僧伽黎開、迦葉分ニ半座。
- (2) 二頭照鷄點ニ火燭、師資相逢傳ニ心法。
- (3) 根基牢實血脉貫通、金鎖連環相續不斷。曹山録在之。
- (4) 変葉連枝億千歳、二株頼桂久昌昌。類聚在之。大陽不断命答話也。

- (5) 黄梅第一枝折得、暗香親充ニ老蘆衣。詩格在之。
- (6) 須知一本能双軒、始信千へ枝・見〳与ニ万孫。類在之。
- (7) 衣到ニ老蘆長把住、法從ニ少室廣流傳。貞和集在之。
- (8) 威音以前無ニ授受、釋迦曲落ニ然燈後。欲了庵在之。
- (9) 孫枝々上長ニ枝葉、億万此時蔭ニ祖庭。大恵録在之。
- (10) 青原剔ニ起 五世灯、全非ニ九到与ニ三登。賛雪峯。
- (11) 洞上家風續ニ正傳、金針暗把ニ線芒ニ穿。大智録在之。
- (12) 箇得青原鋤斧兒、南臺石上鋤荒草。
- (13) 碧天雲散祖風涼、佛日光輝舜日長。類十二在之。
- (14) 門風大振兮規步綿々、父子變通兮聲光浩浩。宏智在之。
- (15) 獨紹ニ陽廣之踵、自舉ニ鍛鍊之劍。投子録在之。
- (16) 全因ニ淮池月、照ニ得郢陽春。
- (17) 燃灯佛性釋迦師自明。宏智録在之。
- (18) 六代傳衣到ニ野僧、千季繼レ踵 嶺南能。大智録在之。
- (19) 好手々中呈ニ好手、紅心々裡中ニ紅心。

(20) 昔日靈山正法眼、聯芳續_レ焰至_レ今傳。

(21) 曹溪一派激_ス荷玉_一、少林一花開_ニ曹山_一。

(22) 世尊拈花而妙心傳、迦葉、達磨面壁宗旨付_ニ神光_一。 會元_ニ在之。

(23) 鋤斧持來便住山、斫開南岳好峰巒。

(24) 瞿曇錯受_ニ燃灯記_一、續_レ焰聯芳累_ニ児孫_一。

(25) 唱_ニ起新豊雪曲_一、排_ニ成洞上妙灯_一。 投子録在之。

(26) 飲光正脉付傳後、笑跋機前點_ニ異芳_一。 同録在之。

(27) 世主大檀能藻鑒、靈山嘉會愈增輝。 類帝王在之。

(28) 玉樹連枝万季末、金鶴飛_レ梢一樣桐。 点鉄集在之。

(29) 祥生_ニ禪苑_一千峰秀、瑞遶_ニ嘉州_一万疊新。 普灯無縫塔ノ答話也。

(30) 歴切何曾異_ニ今日_一、巍々常在_ニ鷲頭山_一。 点鉄集在之。

(31) 獅子窟中獅子兒、梅檀林裡梅檀樹。 同録在之。

(32) 多子塔前有_ニ消息_一、夜深星月遶_ニ簷前_一。

(33) 切外春風喚得回、五葉千葩何爛々。 欲了庵在之。

(34) 譬如_ニ車輪之轉_一、半輻不_レ轉半輻轉。

(35) 梅檀林裡拈_ニ一枝_一、閻浮堂中分_ニ半座_一。

(36) 靈枝四七切外抽_ニ春色_一、竒葩_ニ三壺中池_一芬芳。

(37) 半座半分多子塔、密傳金縷_ニ衲袈裟_一。

(38) 全憑_ニ夙植_一善根力、億万斯_ニ季奕葉新_一。 印月江在之。

(39) 悟本正脉粗統僅_ニ存_一、大陽本宗幾債_ニ復起_一。

(40) 祖歆統時光燦々、覺_ニ花開處葉重々_一。 傳灯在之。

(41) 臨濟命根元不_レ断、一條紅線手中牽。 林才録在之。

(42) 潛行密用如_レ愚如_レ駟、只能相續_ニ名主中主_一。 人天眼目在之。

(43) 靈山卓池紅蓮開、白眉老翁咲未_レ歇。

(44) 五葉花開瑞色新、挽回_ニ千古少林春_一。 宏智語也。

(45) 古今流通無_ニ間断_一、枝々葉々盡芬芳。 拈花頌也。

(46) 當堂不_レ露主人翁、借_レ影全頭第一座。

(47) 祖室傳來行_ニ正令_一、撥_ニ發靈芽_一徧地春。 普灯在之。

(48) 夜半忽相逢、葛藤長_ニ万丈_一。 〈吹滅之記〉

(49) 枯花破顔、一筆句下。

(50) 密戸寒灯曉、靈衣古洞春。 〈天童録在之〉

(51) 一夜落花雨、滿城流水香。

(52) 異苗繁茂處、深密_ニ固_一靈根。 〈投子録在之〉

(53) 師資相見、命脉流通。

(54) 有_レ種不_レ知_レ種、其種絶_ニ外来_一。

(55) 有道傳_ニ天位_一、鳳凰不_レ汲池。

本書は、項目毎に透句とその典故とを記載しており、透句箇々についての註釈は余りなされていない。円応寺本が、各透句毎に註釈を付しているのと対照的である。本書の「透句」の出典については、了庵派下の各派において盛んに製作された「代語」資料のそれと傾向を同じくしている。「透句」と「代語」との関係は、緊密なものであると思う。これらの下語の習熟が、本参や切紙における参話を可能にし、語録の

代替としての「代語」を成立させたとも言い得るのではないだろうか。もちろん一方向的な影響関係ではとらえられない複雑さは念頭に置かねばならないのだが。

次に、「祥雲山龍泰禅寺句参透り」を取り上げてみたい。

石川力山氏は、本書について、『句参透り』の標題からわかるように、禅の慣用句に下される著語・代語を集めたもので、二六七種の句に対する代語集である」とされた。因みに、本書冒頭の五句を掲げれば以下の通りである。

(1) 〇満眼青山無寸樹ヲ。代、尽大地ガ、此ノ一老樹デ走。向

ミレバ、寸樹走。心ハ、坐禅ノ正當也。

(2) 〇破有法王ヲ。代、初生ノ孩子デ走。

(3) 〇出現世間ヲ。代、柳緑花紅、ト分テ走。〇又云、有ノ法王ヲ破レバ、無法迄走。

(4) 〇八識田中下ニ刀ヲ。代、一色明辺ヲマツ十分ト持テ走。

師云、一刀ノ下シ羊ヲ。代、極ムレバ、変ノ走。又云、八識

田中ヲ。代、学、師ヲ 躍ノケテナヲル也。師云、一刀ノ

下シ羊ヲ。代、駕鷲瓦上——夢裡驚。

(5) 〇現成公案遍情三十棒ヲ。代、昨日ハ今日ニ送り、今日ハ

アスニ送り、満頭ノ白髪シタハ、サテ何ントシタ道理ゾ、

くト、心頭ニ引上セテ看テ走。

又、石川氏は、本書の形式と内容について、「師家と学人の一対一の場における入室参禅の方法を記したものであり、

右に掲げた一句一語が、すべて独立の古則としての扱いを受けている」として、『祥雲山龍泰禅寺句参透り』は、形式としては代語集であるが、内容的には門参として扱われていた」と結論づけている。

最後に円應寺蔵『二十七透句』について見てみたい。その奥書に、

勝岩叟 (印) (印)

生年八十四

圓應室中法衣箱置之 華嶽藝叟 (花押)

とあることから、本書は円應寺五世勝岩宗守 (慶長五年へ一六〇〇) 三月十六日示寂) の書写に掛かり、次第相伝して、八世華嶽宗藝 (寛文五年へ一六六五) 八月二十三日示寂) に至って、円應寺室中に収められたことがわかる。本書の内容は、透句毎に註釈が付されており、その意味で「句双子」とも言うべきものである。その目次を掲げれば以下の通りである。

〈目次〉

- 一、言不言之通、二、道不得之通、三、幻化之通、四、性之通、五、透無之通、六、早見之通、七、真空之通、八、上在之通、九、不替之通、十、心轉之通、十一、物心不知之通、十二、多之通、十三、徒者之通、十四、徹底之通、十五、仕合之通、十六、一理々々之通、十七、不移易通、十八、我假通、十九、不雕琢通、二十、手不出通、廿一、貧處通、廿二、心歸心

通、廿三、窮變通、廿四、不生滅通、廿五、極位之通、廿六、其俱之通、廿七、不惜他力通、

先に見た大安寺の「透句」の項目と合致するものはない。

「透句」についても、各派毎に独自の体系があったものと思われる。透句については、前途の「透参」との関連を考慮すべきだと思われる。「夜参二十七透」のように、夜参が修行のカリキュラムに取り入れられて以降、その性格を次第に変化させ、やがて本参の中に吸収されていった過程を「透句」もたどったと思われる。「夜参」の位置づけを行う切紙資料の存在がそのまま当時の現実を写し出しているとは言い切れず、「夜参」と「本参」の公案解釈が著しく異なっているとも思われないことから、いずれも広義の「本参」に位置づけたい。

次に本文に付いてみてみたい。全容については、後掲の翻刻資料を見ていただくとして、一例として「念一、貧處之通」を取り上げてみたい。

念一、貧處之通

蓋膽毛有多少。へ是モ、胸中ニ何モナイゾ、ト云理也。心間ニワ、毛ガ有事ワ不知、佛法・世法トモ尽タ理也。〳

曾經巴峽猿啼處、鉄鎖心肝寸断腸。へ心肝ニ一世更ナキ也。如何ナル鉄鎖心肝ナリトモ有ラバ、巴江テワ、断腸スベキゾ。ト云ワ、一点モ心肝ニナキ程ニ、三峽ヲ過ルトモ、断腸スルマシ

中世曹洞宗における本参研究序説(二)(飯塚)

キゾ。ト云ワ、胸中ニ佛法モ世法モナイ證拠也。宗旨ノヲク心ナリ。〳

打地柴擲^ツ竈底^ニへ胸中ニ一言モ可^レ言更カナキ呈ニ、只打^レ地、ソバヘヨセツケヌゾ。アマリニガコナ程ニ、有^レ様サウニシタゾ。一日僧ニ棒ヲ奪^レテ後ニ、ロヲハル也。胸中ニワ、腹ノワタワシラス、ト云理ナリ。〳

趙州東壁掛胡芦へ何テモアレ、胸中ニモノヲ持ヌ、ト云理也。少モ中ニアラバ、胡芦デワナシ。佛法世法共ニ、一点モナシ。是ガ向上ナリ。〳

取柴一片擲^ニ在釜中^ニへ釜中ニ柴ヲ入テ、ニヘキ事ワ不知、ト云心也。又覺隠派ニワ、看目ノ手ニミル也。后ニ、ロヲハツタルワ、目クラノタメニワ、ロガ眼コ也。何ニモ問テ心得ル程ニ、柴ヲ釜中ニ入ルモ、目暗ノ證拠ナリ。〳

秘魔懷中撞入云、三千里外賺來我へ胸中ニ何モナキ程ニ、道得モ道不得モ、杖下死ト、ヤウアリサウニノ、人ヲヨセ付ヌナリ。大禪佛祖之頭ヲ懷エツキ入テミレバ、真个何モナキ呈ニコゾ、三千里外賺來我、ト云ナリ。〳

明朝依^レ樣昼猫兒へ是モ、我カ処ニ、何モナキ程ニ、胡芦也。少シモ在バ、ヲシアテ^レ可^レ移ゾ、ト云理ナリ。〳

明朝依^レ樣昼猫兒へ是モ、移ノミスヘキ、ト云タワ、此ニ可^レ見更ワナン、迄ナリ。〳

為後人作^ス勝^様へ是モ、臨^濟ノ、余リニシユウス更カナキ呈ニ、松ヲ種テ為^ニ後人^一作勝、ト云也。是ワ、只居ヨリワ、拳ス

也。)

本書の性格については、先にも述べたように「句双子」に類似し、所謂「語録抄」の範疇にも入るべきものかとも考えたが、透過すべき公案の体系が前提されていること、龍泰寺蔵本のように師資の間に為される問答形式のものも存することから、本参として扱うこととした。ちなみに、前述の円応寺蔵『秘録』に所載の「句双子」が本書に相応すると思われる。

五、『秘密正法眼蔵』について

十則の公案に対する拈提の記録である『秘密正法眼蔵』は、中世曹洞宗における教学を考える上で、重要な意味を持つものと思われる。⁽¹⁴⁾即ち本書は公案禅受容の歴史の中でどのように位置づけられるべきなのか問題となる。残念ながら、私には未だ不明であると言いか言いようがない。本稿では取り上げることはできなかったが、室町時代の比較的早い時期に成立した秘書的性格のものとして、瑩山紹瑾や峨山韶碩にその撰述及び註釈が擬せられる抄物数種が知られている。前者に擬せられるものに『秘密正法眼蔵』『報恩録』があり、後者のそれには『山雲海月』『自得暉抄』『人天眼目代語』『天童小参抄』等が挙げられる。⁽¹⁵⁾これらを参考にして、『秘密正

法眼蔵』は位置づけられないかというのが私自身の課題である。さて、『秘密正法眼蔵』の跋文に

学人須欲成大善知識、先参此十則大事。若参不得、未許稱吾
児孫。實哉斯言、可秘矣。
(円応寺蔵本)

とあることから、本書が漢文の本参として秘書的性格を有することは十分に想像できる。私は、本書に収載されている十則の公案(漢文の本参)がやがて漢字仮名交じりの本参へと展開していったひとつの事例として呈示したいと思う。これらは、切紙の多くが道元や瑩山あるいは如浄よりの传的密旨であることを主張するのと軌を一にしているように思われる。室町時代において、林下の曹洞宗各派、大徳寺派、妙心寺派、及び幻住派は、一様に公案禅を標榜していた。本参や密参録といった秘密伝授の書が多く抄出された意味は大きいと思われる、その歴史的背景とその思想的意味づけはもう一度考え直されるべきである。特に曹洞宗の場合は、事情が少し複雑である。道元の主張と相容れない公案禅を標榜し始めた室町時代の禅者は、内実はともあれ開祖である道元をあくからさまに否定にすることはできなかった。しかし、彼らは時代の要請する思想にもいち早く対応しなければならなかったのである。それは、中国の宋代において既にそうであったように、曹洞宗の宗風は五位の思想によって代表されると言った認識が、この時代には五山の宏智派を中心に定着しており、

常識となっていた。彼らは、道元の主張を楯に五位説の否定へと向かったのであろうか。事情は異なるように思われる。当時の権威である五山に対抗するほどに、林下曹洞宗は教团的にも十分に組織化されてはおらず、教学的にも成熟をみていなかったと思われる。曹洞宗各派は地方展開の途上であり、『正法眼蔵』を中心に語られるべき道元の思想とは別個に、時代に適応した五位の思想を道元・瑩山の口をして語らせ、それをもってその思想の正当性と権威とを獲得しようとしたのである。五位については、傑堂能勝、南英謙宗の著作とされるものが伝えられているが、これらの主張と、おそらくは『人天眼目』にみられる五位関連の叙述とは齟齬する側面もあると思われる。両者の関係については今後研究が進められなければならないと思う。私は、五位に関連して、『人天眼目抄』を中心にその受容について考察したが、⁽¹⁶⁾語録抄と本参資料との照合は未だ怠惰にして進んでいない。上巻の説はあくまで私見であり、資料による裏付けが今後なされなければならない課題である。稿を改めて論じたい。

さて、『秘密正法眼蔵』は漢文の門参として早い時期に成立したと考えられる。それは、本書の註釈書としては傑堂能勝による『秘密正法眼蔵註解』があり、さらにその法嗣南英謙宗（一三八七〜一四五九）撰述の『傳法偈下語』にも本書の拈提が瑩山の語として引用されているからである。又、義雲

の撰述に擬せられる『永平頂王三昧記』（以下『三昧記』）と本書との関係は注目すべきものである。⁽¹⁷⁾本書に収載されている公案と『三昧記』のそれとは、共通するものが七則みられる。『三昧記』は、古則話頭五十三則を集め、これらの公案の拈提を記録したものである。冒頭に「永平頂王三昧記、五十三則之目錄」があり、次いで、

越州吉祥山永平寺秘密頂王三昧記、太白峰記在之

門人 永平老衲 義雲述

と記され、さらに義雲の序とされるものが続く。『三昧記』については、ここでは触れられないが、特に「太白峰記」との関係において注目すべきと思われる。「太白峰記」との関係が知られているものに、『山雲海月』（延宝五年版）『梅華嗣書』（『陞座』）が知られている。しかしながら「太白峰記」については、その実体は判然としていない。⁽¹⁸⁾今後資料発掘に努めたい。

次に、『秘密正法眼蔵』が本参として機能していった事例として、以下の諸本を紹介したい。円応寺蔵『十則正法眼并抄』（円応寺本「本文」）「円応寺本「抄」」、傑堂能勝に擬せられる『秘密正法眼蔵註解』（「註解」）『續曹洞宗全書』（「注解一」）、龍泰寺蔵『祥雲山龍泰禅寺門徒秘参』所収「十則正法眼」（「龍泰寺本」、慶長十二年へ一六〇七）中岩正的書写）、正法寺蔵『月泉派極参』所収「十則正法眼蔵」（「正法寺本」、大休良通

所持本)、大安寺蔵『本参』所収「十則正法眼」(「大安寺本」)を対照してみた。『秘密正法眼蔵』が室町時代前半より盛んに参ぜられてきたが、瑩山の拈提の語に必ずしも依拠しない形へと変容していったものと思われる。円応寺本で顕著であるが、当時における撥草参玄の行脚が前提されているので、各派独自の解釈が他派との接触を契機として、自説の正当性の主張や批判的検討が作されている点に注目すべきものと思われる。

【註】

(1) 拙稿「中世曹洞宗における本参資料研究序説(一)」(『禅

学研究』第七六號、一九九八・三)

円応寺所蔵の禅籍抄物を資料として、本参の成立過程について分析を試みたものである。すなわち、語録抄から代語・本参へ、更に代語・本参から切紙へという、洞門抄物における変遷の枠組を設定し、資料を通して検証しようとしたが、十分な考察をなし得なかった。

(2) 安藤嘉則「中世曹洞宗における代語文献の研究(一)〜(四)」

- (一) 『駒沢女子短期大学研究紀要』二八号、一九九五・三。
- (二) 『宗学研究紀要』二六号、一九九五・七。
- (三) 『駒沢女子短期大学研究紀要』二九号、一九九六・三。
- (四) 『駒澤大学禅研究所年報』七

号、一九九七・三)

同 「洞門抄物の資料覚書」(『日本印度学仏教学研究』四三卷二号、一九九五・三)

(3) 石川力山「『円応中興了然大和尚法語』について」(『宗学研究』二三号、一九八一・三)

本書の外にも、円応寺には書名が確定できない「代語」が一冊現存する。また、開山以下の簡単な伝記を記す書には、円応寺三世玖崗桃珉(元龜二年へ一五七一)示寂)に「代語集数巻」があったとする。

ちなみに「語録抄」を多数抄出した派として知られる天真派においても、応仁・文明の乱以前に成立したと思われる「代語」資料が存在する。大見禅龍の「代語」と思われるものが、長興寺(長野県塩尻市洗馬)に蔵されている。

(4) 円応寺は、永正十六年(一五一九)塚崎(武雄)地方を領有していた後藤伯耆守純明(円応寺殿月湖浄圓居士、天文二十二年三月十八日没)が、後藤家累代の菩提を供養するために、長州大寧寺九世の天甫存佐の法嗣である了然永超(一四四七〜一五五一)を招請して開創した寺院である。佐賀藩鍋島家の菩提寺であり、歴代藩主の廟が現存する。

ちなみに、円応寺所蔵の一書に、円応寺開山以下の簡単な伝記を記すものがある。その表紙には、足翁永満以下の宗派図が記されており、冒頭には、永正十六年四月十五日の結制上堂語が記録されている。さらに上堂語に続く記述によれば、了然永超

が円応寺に住するに至った経緯は次のようであったとする。即ち永超は老岐の人であり出自は詳らかではない。天甫存佐禅師（天寧寺九世）に従事し、法を嗣いだ。当国（肥前）に至り、高瀬村慈恩寺に住する。そのような折り、（当地の領主である）後藤純明は荒廃していた円応寺の伽藍を修復して、新たに長弘寺虎巖隆和尚（臨濟宗）を住持に招請した。隆和尚はその命を固辞し、逆に曹洞宗派下の有道の師である永超を推挙した。純明はその言葉に従い、永超を遇することきわめて厚かった。その著作としては、自筆頌古集二卷、拔萃四卷、金剛經へ華岳和尚、自代語集一卷が室中に相伝していたという。了然は法を勝山禅殊に付与して後、慈恩寺に隠棲し、天文二十年辛亥八月十日八十一歳で示寂した。この書には、ほかに円応寺二世勝山禅殊（永禄八年八月六日示寂）、同三世玖岡桃珉（元亀二年九月五日示寂）、同五世勝巖宗守（宗殊）（慶長五年三月十六日示寂）、同九世松雲宗融等の記事が見える。本書は宗融の弟子によってまとめられたのではないかと思われる。ちなみに円応寺は、最初臨濟宗の寺として創建されたのではないかと思われる。それは後藤純明が初め虎巖和尚を招請したことからもうかがわれる。

又、円応寺は江戸期における曹洞宗の教学の再編を企図したとされる月舟宗胡（一六一八〜九六）が出家剃髪した寺院でもあり、後に大乘寺に晋住した月舟は円応寺に『正法眼蔵』の写本を寄進している。円応寺所蔵の八十四卷本『正法眼蔵』（『永平

正法眼蔵蒐書大成』第五卷所収に、)以下の識語が見える。

「肥州杵嶋郡武雄善門山圓應寺／常住物／加州金澤相樹林現
大乘月舟胡叟／寄付焉(宗胡) 印 花押／延寶八庚申孟夏吉辰」。

(5)拙稿「潔堂派切紙に関する一試論」(『駒澤大學禪研究所年報』七号、一九九六・三)

(6)安藤嘉則「曹洞三位の研究(一)(二)」(『駒沢女子大学研究紀要』三号、一九九六・一二〜一九九七・一二)

同 「洞門抄物における夜參の研究」(『宗学研究所研究紀要』二四号、一九九三・九)

「曹洞三位」については、『靈機宏聖道三位之次第』を取りあげる予定であり、次稿で論ずるつもりである。

(7)石川力山「肥前円応寺所蔵の門参資料」(『印度学仏教学研究』二九卷二号、一九八一・三)

同 「肥前円応寺所蔵『大菴和尚法語』について」(『宗学研究』二二号、一九八〇・三)

同 「峨山和尚誦抄『自得暉録』について」(『宗教学論集』第九輯、一九七九・三)

石川力山氏による円応寺所蔵の門参資料の紹介以降、了庵派下の諸派、地域的には関東中心であった洞門抄物研究が大きく転換していくことになる。

(8)石川力山「肥前円応寺所蔵の『山雲海月図』について」(『曹洞宗研究員研究生研究紀要』第十一号、一九七九・八)

同 「峨山和尚『山雲海月』について」(『日本印度学仏教

学研究』二八巻二号、一九八〇・三)

拙稿「円応寺所蔵の抄物資料について」(『宗学研究』四〇号、一九九八・三)

同「円応寺蔵『山雲海月圖』について」(『曹洞宗研究員

研究紀要』二九号、一九九八・一二)

松田陽志・桐野好覚他『山雲海月』研究序説」(『曹洞宗研究員研究紀要』一二号、一九九八・一〇)

円応寺蔵の『未語尽情』は、表紙に打付けにその書名が記されているが、内題に「山雲海月圖一〇五」とあるように、所謂『山雲海月』と同本である。従来は延宝五年版本を中心に考察されてきたが、円応寺本はこれと系統を異にする。本書は享徳二年(一四五三)三月二日書写本を、文明十一年(一四七九)六月に再写したものであり、管見のものとしては最も成立が早いものである。本書の特色としては、「山雲海月圖四・五」に漢文の本参が収載されている点にある。同じ石屋派の寺院である丈六寺(徳島県)にもやはり『山雲海月』が所蔵されており、円応寺本よりも更に多くの漢文の本参が増補されている。又、『山雲海月』は通幻派下における相伝の書であった言う伝承があり、瑩山紹瑾に擬せられる『報恩録』(大安寺蔵、慶長十二年写本、長興寺蔵本、円福寺本等)にも、『山雲海月』の本文が引用されている。

(9) 室町時代の比較的早い時期から『梅華嗣書』は独立した一書として、即ち本参として機能していたと思われる。『永平正法

眼藏蒐書大成』第四巻に所載されている永久文庫蔵本及び河村孝道氏蔵本(元亀二年写)は、いずれも室町時代の写本である。中でも永久文庫本は、『永平正法眼藏蒐書大成』「総目録」の解題によれば、石屋派下に伝えられたものであることが解る。その相伝の系譜は、石屋真梁(一三四五〜一四二三)——竹居正猷(一三八〇〜一四六一)——定菴殊禅(山口県瑞松菴二世、永享四年(一四三二)示寂)——仲翁守邦(瑞松菴四世中興、文安二年(一四五五)示寂)——雪岑守蓀(瑞松菴五世、長禄三年(一四五九)示寂)、と言うものであった。本書は、永享二年(一四三〇)正月七日に定菴から仲翁へと付嘱され、更に永享十二年(一四四〇)二月五日に仲翁から雪岑へと付嘱されたものである。二写本の外にも、管見の『梅華嗣書』としては、長興寺(長野県塩尻市)蔵本(室町時代末期、長国宗永写)、長年寺(群馬県)蔵本、静居寺(静岡県)蔵本等がある。現存しないが、円応寺にも『梅華嗣書』が相伝されていたことが、上掲の「秘録」にその書名が見えることによって確認できる。また本書は、代語資料にも引用されており、室町時代における曹洞宗の教学を考える上で重要な書である。本書の内容について言えば、五位説が曹洞宗における教学の中心をなすものであるという前提に立っていることが注目される。本書と「太白峰記」との関係を示す資料がある。『永平正法眼藏蒐書大成』第八巻所載の、見全本系に属する寛巖春登書写本(駒澤大学図書館蔵)には、「陞座」の巻が収められている。こ

の書には、「陞座」の巻名に注される形で次のように見える。

「此巻の寫本は、大白峰記といへる書籍のおくかきに、遠州たまなの金剛寺直傳叟四十五歳にして書すとあり。かの本お再傳して、そのうちにのりてあるを、いまここにのするものならし。」

更に、その奥書には、

「此巻の正本は、太白峰記の十三紙より、このまきあり。初に梅華嗣書とあり。まへの梅華のまき、嗣書のまきに、まきるるゆへに、五名のうち、陞座の名をもちふるものなり。」

とあることから、遠江国玉名の金剛寺直傳叟書写の『太白峰記』なる書が存在し、この巻はその第十三紙より梅華嗣書として掲載されていたことが解る。

(10)石川力山「中世曹洞宗切紙の分類試論(5)——叢林行事関係を中

心として(続)——

『永平總目錄』は、奥書に「球和尚以自筆書寫之／＼干時元和九(癸亥)年小春十八日」「干時慶長十一(丙午)年八月廿三祚球(花押)／傳附祚天座元／吉祥山永平禅寺総目錄之次第／堅可秘之／鎮徳寺現住雪庵叟(花押)」と見えることから、慶長十一年(一六〇六)八月二十三日、当時の永平寺十九世祚球から後の二十二世祚天へ伝授されたものと思われる。本書は二百三十七則の公案を「透之参」に配分したものである。「透」の項目と配分された公案の数とを以下に掲げる。「(1)自己(二十則)、(2)死活當頭之一句(十則)、(3)自己之点

中世曹洞宗における本参研究序説(二)(飯塚)

処之透(四則)、(4)自己本文之透(七則)、(5)自己醒処之透(六則)、(6)承當下活句之透(七則)、(7)自己目前一致之透(十則)、(8)忘智寂之三関之透(六則)、(9)自己真照渊源之透(八則)、(10)智不到之入派(二十二則)、(11)一句之智不到之透(十二則)、(12)智不到異弁眼之透(八則)、(13)智不到処路更轉々処(摩生(十則)、(14)智不到路不点(轉時作摩生(八則)、(15)不轉之轉之透(六則)、(16)徧正一致之透(十則)、(17)至到之諸訛之透(十則)、(18)那邊着到之等(六則)、(19)位裡点側之透(六則)、(20)阿誰之透(二十則)、(21)向上之古則(十四則)、(22)末後大用之透(八則)、(23)相續之段(十一則)」。本書の「透」は、三段階の構成であり、「三位之切紙」(永光寺蔵)や「夜参作法面七透之分」(同上)、あるいは「夜参盤」「曹洞三位」の本参等に於いて、「透」の項目が重なるものが多い。

(11)金田 弘「長野大安寺所蔵の洞門抄物類について」(『宗学研究』二〇号、一九七八・三)

(12)石川力山「美濃国龍泰寺所蔵の門参資料について(上)(中)(下)」(『駒澤大学仏教学部研究紀要』三七〜三九号、一九七九・三〜一九八一・三)

同「禅宗相傳資料・切紙資料を中心とする日本中世仏教の社会的機能に関する研究」(『平成七年度〜平成八年度研究費・補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書』九三〜九四頁)

本書の書冊形式は以下の通りである。

一、冊数 1冊

一、料紙 楮紙

一、大きさ 縦27・2センチメートル、横18・1センチメートル

一、装釘 袋綴

一、標題 「祥雲山龍泰禪寺門徒秘参全 中岩(花押)」

一、枚数 47丁(表紙1丁)

一、行字数 每半葉11行、1行30字前後

一、刊写 写本

一、書写年 慶長十二年(一六〇七)

一、筆者 龍泰寺十五世中巖正の

一、識語等 「無学和尚白庵」

「花叟派祥雲山龍泰寺本参也」

「皆慶長十二年未丁南呂拾一日於龍泰精舎衆寮書了」

「皆慶長十二白未丁小春吉辰」

上記は、石川氏前掲論文による。

(13)注(4)でとりあげた一書に、勝巖について以下の記述が見える。

「當寺五世勝巖禪師、諱宗守(守或作殊)、薩州人。遊歴東関二年久。飯國後、依品介和尚稟法。當寺道場元在淨圓寺東。到品介和尚住持時、罹兵火難、當堂宇燒尽。寺西北有高山(即今処也)。峰峦奇秀、泉流清潔。舊有精舎、号永徳寺。師就比古基、營殿堂、創此道場。至今爲當寺

中興祖。師當昔日平土時、有若干地藏大士塑像。從土中出。仍稱靈場、崇山門(高野大師所塑也)。附法勝鈍(當寺六世、上松浦梶山氏子、受業妙音寺天叢和尚)慶長五年庚子三月十六日、終于寺東了知軒(舊号号月庵)。春秋七十一(在山二十年退院後三年化)。師茶毘ノ後、平昔所持之念珠不焼、人皆稱奇。(下略)。

(14)石川力山「『秘密正法眼藏』について」(『宗学研究』二〇号、

一九七八・三)

同 「『秘密正法眼藏』再考」(『宗学研究』二一号、一九

七九・三)

石川氏は上記の論攷の中で、『秘密正法眼藏』を本参として位置づけ、室町時代における公案禅援用の歴史の中で位置づけられている。又、『永平寺秘密頂王三昧記』との相関関係を指摘し、『秘密正法眼藏』十則の公案拈提部分は通幻寂靈派下によって付加されたものではないかと推定されている。さらに本書所載の公案が新たな本参として展開していった例として、了庵派の門参である龍泰寺蔵本と石屋派の円応寺本についても言及されている。私は、石川氏の論攷によりながら、漢文抄から仮名抄へという洞門抄物の歴史的展開を跡づけてみたいと考えている。

(15)拙稿「禅籍抄物研究(一)」(『曹洞宗研究員研究紀要』一

一号、一九九七・一〇)

石川力山「『靈竺浄慈自得暉禅師語録抄』についての研究

(一)「(『駒澤大学仏教学部論集』二八号、一九九七・一〇)

(16)拙稿「大東急記念文庫蔵『人天眼目批卻集』について」

(『駒澤大学仏教学部論集』二七号、)

同「中世曹洞宗における『人天眼目』の受容について

(一)(二)「(『曹洞宗研究員研究紀要』二七号、二八号、一九九六・七〜一九九七・一〇)

(17)石川力山「義雲編とされる『永平頂王三昧記』について」

(『駒澤大学仏教学部論集』八号、一九七七・一〇)

同「『永平寺秘密頂王三昧記』再考」(『駒澤大学仏教学部論集』一二号、一九八八・一〇)

(18)7及び(16)の石川論文参照。石川氏は、「太白峰記」について、

「かく考えてくると、『太白峯記』という書は、固有の内容を持った独立の書名という必要は敢えてなく、嗣法の儀規類を記録した切紙や、門参資料等の記録類を総称したもので、道元禅師の、宋国太白峯(天童山)景德寺における、如浄禅師よりの大法相統にちなんで名づけられたものではなからうか」と推定されている。

【資料一】円応寺蔵『二十七透句』

〔翻刻凡例〕

一、本資料は、佐賀県武雄師円応寺所蔵『二十七透句』(仮

中世曹洞宗における本参研究序説(二)(飯塚)

題)を翻刻するものである。本文は、透句の項目、続いて透句がとりあげられており各透句には割注が付されている。透句の項目は二行どりゴシックで記し、各透句には整理番号を付した。又、割注はへゝ内に入れることとした。

一、改丁については、()内に丁数、及び表裏(オ・ウ)を付記した。

一、翻刻に当たっては、異体字・略体字・俗字等、原文を忠実に再現することに務めたが、省文等、活字用正字に改めたものもある。誤写、脱字等が明らかなる場合には、傍注の形で付記した。

一、各透句は、必ずしも改行されていないが、便宜上各句毎に改行した。又、本文の理解に便ならしむるために、筆者(飯塚)の意に従って、句読点を付した。

(目次)

一、言不言之通、二、道不得通、三、幻化之通、四、性之通、五、透無之通、六、早見之通、七、真空之通、八、上在之通、九、不替之通、十、心轉之通、十一、物心不知之通、十二、多之通、十三、徒者之通、十四、徹底之通、十五、仕合之通、十六、一理々々之通、十七、不移易通、十八、我偈通、十九、不瑠琢通、二十、手不出通、廿一、貧處通、廿二、心歸心通、廿三、窮變通、廿四、不生

滅通、廿五、極位之通、廿六、其佩之通、廿七、不惜他力通、

(目次終わり)

一、言不言之通 (花押)

- (1) 後蘭駟喫草へ是ハ、語在テ無語ト云理也。何トテナレハ、后ノ蘭ニ駟馬カ草ヲ食ゾ、ト曰タニ、何タル理ナシ。理カナケレバ、更ニ言ナイゾ、ト可_レ見。一向ニ言句ノ付ラレン処ニ用也。
- (2) 庭前栢樹子へ是モ、言在、更ニ言ヌ也。来意ヲバ、何ニト可_レ道ゾ。千佛万祖モ道ヌ也。
- (3) 麻三斤へ是モ、道ヌ用処也。何トテナレバ、眞佛ノ処ヲバ、千聖モ万達モ、何ト可_レ答ソ。ナ呈ニ、目前ニ看ル物ヲ、只道也。更ニ麻三斤ト言タニ、用処ハ無シ。理カナケレバ、千言道テモ道ヌ也。
- (4) 乾屎楸へ是モ、何ト可_レ断ソ。ナ呈ニ、只チャツト云タ迄也。是モ、道ヌ也。
- (5) 雲門胡餅へ是モ、目前ニ見ルヲ道也。佛祖ヲ越タ処ニ、更ニ理ハ有ル間敷也。断ルワ、皆佛祖位中也。去程ニ、道ヌ也。
- (6) 胡餅吸汁へ是モ、道タ迄也。更ニ理ハナイゾ、ト可_レ看。
- (7) 大悲院裡有_レ啼へ是モ、理ワナイソ。有語中ノ無語也。臨_(濟)齊ノ普化ヲ取テツムル処ヲ、(一オ)チャツト抽_レ身スル也。理ノ間ナラバ、取テツメラルヘキゾ。
- (8) 耳朶兩片皮、牙齒一具骨へ是モ、無用処也。何トテナレバ、耳朶ワ、元ヨリ兩片皮也。齒ハ元ヨリ一具骨也。其ヲ道タニ、理ハナ

シ。有語中ノ無語也。

- (9) 言滿_テ天下_ニ口無_レ過へ是モ、言ヌ也。天下ニ滿ル呈ニ、道テモ、理カナケレハ、言ヌ也。此時、口ニ過ワナイゾ。
- (10) 舌頭談而不_レ談へ是モ、ヤツト道タレトモ、不_レ談ト看レハ、更ニ道ヌ用処也。
- (11) 特地尋_ニ言語_ヲへ是モ、言ヌ用処也。言語有テモ、理無ナレハ、更ニ道ヌ也。
- (12) 杖林山下竹筋鞭_(筋カ)へ是モ、道ヌ也。何トテナレハ、昔時外道カ、丈尺ヲ取タル物語ヲシタ迄ヨ。別ニ理ワナシ。眞佛ノ門ハ、難_レ断呈ニ、言ヌ也。
- (13) 庐陵米作麼價_ノへ是モ、理ハナシ。只市ノ米ノ價イヲ問タ迄ヨ。別ニ理ワナシ。佛法ノ大意ヲバ、何ニト可_レ断ゾ。只任_レ口テ道タ迄ヨ也。
- (14) 口不_レ関_レ風へ是モ、道ヌ也。物ヲ云エハ、口ニ風カ曳ク呈ニ、言ヌ也、ト云理也。
- (15) 拈_レ得_レ鼻孔_ヲ失_レ却_レ口_ヲへ是モ、道ヌ也。鼻孔トワ、衲僧ノ肝要トスル処ヲ道也。其ヲバ、何ト可_レ断ソ。ナ呈ニ、任_レ心拈得_レノ、口ニハ言ヌゾ。(一ウ)
- (16) 青州布衫重七斤へ是モ、只ハ青州テ着タル布衫ノ物語迄ヨ。一ノ歸処ヲバ、何ト可_レ道ソ。ナ呈ニ、答語モ抽身ノ意也。言句無用処ナリ。
- (17) 開_レ口不_レ在_レ舌頭上_ニへ是モ、何ト云テモ、理カナケレハ、舌ニハ不_レ干也、言ヌ也。

(18) 瑠璃瓶子口へ是モ、何ト云テモ、瓶子ノ口ト看ヨ、道ヌ也。〽
(19) 小魚吞大魚へ是モ、小魚吞大魚ト言ニ、理ワナシ。言句ワ在共、更句ナシ。〽

(20) 古帆未掛處へハ、一機未發也。一機(機)分テヨリ社、大ワ大、小ワ小、其位ワ定タゾ。不レ分レ已前ワ、何ト言タモ、理ナシ。〽

(21) 喫粥了也、洗鉢盂去へ粥食タラハ、鉢洗エト道タゾ。州ノ意ワ、他ヨリ可レ得事デワ有バ社。ナ呈ニ、示サヌ也。其僧ワ有レ省、吾ト心得タゾ。〽

(22) 大尽三十日、小尽二十九へ大小ヲ知ヌ者ワナイゾ。事新シゲニ、言ハズ事ハ無ゾ。此ノ時、理ナシ。亦誰モ知タソ、ト道理モ在。此時、此一佛性ワ、誰モ具足而サウゾ、ト道意ナリ。〽

(23) 楚王城畔、汝水東流へ古ヨリ楚王城畔ノ水ハ、汝ヨリ流出スルソ、ト云ワ、理ワナキ也。佛法ノ大意ヲバ、何ト可レ言ゾ。別ニハ言ヌ也。〽

(24) 鳥窠無端吹布毛へ是モ、言ヌ也。侍者ノ問ニ佛法ヲ呈ニ、何トモ可レ言事ワナイ、呈ニ、只キル物ノ毛ヲ取テ吹タニ、理ワナシ。又是ハ佛法ソ、ト云理モ有ルゾ。〽

(25) 吳中石佛大へ是モ、古ヨリ吳国ニワ、石佛ノ大ナル像在ヲ道タニ、理ワナキ也。有語無語、理ハナシ。亦ハ、ヤミヘテ走物ヲ、トモミルナリ。〽 (2オ)

(26) 鷄向五更啼へ是モ、鷄ノ曉月ニ鳴タ事ワ、誰モ知ル道理也。言ヌ用処也。〽

(27) 六々三十六、九々八十一へ是モ、古ヨリ定タ事ゾ。是句透、何モ

參得底ワ、学言タガ言イ走ヌ。師云、何トモ理ハ走ヌ、ト看ル也。〽

第二、道不得之通 十四句也。

(28) 徳山入門棒へ是モ、道不レ得ノ筋目也。此事當着ノ當位ニ到テワ、千佛万祖モ述出サレス、此ヲ何トモ道ワハ、皆已后也。去呈ニ、入門テ皆呈セントスル程ニ、喝出シ棒シタワ、當位契當サセンカ為也。〽

(29) 王令稍儼へ是モ、世界エ無イ事ヲ云ナ、ト云イ置キスルワ、將軍ノ令ノキヒシイ。ト云ワ、セイバイセ子共、各々ツムシムカ、王令ノ儼ナル理也。此當位ニハ、道ヌカ肝要也。道ハ、皆已后也。〽

(30) 趙州頭戴草鞋へ是モ、何トモ呈セヨ。呈スルワ、當位テワ無イゾ。州モ、何ニ共言得ヌ程ニ、ハ(キ)合セタル草鞋ヲ戴テ出ル也。何トモ述ラレン振舞ナリ。〽

(31) 只能開口深藏舌へ是モ、古エ物ヲ云イソコナウテコソ、舌ヲキラレタレ。只言ヌ時ワ、切レヌ程ニ、今マ言子バ、断舌セラレタニワ、マシタ事ヨ。〽

(32) 腦後見腮へ是モ、觸テワ、サテゾ、ト言意也。此ノ意ワ、當頭ヲバ、何ト可レ断ゾ。ナ程ニ、肝要テモアレ。呈スレバ、已後ヨ。亦如何羊ナル物トモ、ナ言ウゾ、ト云意也。言ヌカヨイゾ、ト云機也。〽 (2ウ)

(33) 慎莫觸着、々々火星飛へ是モ、フルレバ、火花カ散ゾ。ト云

ワ、此當頭ニハ、觸テハ、サテゾ。呈スレハ、當頭テハナイゾ、ト云意也。〳

(34) 焦磚打着連底氷、赤眼撞着火柴頭。是モ、氷ノ中エ、焼瓦ヲ撞入テ看ヨ。又眼ニモエサシヲサシツクル境ヲ看ヨ。此時節ヲ何トモ言バ、サテワ有間敷也。當頭ノ句也。〳

(35) 隔壁不勞供短狀。是モ、語ヲ不通知也。當頭ニハ何ト言バヲ可通ソ。ナ呈ニ、通ヌ処カ、肝要也。隔壁タル処エバ、文ニテ通レ共、狀ヲモヤラ子バ、言ワ通ヌ也。〳

(36) 元来有理不高声。是モ、言ヲ不出用処也。言句無イガ、當頭ノ本意也。〳

(37) 明年更有新條在。是モ、言ニ不出也。無言句ガ、當頭ノ意也。明季ノ春ヲバ、新キ條ガ可露。程ニ、云迄モ無コトゾ。當頭ヲ言不出処カ、セイサイゾ。亦随分カラシタゾ、ト云モ、来季ノ春コゾ、即今ノ枯タ枯レヌワ、見エ走ズ、ト云幾也。此時又最初ニモ、又ハ向上ノ尽タ、ト云ニモ、又其ハシツキゾ、ト云ニモ用ル也。〳

(38) 入涅槃堂裡始得。是モ語ノ無処ヲ取也。入涅槃堂裡タル死人ヲ道。又僧堂ヲモ、涅槃堂ト云也。此ノ意ワ、一度吾ト起大疑團、當着セイデワ、當頭□□キ也。〳

(39) 待洞水逆流祇對。是モ、道不レ得ゾ。佛法ノ大意ヲバ、何ント可レ道ゾ。ナ呈、洞水待逆流道、ト云意ハ、言間敷キゾ、ト云心也。〳 (3オ)

(40) 無業道一生莫妄想。是モ、此當頭ヲ云バ、妄想也。言ヌガ、

當頭也。コレガ、断リ羊ナリ。〳
(41) 待西江水一口吸尽来、向汝道。是モ、不侶底ノ一人ヲバ、何ント可レ道ゾ。ナ程ニ、如レ是道也。此句ノ参ハ、更如何共セラレン、ト可レ心得也。〳

第三、幻化之通 三十一句也

(42) 兔馬有角、牛羊無角。是モ、有ガ在ルテモ無ク、無ガ無イテモナシ、ト云理也。此一佛性ハ、無形、法界ニ遍滿スル也。在カトスレバ、取ルニ不レ取、サレトモ、又、頭々物々滿ル物也。〳

(43) 寸馬長尺短濶峽遠近。ドコニモ備ル也。万像ヲ尽セハ、元ノ真空也。〳

(44) 山露如鏡。是モ、同意也。鏡ハ似タレ共、露ト看レバ、有ガ無シ、無ガ有物也。キツカト似タレトモ、ソレテワナイゾ。〳

(45) 虚谷傳声。是モ、喚ハ呼ヒ、答レバコタエタガ、形ワ無イゾ。在ルガ無ク、ナキガ有ル性ヲ云也。〳

(46) 木人如石女兒。是モ、同性ノ筋目也。木人ガ如石女ナト看バ、有テモ無ク、無テモナイゾ。〳

(47) 草露鏡影。是モ、同意也。キツカト有レ共、手ニモ不レ取、又、看レバ有物也。〳 (3ウ)

(48) 智法常無性。是モ、常ニ知ル智ノ法ナレ共、無性ト看レバ、有テ無イ物タソ。無性ヲ云也。有ルカ有ルテモナイナリ。〳

(49) Y角女子白頭絲。是モ、女子ノ角カミユタルカ、白頭ナレバ、Y角ノ女子デワ無シ。性ヲ云也。有ルガ、有テモナキ也。〳

(50) 畫師畫_レ形像_ハ。是モ、畫師カ、色々ニ移シ出シタレ共、不_レ動ハ、有ガ無ク、ナキガ有モノ也。性ヲ云ナリ。〓

(51) 海上明公秀_ハ。是モ、明公ト云者ガ、海上ニ秀タレ共、聽而打失タトミレハ、有テ無キ物也。性ヲ云也。〓

(52) 佛如_レ煩惱_ハ。是モ、同意也。何カ佛ニ煩惱ハ可有ゾ。有無ト云理也。〓

(53) 乾城樓櫓、為輪為菌。是モ、海上ニ嚴シキ樓カ出現シタレトモ、真テナキ程ニ、無也。輪ワ、圓也。菌ワ、此ノ性ノ方圓ナルヲ云也。是ハ、蚌ノ事也。〓

(54) 如_レ呼聲響_ハ。是モ、声ワ在テ無_レ形ト看レバ、在テモ無ク、無テモ有ルモノナリ。〓

(55) 野馬如_レ陽燄_ハ。是モ、陽燄トワ、朝日ヲ指テ云也。野馬カ、海邊ニ看ル呈ニ、ミレバ、有ヤウテナシ。馬ノ足モ、ヌル々ヤウニミユルカ、又看レバナシ。廣野ヲ_(看カ)レバ、水ニ似タルモノ也。性ヲ云也。〓

(56) 熨時陽燄_ハ。是モ同意也。只アタムカナト看レバ、在テ無キモノ也。〓(4オ)

(57) 如_レ大五第_ハ、似_レ第六蘊_ハ。是モ、人ハ地大・水大・火大・風大トテ、四大コソアレ、五大迄ワ無也。亦五蘊ト云事アレ、六蘊ト云事ワナシ。是モ性ノ筋目也。〓

(58) 幻人對幻境_ハ。是モ、同意也。幻人ガ、對_レ幻境_トミレバ、在テ無キモノ也。〓

(59) 一切有為法、如夢幻泡影、如露亦如電、應作如是觀_ハ。是モ同意也。〓

(60) 如芭蕉堅_ハ。是モ、芭蕉程、危キモノワ無ヲ、堅ノ如クナ、ト云タゾ。堅ガ堅テモ無也。性ノ筋目也。〓

(61) 如十三入似十九界、如_レ蕉穀芽_ハ。火ニコガレタル豆ノ目、タツ事ワ、有間敷也。是モ在テ無イモノヲ云也。〓

(62) 阿羅漢如_レ三毒_ハ。是モ、貪・嗔・痴ノ三毒ガ在バ、羅漢テワナシ。是モ性ノ理ヲ云也。〓

(63) 如_レ無烟火_ハ。是モ、火ノ烟ノナイワ、在間敷也。是モ、在ガナシ、無ガ在ル理ヲ云也。〓

(64) 彼非衆生、非不衆生_ハト看ルワ、衆生モ衆生テワナシ、亦彼不衆生ト云エバ、又衆生也。是モ在カナイモノ也。〓

(65) 如_レ盲者見_レ色_ハ。是モ、看タレトモ、盲者ナ程ニ、在ガナシ、無ガ在理ヲ云也。〓

(66) 空中如_レ鳥跡_ハ。是モ、飛タレトモ、アトガミエ子ハ、在ルテモナク、無イテモナキ物也。〓(4ウ)

(67) 龜毛兔角_ハ。是モ、在テナキヲ、ト云心也。龜ニ毛ハナキモノゾ。又兔モ角ハナキ物ヲ云也。性ノ響シ也。〓

(68) 乾闥婆城非_レ幻_ハ。是モ、海上ニ現シタレ共、非_レ幻ト看ハ、無ガ在リ、タガ無シ、ト云理也。〓

(69) 菱花對_レ像_ハ。是モ、ナキ花ガ對シタトミレバ、在テ無キ理也。〓

(70) 如_レ無色界色_ハ。是モ、在テナキゾ。色界カトスレバ、無色界

也。〳

(71) 色即是空、々即是色(是モ在ルカ無ク、無ガ在ルモノ也。〳)

第四、性之通 九句也

(72) 随色摩尼珠(是ハ、緑ニ置ハ緑、紅ニラケバ紅也。アレ共、珠ノ

本性ハ、チガワズ、ソレ々々ニ應ゾ、ソレニ落ヌニコゾ、此ノ性

ヨ。一処ニ定テ在ラバ、本性テワ在間敷也。〳

(73) 水底金鳥天上日、眼中童子面前人(是モ、何トシテモ、本性ハ、チカワヌ也。〳)

(74) 誰言溪水赤、元是桃花色(是モ、本性ワ、チガワヌ也。桃花ノ紅

イナルガ、水ニ移ルウテ在ヲ、水ガ赤ト云呈ニ、桃花ノ本色ゾ、

ト云ワ、元紅ニ水ハ元清ル物也。ソレ々々ガ本色ハ、更ニカワラ

ヌゾ、ト云理也。〳

(75) 應无所住、而生其心(是モ、ソノ性ハ、代ラ(5オ)

ヌ、ト云理也。ソレ々々ニ應ゾ、又ソレニ不レ住、此本性ノ

不染、ト云理也。〳

(76) 江邊楊柳岸、不碍釣舟行(是モ、性ノ代ラヌ用処也。楊柳ガ、

アナタコナタエ碍ルヤウナレ共、釣舟モ留ウトモ不レ思ガ、釣舟

ノ本性也。柳ハ風吹レテ、カナタコナタエ随フガ、本性也。〳

(77) 百鳥啣花献(是モ、本性ハ代ラヌ理也。〳)

(78) 午頭不見四祖(ハサテワ、無心無念ナル呈ニ、無心ナル百鳥モ、

無心ニ對スル程ニ、花ヲ啣テ来ル也。見四祖后ニハ、此佛性デ

拄ル呈ニ、無心無念ノ理カナケレバ、不レ伴。サテ、花ヲ啣デ

不レ献。此ノ時、鳥ノ性ハ鳥、花ノ性ハ花迄也。〳

(79) 不哭抱孫兒(是モ、性ノ筋目也。小兒ハ多ケレトモ、不レ哭ワ更

ニナシ。小兒ハ哭ガ、其性也。亦ダカ子バ、ハヤ念ヲ起ス程

ニ、不ノ処トワ、念ヲ不レ起処ヲ取、云理モ在也。此時ワ、最初

也。〳

(80) 降龍伏虎(是モ、性ノ用イ也。竜虎ヲ随ル事ワ、平生テワ無

也。本性ノ筋目也。亦少シモ念カ在ハ、竜虎ハ随マシキ也。此時

ハ、又入頭ニ看カ、識情ガ切レテコゾ、竜虎ハ伏セウスレ。無識

情理也。〳

第五、透無之通 三十一句也

(81) 一正一切正(是ハ、スキナイ、ト言理也。正ナレハ正迄、邪ナ

レバ邪迄也。別ニモノナキ時、スキワナシ。無レ形ニノ法界ニ遍

満也。是デ、ツンサムエル也。〳(5ウ)

(82) 寰中天子勅、塞外將軍令(是モ、スキモナイ用処、都ノ内ワ、

天子ノ勅テ拄テケワシム、亦都ノ外ワ、將軍ノ令テ拄ル時、更ニ

スキナシ。性理也。〳

(83) 二虎下獸不レ入蹄(是モ、スキナシ。二虎ガサシ向テ居タル処

エハ、何タル獸モノモ、ツラヲ入得ヌ也。時、スキワナシ。〳

(84) 兩鏡相對(是モ、スキワナシ。鏡ガ二ツ、シツカト相逢タル時、

何ノ影モ移ヌワ、スキナシ。〳

(85) 不是心・不是佛・不是物(是モ、同心也。心デ遣渡タ時、心ト

云ワ、スキ也。佛デヤリ渡シタ時、更ニスキナシ。〳

(86) 心不是佛、智不是道。へ是モ、同心也。心デサシ渡シタ時、ドコニスキカアルカ、更ニスキワナイゾ。〓

(87) 萬里一條鉄へ是モ、同心也。此ノ一條ノ鉄デ、遣リ渡シタル時、刀斧ヲ可入呈モ、更ニスキワナシ。〓

(88) 恁麼也不得、不恁麼也不得。へ是モ、此性テヤリ渡ス処ヲ、カウトモ言バ、スキ也。〓

(89) 條絲不掛、廓地無依へ是モ、同意也。一筋ノ絲モ掛ハ、スキ也。〓

(90) 無這閑工夫へ性デツンサエタ時、工夫ヲ入バ、スキ也。何デモアレ、心ニカケバ、閑工夫也。〓

(91) 廓然無聖へ是モ、余ニホガニカニノ、ヨリ処モナイゾ、ト云ワ、更ニスキナイ理也。〓(6オ)

(92) 針筍不入へハリヲ入ル程モ、スキワ無ゾ。針モ入レバ、スキ也。〓

(93) 偏地是刀鎗へホコ、刀デヤリ渡ス処エワ、足ワ入レランゾ。入ハ、スキ也。〓

(94) 寒則普天普地寒、熨則普天普地熨へ是モ、普天——熨ノ時、少モ寒ニ在バ、スキ也。普天——寒ノ時、少モ熨ガ在ラバ、スキ也。〓

(95) 俱胝豎一指へ是モ、スキナキ理也。此性テサエタ処ヲ、何共答バ、スキ也。立テヨキ俣ニ、一指ヲ無吹ト立ル也。〓

(96) 白鷺下田千点雪、黄鶯上樹一枝花へ是モ、スキナキ理也。白ガ其俣雪、黄鶯カ其俣ノ花也。又錯ノ筋目ニモ看ル也。此ノ心ワ、白ヲ雪トミ、鶯ヲ花トミタワ、錯也。此時ワ、時節用処也。〓

(97) 石上置片瓦へ是モ、平カナル石上ニ、片瓦ヲ重テミヨ。スキモナク、相合スヘシ。性ノ用処也。〓

(98) 如大地火發底道理へ尽大地火ノ性デサエタトキ、身ヲ入バ、スキ也。是モ、入ヌ処也。火ワ、火ノ性ナリ。〓

(99) 文殊諸佛所在外立へ是モ、内ニ身ヲ入バ、スキ也。〓

(100) 尽大地一頭驢不得下へ是モ、大地ガ驢ノ時、ドコエヨリ、ドコエ騎ルヘキゾ。スキワナシ。〓

(101) 趙州無へ此ノ性ニモレタ(6ウ)ル処ガ在テコゾ、在ルトモ、無イトモ云タラバ、スキヨ。亦就有無、理ヲツケタラバ、スキ也。口ヲ開クヤウナレドモ、理カツカ子バ、不_レ言迄ヨ。サテコゾ、

此有無カ、難関テワアレ。口傳アル也。〓

(102) 間不_レ入_レ髮へ是モ、髮スチヲ入ル_レ程モ、間ニスキガ有ラバ、拄天地タル性テワナキナリ。〓

(103) 尽大地是解脱門へ尽大地ニ身ヲ入ル_レ処ガ在バ、スキ也。身ヲ入ル_レ処カナケレバ、此ニ随ヌ也。尋子バ、此ニ解脱スル也。〓

(104) 三世諸佛、向火焰裡、轉大法輪へト云モ、尽大地ニ此ノ眼テヤリ渡セバ、火焰裏モ、諸佛ノ立処也。佛アレバ、法輪モアル也。〓

(105) 得銀山鉄壁、不得銀山鉄壁へ是モ、スキワナシ。此ノ事ヲ心得タ時ワ、元ヨリ透得セヌ程ニ、鉄壁々々ノ如シ。得テ後ワ、一片ニ

大事ヲ悟ツムル程ニ、銀山鉄壁ノ如シ。此ノ時、前后更ニスキワナシ。少シモ容易ニセヌ用処也。〓

(106) 大事已明得如喪孝妣、大事未_レ明如喪孝妣へ是モ、如前也。〓

(107) 密室不_レ通_レ風 へ是モ、張三李四之処ヲ、密室ト云也。悟バ、皆スキゾ。悟ヲヨク捨テ、迷ニ就ク処、スキワナシ。サテコゾ、不_レ通_レ風、トミル也。通ズルワ、スキ也。

(108) 左轉右轉墮無間 へ是モ、同意也。此性ワ、トコエモサ_レユル也。

無間地獄ト云ワ、日夜スキモナキ也。(7オ) 去程ニ、無間トワ、ヒマナントヨム也。

(109) 泗忍人不見大聖 へ是モ、スキ無キ理也。泗忍ニ打ハバカル大聖ヲ、泗忍ニヒタト居テワ、何カ可_レ見ゾ。大聖ト云ワ、此ノ真ノ性ハ、眼裏ニモ柱ル程ニコゾ、別ニ看ワ、スキ也。

(110) 扣齒三下 へ是モ、一言モ不_レ通也。物ヲ云バ、口ニ風ガ引ゾ、ト云機也。此性デ、トコ迄モ柱タ時、言バ、スキ也。

(111) 輪王三寸鉄 へ是モ、スキ無キ性ヲ云也。南閻浮提ワ、鉄輪王ノ統領也。三寸ノ鉄ナレトモ、四海ヲ可_レ隨程ニ、此輪王ノ佩也。去程ニ、スキナキ也。

第六、早見之通

十六句也。

(112) 旛竿尖上鉄龍額 へ是ハ、立ル処テ、早ミエタゾ、ト云理也。旛竿頭、竜頭ヲ造リ付ル物也。キツト立ル処テ、鉄竜トワ云子トモ、鉄竜ノ性ハ、ハヤミユル也。

(113) 玉樹花凋零、不_レ待_レ狂風客 へ是モ、何トモ言子トモ、ハヤミエタゾ、ト云理也。玉樹四時ヲウケヌモノガ、夜凋ム処テ、四時ノ秋風ヲ不得理ワ、ヤカデミユル也。

(114) 臂長衫袖短、足瘦草鞋寬 へ是モ、臂ノ長キ処デ、言子トモ、衫

袖ノ短キ処ハ、ミユル也。草鞋ノ寬イデ、足ノヤセタワ看ル也。

(115) 如風吹水、自然成_レ紋 へ是モ、言子トモ風(7ウ)ガ水ヲ吹バ、波ノ可_レ立事ハ、ヤカテ見ユル也。

(116) 新婦騎_レ阿嫁牽 へ是モ、言子トモ看ル也。唐ニ、ヨメヲ取初メニ、婦ガ馬ニ騎テ来ハ、阿嫁ガ下テロヲ引タワ、言子共、喜ノ心ヲ看ル也。

(117) 龍袖撥開全軀現 へ是モ、言子トモ、ソレトハヤミエタゾ。御衣袖ヲ拂ウ処テ、サゾト云子共、ソウゾト云理ワ、ミユル也。

(118) 將_レ衣袖掩_レ面去 へ是モ、言子トモ、掩_レ面去ル処テ、ヤカテミユルゾ。

(119) 種_レ花兼_レ蝶至、買_レ石見雲饒 へ是モ、言子トモ、ミユルナリ。花ヲ種ル処テ、蝶ノ来スワ、ヤカテ覚ユル也。石ヲ買処テ、雲ノ出ヅヘキ事ハ、聽テミユル也。花ワ花ノ性、石ワ石ノ性、雲ワ雲ノ性ナリ。

(120) 劈腹剗心 へ是モ、言ハ子共、胸ヲヒキハル処テ、腹中ノ性ワ、ハヤミエタゾ。

(121) 桃李不_レ言_レ物、樹下自成_レ蹊 へ是モ、言子トモ、ミエタゾ。桃李ハ物ヲ云子トモ、花ノ開デ、春ルト云道理ワ、露ルナリ。去程、自成蹊テワアレ。

(122) 煒々惶々、巍々堂々 へ是モ、言子トモ、ミエタゾ。其ノ性、ソレ々々ニ露ルナリ。

(123) 二袒三拜依_レ位立 へ是モ、言子トモ、三拜ノ依_レ位立タル処テ、ハ

ヤミエタゾ。二祖ノ位デアルゾ。(8オ)是モ、本性ヲヨクミタ
ゾ。〓

(124)蜀山兀阿房秀 〓蜀山ト云、大ナル山ヲ、兀トナル呈ニ、切尽ス処
テ、阿房宮ノ廣大ナルワ、ハヤミエタル也。性ノドコエモサムエ
ルヲ指メ云也。〓

(125)葉落孤村見ニ夜灯 〓〓尽クツクル処テ、ヤガテミエル也。葉カ落処
テ、孤村ノ夜灯ヲミル也。ソコテ、不レ求ニ、早クヲノレ露也。〓

(126)人從陳忍來、不レ得ニ許忍信 〓〓是ワ、陳忍ノ理ワ、ハヤ得タリ、
ト云幾也。陳忍從、許忍ヲ透テ來ル者ガ、許忍ノ信ヲ得ヌワ、陳
忍デ、本意ヲハヤ得タ程ニ、音信ワ入ヌゾ、ト云理也。亦透タ
ガ、知ヌゾ、ト用処モアル也。〓

(127)君不見君 〓君ニソナワツテ、君ト云子トモ、君也。早ミユル
也。〓

第七、真空之通 三十二句也。

(128)江村片雨外、野寺夕陽邊 〓是ハ、性ト不レ言而、性ヲ云心也。此
ノ性ワ、無形ニシテ、法界ニ充滿スルモノ也。外ト道ヌ、邊ト道
ヌ、村外之寺ノ邊ワ、只空相也。性ヲサシテ、江村——辺ト云
也。此ノ句透參得モ、トコモ此ノ心テ走、ト挙也。師云、何トテ
云、トコテモ別ワ走ヌ、トミル也。〓

(129)峽中天窄、峽外天寬 〓是モ、真空ト不レ言メ、性ヲ響ヌ也。セマ
キ処ニワスホク、廣キ処ニワ寛ク、ソレ々々ニカケサルモノワ、
性也。〓 (8ウ)

(130)穿過天窗、柱着屋脊 〓是モ、此真空ノ性ヲ不レ言メ云也。天下
家内モ、皆此ノ性也。〓

(131)鑿穴方錐孔圓 〓是モ、此ノ性ヲ不レ言メ、性ヲ云也。一尺ホレバ、
一尺空相、一丈ホレバ、一丈空相也。如レ是真空ノ性ワ、ソ
コ々々ニ露ル程也理也。〓

(132)目前真大道 〓是モ、真空ト不レ言メ、真空ヲ響ヌ也。目前ニ柱テ
在ル道里ナレトモ、纖毫不レ見トハ、アルガ無、々ガ在。去程ニ、
也太奇也。〓

(133)竺土大仙心、東西密相付 〓是モ、真空・真性・真心響スナリ。無
形ニシテ、此土・西天ニモ、天上地下、東西南北ニ柱テ在也。知者
ワ、在ト思イ、不レ知ワ、無ト思、程ニ社、密相付也。心得様ワ、
何トテ密相付トワ云タゾ。東ニ在テモ不レ露、西ニ在テモ露レサ
ウヌ、ト心得ヘキ也。〓

(134)頭上漫々、脚下漫々 〓是モ、性ヲ不レ言メ響ヌ也。頭上・脚下ト云
ナシテヤク也。〓

(135)鼯在床頭鼠不レ侵 〓是モ、空性ヲ響ヌ也。床ノ上ニモ見レトモ、鼠
モクラワズノ在ヲ云也。形アル物ヲ社、鼠モカフル。〓

(136)直上見直下見 〓是モ、同意ナリ。上ニモ下ニモ柱タル性ヲ、響
テ云ナリ。〓

(137)捏不レ成團劈不レ開 〓是モ、空ヲ(9オ)響ヌ也。無形ナレバ、
捻共ヒ子ラレス、ニキレ共ニキレラス、劈レズ、切ラレズ、水ニ
入テモヲホレズ、火ニ入テモ不レ燒モノナリ。〓

(138)高不危滿不溢 〓是モ、此空性ヲ響ヌ也。高テモアブナカラズ、滿

レ共アマラサル、此ヲ云也。レ

(139) 只一堅密身、一切塵中現。是モ、空性ヲ響也。一切ノ上ニ現メ不損、程ニ社、堅密ノ身テワ在也。レ

(140) 夜光莫踏白、不水便是石。ヘト云ハ、ヤレツメケルナ、ト云心也。石モ水モ足モトヲ用心セヨト云ワ、性ノドコニモ在、ト云用処ナリ。レ

(141) 周遍十方身、不在一切處。是モ、不在一切處ト云ハ、手ニモ不取、足ニモ不踏、呈ニ社、一切処ニ在レトモ、マタ不在テワアレ。レ

(142) 眼裡耳裡鼻裡。是モ、此空性ワ、眼ニモ耳ニモ鼻ニモ在ルモノナリ。レ

(143) 十个指頭八个丫。是モ、十指ノ上ニワ、指ノナリニ備ル、丫ニハ亦クボク備ル也。空ト不言ソ、空ヲ響スナリ。レ

(144) 拄天拄地。是モ、天地ニ拄テアレトモ、無形レハ、空性也。又、スキナキ処ニモ看ルナリ。レ

(145) 頻伽瓶裏尽虚空。是モ、瓶ノ裡ハ、空相也。空ト不言メ、空ヲヒムカズ理ナリ。レ

(146) 拶三破露柱。是モ、空也。柱ニモ壁ニモツキアタル物ワ、何ソ。此ノ空性ヲヒムカスナリ。レ (9ウ)

(147) 昨夜鼠兒偷去、今朝烏鵲擢來。此ノ空性ワ、鼠ノ口裡ニモ、亦烏鵲手中モ在モノ也。レ

(148) 湘潭雲尽處、巴蜀雪消辺。是モ、此ノ心空ヲ響ス也。雲ノ尽處、雪ノ消辺、皆空相也。空ト不言メ、空ヲ云也。レ

(149) 無有常住、亦無起滅。是モ、心空ノヒムカシ也。常住在ヲ無ト云ワ、空性ノヒムカシ也。今又相拄テ有トミレハ、起リ、サメワナシ、呈コゾ、空ヲ云也。レ

(150) 四聖六凡跳不出。是モ、心ト云ワズメ、心ヲ云也。四聖六凡ト云ワ、此ノ心内ヨリセ出テ、又心ニ皈スル程ニ社、跳不出デハアレ。レ

(151) 仁者謂之仁、智者謂之智。是モ、心ト不言メ、心ヲヒムカス也。仁者ニワ、仁ナリ、智者ニワ、智也。何ニモ應而形ニ落ヌ也。レ

(152) 長者長法身、短者短法身。是モ、心ト不言メ、心ヲ云也。長キ者ニワ長ク、短キモノニワ短ク相應シタガ、ソレ々々ニ落ヌ也。レ

(153) 說似一物即不中。此心空ノ性ワ、何ニモ拄テアレトモ、又是コゾ、心ヨト說テモ、不出呈ニコゾ、即不中ヨ。レ

(154) 秘定不足、秘下有餘。是モ、心ト不言メ云也。無トミレバ、從元無形ナルニ依テ、不足、有トミレバ、有个心也。レ

(155) 兩手展開。是モ、兩手ヲ開バ、ヤガテ空也。(10オ) 兩手ヲ握レハ、又拳頭ニ在也。空ト不言メ云ナリ。レ

(156) 黃蘗樹頭得蜜。是モ、空ト不言メ、云ナリ。空性ワ無イ内テ在物也。レ

(157) 洞庭無蓋。是モ、洞庭ニ蓋ガナイト云ワ、空ヨリ外ニワ、別ニ物ワ無ゾ、ト云心ナリ。レ

(158) 來無住處、去無方処。是モ、何ト來タトモ、何ト去タトモ、此空ヲ離ヌ、ト言キナリ。レ

(159) 照顧脚下 へ是モ、何ト蹈ニモ、何ト去タモ、空ヨリ外ワナキ程ニ、足下ヲ看、ト云心ナリ。〳

(160) 柳眉花口只尋常 へ是ワ、那一人ト不_レ言_レノ、一主人ヲ響ス也。柳眉花口程ノ嚴キモノワナケレトモ、ソレワ尋常ゾ、ト云キワ、此ノ空相ノ無形ニシテ、ドコエモ柱ル程ニ、是_レハ好悪ノサタガナイ程ニコゾ、柳眉トワ云也。尋常ワ、此一人ヲ下ラヌ人ニモ可_レ看。又、簾中ヲソツト窺テミルニ、此人ワ花ノ顔ドモワ、中々モノデワナイゾ、ト云心也。〳

第八、上在之通

(161) 万般祥瑞不如無 へ是モ、マダモ上ガ在ゾ、ト云心ナリ。如何ナル好事モ、ヨキサダガ在バ、マダ悪ニ對ル呈ニ、不_レ如_レ無、ト云ワ、好悪ノサタノ無処ガ在呈ニ、十分ニワナイゾ、ト云幾也。〳

(162) 堯舜猶有_レ化在 へ是モ、マダ上ガ在、ト云理也。堯舜ワ、行令ヲ不_レ出、道ヲモ_レ行共、天下ワ豊ナリ。アレ共、是ガ王徳ゾ、トミレバ、ソ(10ウ)レモ王化ナル呈ニ、王化ノサタナキ地ガ在ゾ、トミレハ、上アル也。〳

(163) 好事不如無 へ是モ、マダ上ガ在ゾ。何タル好事モ、好イト云サタガ在バ、悪イゾ。其沙汰ナキ処コゾ、上ミ。〳

(164) 草露鏡影 へ是モ、マダ上ガ在ゾ、ト云心也。鏡ワ、何ヲ移テモ、ケガレズ、草モキヨキモノナレトモ、光影カ在程ニ未カゲ也。〳

(165) 不_レ如_レ打_レ破_レ鏡 へ是モ、マダ上ガ在ゾ、鏡裡何ヲ移テモ、ヨキモノナレ共、不_レ如_レトミレバ、マタモ上ガ在、ト云心ナリ。〳

(166) 澄源湛水、猶掉孤舟 へ是モ、マダ上ガ在ゾ、ト云心ナリ。澄源水トワ、八識、湛水ヲ指也。是ワ、マタモ佛地ナリ。程ニ、孤舟ニ掉ト云ナリ。〳

(167) 金屑雖貴、落眼成翳 へ是モ、マダ上ガ在ゾ。金ノスリクツ呈、ウツクシキモノワナケレ共、眼ニ入ハ、毒トナルゾ。ソコヲ捨テコゾ、ヨケレ。上ガ在也。〳

(168) 今朝不_レ登大華高、争知従前立處低 へ是モ、上ガ在ル也。高キ処テ、低イ処ヲミレバ、イカ呈モ上ガ在モノナリ。〳

(169) 機不_レ離_レ位、墮_レ在_レ毒海 へ是モ、上ガ在ゾ、ト云心也。位ト云ワ、正位也。其ニモ留バ、毒海也。佛位トモ、正位トモ、ソノサタナキ処コゾ、吾ガ宗ノ極位ヨ。ソレヲモ、忌_レ十成、ト云心ナリ。イツク共定メバ、十成ナリ。〳

(170) 従冥入於冥、永不聞佛命 へ是モ、マダ上ガ在ゾ、ト云キ也。クライ処ヨリ、ナヲモ暗ノサタナキ処ニ入也。明暗ノサタアルワ、未低処也。明暗ノサタナイ処コソ、吾宗ナレ。〳(11オ)

(171) 矢上加_レ尖 へ是モ、上ガ在也。矢ワ、スルトナルモノナレ共、猶モホコサキノアルアイタワ、向上デワナン。スリツフシテ、ホコサキノサタモナキ処コゾ、吾宗ノ向上ナリ。〳

(172) 月落来与汝相見 へ是モ、上ガ在ゾ。月ノ照ス間ワ、何ガ向上デワアラウゾ。月落デ后コゾ、吾宗ノ極位ヨ。〳

(173) 但得雪消去、自然春到來 へ是モ、マタサキガ在、ト云心也。冬ヨリミレハ、春ハ上デサキ也。〳

(174) 脚力尽処山更好 へ是モ、マタラクガ在ゾ、ト云理也。行尽セバ、

猶モ山ガ在程ニ、ヲクヲ云也。上也。〕

(175)室内無^レ寢床、渾家不^レ着^レ孝。〔是モ、同意也。室内ノ寢床トワ、如何ニモヲク深キ坐敷也。屋裡ノ父母ノアル処ワ、ヨリツカヌガ孝々也。〕

(176)鯨吞^二尽海水^一。〔是モ、マダモ上ニ物ガ在ゾ、ト云心也。鯨ガ海水ヲ吞尽タレ共、珊瑚樹ワアルゾ。シツキガアレバコゾ、ヲエタレ。向上ニ到テ、佛祖ノ氣ヲ尽シタレ共、猶モシツキガ在ゾ、ト云幾也。〕

(177)出^二佛界^一入^二魔界^一。〔ママ〕ヘマタモ屋ガ在ゾ、ト云リナリ。佛法ノ屋深キ処ナリ。又第二儀門ヲ魔界トモ云也。ナセニナレバ、正理テワナイソ、ト云心ナリ。〕

(178)金毛獅子变成^レ狗。〔是モ、金毛ノ師子トバ、佛法ノ威勢振ウ処也。是ワ、低キ処、第二儀門也。佛法トモ威勢トモ、サメノナイ処コゾ、向上ナレ。畢竟狗ニナリ歸ルコソ、ミ亘ヨ。〕(11ウ)

(179)我眼元正、忽地成^レ蛇。〔是モ、佛法ノ正眼有ワ、第二儀門也。成^レ蛇ト云ワ、佛法ノ正眼ヲツブソ、一点モ眼ニ佛ノ照ノナキ処コゾ、吾宗ノ向上ヨ。〕

(180)大徹底人、脚下不^レ断^二紅絲線^一。〔是モ、同心也。大——人ト云ワ、佛法ノ一大亘ニヨク徹テ、ソノ伎倆ノツキハテ、徹不徹ノサタナキ処コゾ、向上ナレ。脚下ノ紅絲線ト云ワ、凡夫ノキヅナニツナガル、ワ、吾宗テワ、大亘ノ行李也。紅絲トワ、夫婦ノ縁結定ル時ノ亘也。一向ニ凡夫ニ成用処也。又足下ノ絲スチヲタニチキラヌゾ、ト云ワ、一向ノ無伎倆ニナル用処也。〕

(181)少年魯決龍蛇陳。〔是モ、再ヒワランベニ成、ト云心也。一向ニ佛法ノサタモセス、無伎倆ニナル処ヲ云也。又、本ノ童子ニ成ト云ワ、マタモ本ノ湿氣ヲ帶タ、ト云心ニモ用也。〕

(182)有賊無賊。〔是モ、其ノ理モナキゾ、ト云心也。盗人ナレ共、取ス物ガナケレバ、賊ノ理ワナイ呈ニ、ソノサタワナシ。是ガ、我宗ノ向上也、窮メナリ。〕

(183)君還^二旧日午^一。〔是モ、ハマツヒルトモツ処悟也。還^二旧日午^一バ、老バナキ呈ニ、宗旨ノキワマリ也。〕

(184)滅^二胡種族^一。〔ヘトワ、一向佛祖ノ理ワナキ呈ニ、上也。胡種族トワ、佛祖ノ種也。ソレ滅スレバ、佛祖ノ理ワナシ。是カ吾宗ノ極位、上也。〕

(185)鼻孔依然乘^二唇上^一。〔ヘトハ、悟ノ眼デワ、カウワミヌゾ。如此ミキルガ、向上ナリ。〕(12オ)

第九、不替之通

(186)踏着秤槌硬似鉄。〔是ハ、代ヌゾ、ト云理也。ハカリノコヲ踏ダレバ、只堅イゾ、ト云ワ、本ノ物ゾ、ト云理也。悟テミレバ、佛ト云モ、何ト云モ、本ノ物ゾ。ト云ハ、切レ目ノナイ用所也。代ヌゾ、ト云ワ、ツヨキ理ナリ。〕

(187)雲在嶺頭閑不徹、水流澗下大忙生。〔同意也。切目ナキ理也。嶺頭デモ、雲ワ元来急グ物ゾ。水ワ元来澗下デモ、大忙生ナル物トミレハ、本ノ物ゾ。〕

(188)觀音胡餅。〔代ヌ、ト云理也。餅ヲ買テ放下ノミレバ、只饅頭ゾ。〕

ト云ワ、唐ニバ、胡餅モ饅頭モ、同物ゾ。アンヲ外ニヌレバ、胡餅、内ニツムメバ、饅頭ト云デコゾアレ。何モ不変デ作也。悟了同^ニ未悟^ニトミレバ、少シモカワラス、キレメワキナリ。

(188) 惠能無^ニ伎倆^ニ へ是モ、能ク悟^レハ、元ノ凡夫ソ、ト云心也。是モ、切レ目ワナシ。臥輪ワ、マタ凡夫ニナリ得ヌゾ。呈ニ、佛祖ノ伎倆ガ有ル也。惠能ニワ、一点モ無也。

(190) 不破^ニ一毫^ニ へ是モ、一向本ノ者ゾ、ト云幾也。ヨク悟レハ、一毫呈モ不破不損也。此ノ時キレメナシ。

(191) 越鳥窠南枝、胡馬嘶^ニ北風^ニ へ本性ワ、代ラヌ、ト云理也。イツクテモ窠南枝^(ハ)、(12オ) 越ニ在也。ドコテモ北風ニイバエバ、胡国ノ馬也。代ヌソトミレバ、更ニキレメハナシ。又湿氣ノ用所ニモ可^レ用也。

(192) 駟^ハ屎^ハ湿處^ニ へ本性ハウセス、ト云理也。代ゾ、キレメワナイゾ、ト云キナリ。

(193) 改旧時行李處、不^レ改旧時行李人 へ代ヌ、ト云理也。処ヲバ、改メタレトモ、人ワ本ノ者ゾ。此ノ時、キレメワキナリ。

(194) 行^ニ尽天涯^ニ 不^レ到家 へ代ヌ、ト云心也。天涯ヲ行尽^メ、本居^ニ到得コゾ、代リ目ワアレ。家ニ至ラ子バ、只本ノ物ゾ、切目ワナシ。本居ニ至リキワメテコゾ、又其ノサタナイ、ト云理ワシレ。ソノサタガナケレバ、至ラヌサキト、同モノナリ。キレメナキナリ。

(195) 至人化無跡 へ代ヌ理也。至極タル人ニワ、サタワナシ。サタガナケレバ、其ノ化ヲモ知ヌ也。只アリ人ト同也。代ノサタノ在ワ、

マダシキ眩ノ人也。至極徹シツレバ、ソノ理ナキゾ、ト云理モ在ナリ。キレメナキ理ナリ。

(196) 貼肉汗衫 へ是ハ、佛性デ無明ヲバギノケテ、実相ニ付処ヲ、貼云也。佛法ニハタエヲ就ル故也。祖位デワ、悟ヲ尽^メ就^レ迷^レ処ヲ、貼肉汗衫ト云也。只本ノアセカタヒラ、キテイタ迄ヨ。

(197) 悟了^リ同^ニ未悟^ニ へカワラス也。ヨク悟レバ、只本ノ物ヨ。キレメワナキゾ。只凡夫ニナリキル也。

第十、心轉之通 (13オ)

(198) 芍藥花開菩薩面、梭欄葉散夜叉頭 へ是ワ、何モ心ソ、ト云心也。芍藥トミレバ、此ノ心ヤガテ花也。菩薩トミレバ、佛也。木トミレバ、木ナリ。夜叉トミレバ、鬼神也。何トミルモ、心ノ動シナリ。此ノ句ノ通ワ、此ノ心ガ何トモ成リ、何トモ成テ走^ルミルナリ。

(199) 一夜對^ニ麒麟^ニ、開^レ門^ニ是枯椿 へ一切唯心ニヨル也。木ノキリカブノ光ヲミテ、夜モスガラ鬼火ゾトミテ、悩マサルムガ、朝ニ門ヲ開^キテミレバ、木ノカブトミテ、ウタガイヲ休ル也。何トミルモ心ノ動カシナリ。

(200) 一切唯心造 へトミレバ、地獄モ佛道モ、心ニアルナリ。

(201) 南山鼈鼻蛇 へ是モ、心ノ動キ也。南山デワ、鼈鼻蛇トミル也。心動也。

(202) 西河弄獅子 へ心ノ動キ也。西河テワ、獅子トナル也。是ガ、心ノ動ナリ。

⑳③ 一釈迦二元和三佛陀 へ心ノ動キ也。釈迦トモ、元和トモ、佛陀トモ、此ノ心ノ点シ羊ナリ。へ

⑳④ 踈山木蛇 へ木トミレハ、無心也。蛇トミレバ、心在ナリ。其人ニ依テ、心ワ生ル也。イツレモ、心カアラワルム。へ

⑳⑤ 紫胡狗 へト云モ、心ノ動キナリ。物々ニ随テ、此ノ心ワ点スル理ナリ。へ

⑳⑥ 雲門拄杖 へ此ノ心ワ、拄杖トミレバ、ツエ也。心ノ自由シ羊也。へ(13ウ)

第十一、物心不知之通

⑳⑦ 賣扇老婆手遮日 へ是ハ、総メ知齊、ト云理也。扇子ヲ以テ、以タト不思、扇子デ社、日ヲ可レ遮ニ、知ヌニ依デコゾ、手ワ遮タレ。是ワ、一向不レ知ガ、ミ亘也。又云、手ニ持タルモノヲ知ヌワ、少モ慮痴^(マヤ)分別ナイ理也。此ノ時、最ニ可レ用也。へ

⑳⑧ 賣油婆子水塗頭 へ是モ、油ヲ持タト知タラバ、何ガ水ヲバ頭ヌル可ゾ。知子ハコゾ、水ヲハヌル也。へ

⑳⑨ 人擔柴々擔人 へ是モ、知タラバ、何ニガ人社柴ヲニナウベキニ、知ヌニ依テ云也。へ

⑳⑩ 茶喫人々喫茶 へ是モ、知タラハ、何ニカ人社茶ヲ吞ヘキニ、知ヌ呈ニ社、茶人ヲ吞ト云タレカ。へ

⑳⑪ 賣水漢子叫渴 へ知ヌ理也。水ヲ以テ、モツタト思タラバ、渴トワ、何ガサケブベキゾ。不レ知ニ依テノ心ナリ。へ

⑳⑫ 日頭早晚 へ是モ、早イヤラウ遅イヤラウ、知ヌゾ、ト云理ナ

リ。へ

⑳⑬ 飯喫人々喫飯 へ是モ、同意也。何モ、参得ワ、思量ワ走ヌ、ト看ナリ。へ

拾二、多之通 (14オ)

⑳⑭ 誰道祥麟只一角 へ是ハ、多イゾ、ト云理也。麒麟ワ、元ヨリ一角ナレ共、兩角在ヨリワ、猶威勢ガ在ル呈ニ、多イゾ。ト云ワ、此性ワ、トコニモ在ヲ、捨メ性ト不レ言メ、性ヲ響スナリ。へ

⑳⑮ 憶得隻履西歸 へ是モ、西天ニモ此土ニモ、ドコニモ在程ニ社ゾ、一足以テ行ク迄ナイゾ。一足以テ行ヌ心ガ、ドコニモ在、ト云心ナリ。此ノ性ヲ響也。へ

⑳⑯ 種麻得粟 へドコニモ在性ナリ。麻ガ粟ニ成タデワナシ、性ノ世界充塞シタルヲ云也。只粟粒ニタトベ^(ヘ)タ也。種^(ヘ)麻得^(ヘ)粟ト云ワ、麻ニモ粟ニモ、ト云心ナリ。へ

⑳⑰ 龍從雲虎從風 へドコニモ在、ト云理也。龍ニワ雲、別ニ龍ト雲ト取り分テワ、ミヌゾ。此性ワ、龍ニワ雲、虎ニワ風ト随^(ヘ)性也。へ

⑳⑱ 薰風自南来、殿閣生微涼 へ是モ、ドコニモ有ゾ、ト理也。南ヨリ吹風バカリ涼イテワナイゾ。殿閣トワ、ドコトモ金銀珠玉デ冷ミタルホトニ、トコモ涼イ也。夏日ノ熱スルヲモ不^(ヘ)苦、又日ノ長イヲモ愛スル也。此風性ヲ響ナリ。へ

⑳⑲ 四忍大聖、楊州出現 へ是モ、四忍社、大聖ノ有処ナレドモ、一——ト柱ル程ニ、看ワ、スキ也。楊忍エ現スル処デミル也。早^(畢)竟此性ノトコニモ有、ト云理也。へ

(220) 若我謂滅度非吾弟子、若吾謂不滅度又非吾弟子。へ是モ、ドコニモ在ソ、(14ウ)ト云理也。佛ハ、不生不滅——身トミレバ、イツモ在、ドコニモ在ゾ。滅ノサタワナキナリ。〳

(221) 應以比丘身得度者、即現比丘身而為說法。へ是モ、同意也。以佛身得度スヘキ物ニワ、即現佛身為說法トミレハ、トコニモソコ々々ニ應ル、其時ドコニモカケサル理ナリ。〳

(222) 文宗帝軒穀像。へ是モ、ドコニモ在也。軒中ニモ觀音ノ聖像ノ在ハ、此佛性ノ体ハ、尽世界ニ充滿ノ在呈ニ、軒ノ中ヲモガクベカラス。〳

(223) 南泉不出室中、床上喫油糍。へ是モ、同意也。コノ大人ノ相ワ、内外隔趣ナキ呈ニ、如何ナル大千世界エモ、居ナガラ、室中ヲ不出ノ通也。呈ニコゾ、床上ノ油糍ヲモ喫ル也。此ノ性ワ、ドコニモ在ナリ。〳

(224) 清中濁々中清。へ此ノ性ワ、トコニモ在ル也。此ノ時隔ワナシ。清ニモ濁ニモツレタ時コゾ、此性也。〳

(225) 麒麟一角大。へ是モ、多ゾ、ト云理也。麒麟ノ角ハ、一ツナレトモ、ヨノ獸ノ多イニワマシタゾ。此ノ心モ一心ナレトモ、何ニモ受用スル也。呈ニコゾ、一角ニ比スナリ。〳

(226) 祥麟無双角。へ是モ、同意也。〳

(227) 頭々如啐啄。へ是モ、多ソ、ト云理ナリ。此ノ^(佛カ)性ワ、頭々物々ニ頭ルムナリ。〳

(228) 雪峰三處相見。へ此性ニハ、トコデモ行逢、ト云理ナリ。〳

(229) 百丈野狐。へ是モ、多イゾ、ト云リ也。(15オ)此性テヤリ渡シタ

トミレバ、不昧モ不落モ、墮モ脱モ隔ワナシ。墮ガ脱、々ガ墮ナリ。〳

(230) 曲尺不曲。へドコエモ渡ルソ、ト云用也。カ子ワ、曲ニモ渡リ直ニモ渡ルナリ。此性ワ、物々ワタル也。〳

(231) 庭前種^{キヨキヨ}荻苞、々々生^{シヨツ}大筋、々々生^{シヨツ}木荻、々々顛落地、發^ス生大油麻。へ是モ、イロノニ成タレトモ、本性ワ只一、ト云理ナリ。〳

(232) 到得歸來無別^(塵)更、庐山烟雨浙江潮。へ烟雲ノ景ガ、見更ト聞及テ到タゾ。飯来后ワ、臥坐經行トモニ、更ニ無別更。庐山——潮ノ更バカリナリ。寸絲モ庐山——ノ更ガ、胸中ヲ離也。此性ノスキモナクアル理ト同意也。〳

(233) 意足不求似顔色、全身相馬九方臯。へ是ハ、心ヲヨクミレバ、相ワ入ヌゾ、ト云心也。元来ノ心ニ、形ワアルマジキナリ。〳

(234) 千年常住一朝僧。へ是モ、此性ノ不変ナル理ナリ。古今ワ、カワラヌ也。本来無ニシテ、不増不減也。此ノ時、凡聖ノワケワナシ。況ヤ僧俗ノ分ケ有マシキナリ。僧ト云ワ、一朝ノ名ケタル也。此性ワ、何モ常住ナリ。〳

拾三、徒者之通 (15ウ)

(235) 漢地不^レ収秦不^レ管、又騎^レ馭子下^{ニル}楊州。へ是ハ、一向ノ徒者ヲバ、何カ漢ニモ収ウゾ。ヨキ者ヲコゾ、賞翫ナスヘキゾ。又秦ノ世ニモ、人ワ目ヲカケマシキ也。^(著カ)コレラテイノ者ワ、楊州ノ富貴ナル国ナ呈ニ、路齊ナドモ可^レ在カ、只一向ノ徒者ノ用所ナリ。〳

(236)平生疎逸無拘檢、酒肆姪妨任意遊(坊カ)。へ是モ、同心也。一向ノ徒者ナル法度ハツレ者ヲバ、魚行モ姪妨(坊カ)モ酒肆エモ、法度ノ間デワ、何カ可レ行カ。是ワ、一向小節ニ拘ヌゾ、ト云理ナリ。へ

(237)只枕上聞囊中針。へワ、ミナ小見解也。佛見法見ニ拘ルワ、ミナ小見解也。活祖デワナキノ。へ

(238)莫教水落岩前石、打破下方遮日雲。へ是ワ、ツト高キ処モ、已ニ日月サイギル雲ヲ打破スヘキゾ。ト云ワ、一段高キ処也。高イト云ワ、佛法ノサタナキ高上ヲ指スナリ。へ

(239)隨處自在。へ是モ、徒者ノ行李也。ヲシエベキ者ヲ不レ教、可レ敬者ヲウヤマワズノ、任レ心ノ徒者也。向上ニ用也。へ

(240)大人得自在。へ是モ、同心也。大人ノ行李デ、何ニモ取合ス、自由人ナリ。へ

(241)清淨行者不入涅槃、破戒比丘不墮地獄。へ同心也。清淨コゾ涅槃デアル(16オ)ヲ、不入ト云イ、破戒コゾ地獄デ在ヲ、不レ墮ト云イ、善ヲモ善トセス、惡ヲモ惡トセス、一向ノ徒者ノ行李ナリ。へ

(242)虎穴魔宮、正好遊戯。へ是モ、一向徒者一理也。虎穴ヲモヲヂス、魔宮ヲモキラワズ、捻ノ物々ニ拘ヌ、向上ノ行李也。へ

(243)要穩坐声色堆裡、須向虎口裡横身。へヲソロシキ亶ヲモ、又峻キヲモ不レ知、一向ノ徒者ノ行李ナリ。へ

(244)其施者墮三惡道。へ是モ、ドコロモ平等ニ思者也。善惡ヲ不分ナリ。へ

(245)向上一路千聖共行、地獄天堂正好遊戯。へ是ワ、平等也。向上ノ一

路トテ、別ニ路カ在ルテワナシ。元ナキ程ニ、行ヌガ、調達人地獄ト云ワ、好処ヲ好トセス、惡処ヲモ惡トセズ、佛ノ極樂ヲモウヤマワズ、地獄ヲモカナシマス、此時平等也。千聖行ヌヲ行タト云イ、行タルヲ行ヌト云イ、有ヲ無ト云イ、無ヲ有ト云程ニ、識ニ平等也。徒者ノ行李也。へ

拾四、徹底之通

(246)不識庐山真面目、只緣在此身山中。へ是ワ、徹底也。ソコニ在テワ、ソコノ理ヲ知ヌ(16ウ)モノ也。立離テコゾ、ソコノ理ヲ知レ、ト云心ナリ。へ

(247)潘閔騎驛。へ是モ、一度立出テコゾ、花山ノ景ノ面白ワ知レ。花山ニ居テワ、スキモナキ程ニ、知ヌ、ト云理也。此性用処也。へ

(248)鏡不自照。へ鏡ノ上デテラス、ト云サタワナシ。物々ニ對スル時コゾ、照トワ知レ。徹底ガ照ナリ。へ

(249)妙峰頂上不見德雲。へ妙峰頂カ、德雲ノ御坐有処ナ呈ニ、立出テコゾ、知ヘケレ。ソコニイテワ、不レ見ナリ。へ

(250)午日無影。へ是モ、午日テヒル、ト云サタワナシ。羊ニサカツテコゾ、知レ。徹底ナリ。へ

(251)火不燒火。へ徹底火ノ時、火ノサタワナシ。キエテ后、火ト云理ヲ知也。徹底也。別ノモノヲコゾ、ヤクヘケレ。へ

(252)指自不指。へ徹底指ノ時、サスワスキ也。へ

(253)水不洗水。へ徹底水ノ時、水ノサタナシ。別ノモノコゾ、洗ヘケレ。アラウ、スキヨ。へ

(254) 刀不_レ截_レ刀_一 徹底刀ノ時、切ワ、スキ也。〕

(255) 眼不見_レ眼_一 徹底ノ時、可見ヤウガ有テコゾ。〕

(256) 金不_レ傳_レ金_一 徹底金ノ時、カエヌゾ。別ノ物ニコゾ、傳エベケレ。〕

(257) 日午打_レ三更_一 是ワ、當位デワ、當位ワナシ也。日午ノ時日、午□

□ガナケレバ、打_レ三更也。夜ノ三更ト、昼、日午トワ、同時也。又日午トモ云エバ、ハヤ三更ソ、ト云理モ有リ。當頭ヲ當頭トモ云エバ、サテワナキゾ。〕

(258) 高々峰頂立_レ(17オ) 不_レ露_レ頂_一 徹底、ソコニ居デ、ソノ理ワナシ。フモトヨリミル時コゾ、高イト云リワアレ。〕

(259) 三清道士無_レ仙骨_一 是モ、仙人ノ上ニ、仙道ト云サタワナキモノナリ。〕

(260) 八教闍梨焼_レ凡聖_一 へトモ、同心ナリ。對句也。学スル間社、書ワ入レ。得テ后ワ、入ラヌ也。焼ト云ハ、不入ト云理也。ヨク学ノ時、書ノサタワ入ヌ也。〕

(261) 達磨不會_レ禪_一、夫子不知_レ字_一。 是モ、徹底ナリ。〕

(262) 只許_レ老胡知_一、不知_レ老胡會_一 是モ、ソノ理ヲ知ルゾノ會ヲバ不可成、ト云理ナリ。〕

(263) 寒威々時、汗淋々池 へヨク徹シツレバ、ソノ理ノサタワナシ。徹底寒ニツメラレバ、寒ノサタワナキ也。〕

(264) 雲門北斗裡藏身 徹底北斗入_レツムレハ、北斗ノサタワナシ。沙伏カナケレバ、藏身也。又主位到_レハ、主ノ沙伏ワナシ。賓ニ對スル時コゾ、主ノサタワアレ。北斗ハ、星ノ主ナリ。〕

(265) 魚相忘_レ江湖_一、人相忘_レ道術_一 是モ、同ク徹底也。人コゾ、道術ヲバ修スレト、能修シツレバ、道術ノサタワナシ。魚ノ上ニ、海上ニ海上ノサタワナシナリ。〕

(266) 大虫無_レ齒_一 是モ同心也。大虫ニ背ニ成ツムレバ、齒ライカラカシテ、威ヲ振ウ也。大虫ノサタワナシ。〕

(267) 徹々々大海枯_レ(17ウ) 大海ノ底ニツムト入_レツムレバ、底ト云サタワナシ。岳ニ居シテコゾ、水ト云イ、アサイト云イ、底ト云理ワアレ。ツムト底エ入_レリツムレバ、只土斗ナリ。程ニコゾ、大海ワ枯_レルテワアレ。〕

(268) 具足聖人法聖人不會_レ、聖人若會_レ同_レ凡夫_一 是モ、徹底ト云理ナリ。〕

(269) 三更失_レ却_レ牛_一、天明失_レ却_レ火_一 是モ、三更ノ時、牛ノサタワナシ。天明ノ時、火ノササタワナシ。徹底也。火ワ、夜アケテ焼物ナリ。〕

(270) 射_レ得_レ半个_一 聖人 是モ、徹底聖人ニ到_レバ、聖ノサタワナキ呈ニ、凡夫也。サテ、半ト云ハ、聖也。又ワ、凡夫デモ在也。心ヲ得処ワ聖ナレトモ、形ワ凡夫ナ呈ニ、半个ト云理モ在。ヨク聖ニ到_レバ、聖ノサタ無_レキ呈ニ、半ト云理モアリ。〕

(271) 西天胡子無_レ鬚_一 是モ、西天ノ人ワ、捻_レノ毛カ多キモノナリ。鬚ト云テ、ドコヲ取分テ可_レ言_レ処_一ワナシ。去_レ社_一、無_レ鬚_一ト云也。徹底鬚ノ時、鬚ナシ。〕

(272) 虎咬_レ大虫_一 是モ、徹底。虎ノナリ上リガ、大虫ナリ。取テツムレバ、ソノ沙伏ワナシ。呈ニコゾ、吞_レ虎_一マルムナリ。〕

(273) 蛇吞^レ蛇子^一へ蛇モ威ヲ振ウ時バ、蛇子ヲ吞也。又蛇ニナリキワムレバ、蛇ニ吞ルム也。蛇ノ極□也。徹底ナリ。〓

(274) 封後先生 へ是モ、同也。先聖ノ官ニ間^レ入ワ、官ヲ本トスルナリ。ハヤ先聖ニ封セラレテ后、官ニ退ケバ、官ノサタワナシ。徹底也。一向又會ノナイ理也。王帝ノ臣家也。好^レ岳書^一得人也。〓 (18オ)

拾五、仕合之通

(275) 迷則失^レ本心^一、悟則得^レ本心^一へ是ハ、迷エバ失本心故ニ、文字計リニミル呈ニ、文字ニ点セラルム也。悟則得^レ本心^一呈ニ、文字ニ轉セラレズ、言語ハ、真ニ不^レ有ト看ハ、文字ヲ轉スル也。サレ共、本心ガ前ニ□^(失)テ、今俄ニ出来シタデワナシ。悟レバ有トシリ、迷エバナシト思ナリ。巧ミ不^レ計道理ナリ。〓

(276) 風暖鳥声碎、日高花影重 へ是モ、迷則バ、風ニ依テ鳥声モ碎ルト思イ、日ニ依テ花影カ重ルト思ウ也。悟テミレハ、風ガ鳥声ヲ碎ウト不^レ思、日モ花影ヲ重ト不^レ思、巧ミ不^レ計仕合ル也。非因縁ノ道理ナリ。〓

(277) 石畢入水乾、独活無風動 へ是モ、入^レ水乾ト思ウ心ナシ。無^レ風ニ動ウトモ不^レ思、天災ノ仕合也。〓

(278) 賢生法来、未曾殺生 へ是モ、工ニ不^レ計道理也。天災仕合口^(タ)迄ヨ。〓

(279) 南泉牡丹花 へ是モ、チャツトサキ合、開キ合タ迄ヨ。不^レ計理ナリ。〓

(280) 犀因翫月紋生^レ角、象電——入^レ牙 へ是モ、仕合タルスチ目也。犀ガ月ヲミテ、紋ヲ可^レ生ト不^レ思、月モ又犀ノ角ニ紋ヲ可^レ生ト不^レ思、千佛万祖モ不知不識不會不得ノ道理也。又、時節因縁(18ウ)トミル外道見也。不會不斗ト可^レ見也。是モ、大奘折角也。尋常參得^レ可^レ看。自然・天災ト云ウサタモ走ヌ、ト可^レ看。是ガ、ヨキナリ。〓

(281) 月似弯弓、小雨多風 へ是モ、雲門北斗裡藏身ト、不會不答語メサレタガ、ヨク透法身ニ合タ、ト云ギナリ。〓

(282) 河邊月暈魚生子、柳葉風微鹿養茸 へ是モ、工ミ不計ナリ。天災ニモ合スル理也。月夜ニ、魚モ子ヲ生スヘキト不^レ思、鹿モタラノ目ダチヲクウテ、角ヲ落スヘキトワ不^レ思也。工ミ不^レ計也。〓

(283) 芭蕉無耳聽雷發 へ是モ、不會不斗發キ合スル也。雷ヲ聞テ開トワ不^レ思也。〓

(284) 放屁合着大石調 へト云モ、少モタクンテワセヌゾ。シ合セタルリ也。〓

(285) 龜蝦眼赤、湖水浪滔^レ天 へ是モ、魚カ眼ノ赤イトテ、天ニクラヘタワ、不會ノ理ナリ。〓

(286) 棠知風穴知雨 へ是モ、天災不會不^レ斗、棠ヲ能ククイ合スルナリ。又蟻モ雨ヲ知トワ、知ラサルナリ。〓

(287) 鬼箭風前落 へ是モ、不斗道リ也。風ノ可^レ吹前ニ、鬼箭モ可^レ落トワ、何ニカ可^レ思ソ。シ合タルリナリ。〓

(288) 女子出定 へ是モ、世尊彈指ニ出間敷トモ不^レ思、罔明ノ一彈指ニ可^レ出トモ不^レ思、不斗シ合ナリ。〓

(289) 灵雲見桃花 (19オ) へ是モ、少モ工ミ不斗ナリ。灵雲モ見桃花可悟トワ不_レ思ナリ。〳

(290) 世尊拈花迦葉微笑 へ是モ、同意也。工ミ不斗ナリ。〳

(291) 阿闍世王放_二醉象_一、世尊指頭現_二獅子_一 へ是モ、同心也。阿闍世王放醉象ヲトワ不_レ思、現獅子ト少モ不_レ思、工ミ不斗、シ合タル理也。〳

(292) 三年逢一潤 へ是モ、潤月ノ在季ワ、門エ_(王)□ワ御_(下)□在テ御坐有呈ニ、主ニ無主相、アイシライナリ。〳

拾六、一理々々之通

(293) 甜瓜_(蒂)徹_レ蒂甜、苦瓜連根苦 へ是ハ、一理々々ソ、ト云理也。アマキモノワ始終アマク、苦キ者ワ始終苦シ。ソレガ、性ヲ不_レ失以出也。〳

(294) 瑠璃脆_レ生鉄硬 へ是モ、脆キモノワモロイガ、本性、硬キモノワ硬イガ、其性ゾ。ソノ時、一理々々ナリ。〳

(295) 天是天地是地 へ是モ、天ワ天、地ワ地ゾ。時、只一理々々ゾ。高イワ高、低イワ低シ。其性ヲ以テ出ルナリ。〳

(296) 碧岫峯頭思大口、堆裏_(紅塵腕カ)誌公心 へ是モ、同心也。碧岫峯頭ハ思大口、紅塵堆裏誌公心、始終ソレ々々、己レ々々ガ性ヲ不_レ失、以テ出ル也。別喚カエヌナリ。〳 (19ウ)

(297) 惶々底_レ々々底 へ是モ、己レ々々カ性ヲ以テ出ルナリ。一理々々ナリ。〳

(298) 天上星地下木 へ是モ、一理々々、ソコノノ性ヲ以テ出ル理ナリ。〳

(299) 丹霞_レ燒_二木佛_一、翠微供羅漢 へ是モ、一理也。己レ々々ガ本性ヲ以テ出ルナリ。〳

拾七、不移易之通

(300) 手舞足蹈 へ是ワ、不_レ移易理也。手ワ元来舞、足ワ元来蹈也。此時、其_レ佩ノ性ヲヒビカス也。〳

(301) 手不_レ踏足不_レ取 へ是モ、同心也。手ワ踏ヌゾ、足ワ取ヌゾ、トミタ時、此ノ性ワ、ソツトモ不_レ移易ナリ。〳

(302) 馬有鬃牛有_レ角 へ是モ、馬ワタテガミカナウテワ、牛ニワ角ガナウテワ叶ヌゾ、トミレバ、其_レ佩ノ性デ不_レ移易ナリ。〳

(303) 三年逢一潤、鷄向五更鳴 へ是モ、不移易理ナリ。誰モ此ノ理ヲ知タ、ト云心也。早_(畢)竟ワ、其_レ佩ノ性ヲ指也。又、誰モ知タ程ニ、不_レ言トモノ衷ヨ、ト云理モ在也。此ノ時ワ、イワヌ用処ナリ。〳

(304) 鴨頭不赤、鶴頭不緑 へ是モ、カモワ頭カ赤ワナイゾ。鶴ノモ緑リニワナイゾ。ト云ワ、其_レ佩ノ性ヲ云也。不_レ移易ナリ。〳

(305) 松有棘曲 へ是モ、少モ不移易、其_レ佩ノ本性デ在ゾ、ト云理ナリ。〳

(306) 玄沙築破 (20オ) 指頭 へ是モ、築破ノ処テ、吾ト心得ル也。此ノ時不_レ依_二雪峰_一、不_レ移易也。玄沙不_レ見_二雪峰_一、又嶺ヲモ出ヌリ也。元来不傳々々ナリ。〳

(307) 達磨不来東土、二祖不往西天 へ是モ、同心也。達磨不_レ見トモ、何モ一ツ也。此ノ時不_レ出、不_レ移易ナリ。〳

(308) 二祖三拜依位立。へタル幾モ、我見解々々迄也。不傳ノ傳也。去社、達磨モ二祖ヲホムル也。不_レ移易也。亦此ノ大夏ヲ皮トミレバ、徹底皮、又骨トミレバ、徹底骨也。肉トミレバ、徹底肉、^(髓)トミレバ髓也。此ノ時、只其見処呈ニ在、此性ワ、此時四哲優劣ハ有間敷キ也。又三拜ノ立タル処テ、其ノ位ヲツイダト云理ワ、不_レ言トモミエタゾ、ト云理ニモ在用イアリ。〳

(309) 黄金碎々黄金。へ黄金ノ像ヲイレバ、早別ニナル也。サレ共、金ハ金ノ性デイタ時、其_レ佩デ不_レ移易也。〳

拾八、我佩之通

(310) 土地神前下二分飯。へ是ワ、吾佩ソ、ト云理也。鬼神ワ悪キ者ソ、ト一度識破シツレハ、イコワアタバナシ得ヌゾ。呈ニコゾ、ヨイ出セウ共、於テ又當尉ヲコナワセウ共、又飯ヲクワセウトモ、吾カ佩ナリ。〳

(311) 家無小使、不_レ成君子。へ是モ、コキイタセウ共、置テ小使サセウ共、吾佩走ヨ。〳(20ウ)

(312) 欄柄在二手裡。へ是モ、吾カ佩也。欄トワ、田ヲカク、ムマガワ也。柄トワ、馬グワノエ取処也。田ヲカク時、ムマガワヲ。サキエモアトエモ、ソハエモ、吾佩也。〳

(313) 拊掌三下。へ同心也。召使ウ者ワ、吾シンタイ召ス時ワ、掌ヲ扣ク也。三ツ扣ク也。サテコゾ、三下也。外人ニワ、セヌ也。〳

(314) 傀儡棚上牽絲。へ同心也。イトヲ引テ舞トモ、又、不_レ引ノ置トモ、只吾佩ナリ。〳

(315) 趙州二庵勘破。へ二庵主ナカラ、同シヤウニ拳頭ヲアクルニ、独ヲバホメ、独ヲバウケガワヌ也。好キヲヨキトセス、悪キヲ悪キトセス、只我カ云イタイ佩ナリ。〳

(316) 金稻啄残鸚鵡粒、碧梧栖荒鳳凰枝。へ鳳凰栖荒碧梧枝ト云ウスカ、碧梧——枝ト云イタイ佩ニ云タワ、吾佩ナリ。〳

(317) 一盤麵由人造作。へ同心也。小麦タニアレバ、雲トシニ打作ウ共、山麵ニセウ共、我佩ナリ。〳

(318) 花須連夜開、莫待曉風吹。へ吾モ、吾佩也。春風ヲ不_レ受、ヨイニ發イタルワ、王威ノ得也。我佩也。又、開キ合タ透リニモ可_レ看ナリ。〳

(319) 祥麟無双角。へ麒麟・鳳凰ワ、瑞ニ依テ出モノ也。時世ノ祥瑞ヲミテ、出タケレバ出、ヨソへ移リタケレバ移也。又、別ニ多イゾ、ト云理モ在ナリ。〳(21オ)

拾九、不瑠琢之通

(320) 大抵還他肌骨好、不塗紅粉轉風流。へ是ワ、不_レ瑠琢ト云心也。生レナカラ好キハダヘワ、紅粉ヲヌル迄モナシ。自ノ風流也。悪キ肌ニコゾ、ケワイヲハスレ。是ワ、手ヲツケヌ、ト云理モ用ウナリ。〳

(321) 月裡姮娥不展眉。へ是モ、少モ手ヲ付ヌ、ト云理ナリ。〳

念、手不出之通

(322) 胡兒馬弓射殺追騎。へ是モ、吾カ手ヲ出ヌ、ト云理也。古夏云、馬

ヲムイカケテ、来人ノ弓矢ヲ以テヲツトツテ、追者ヲ射殺スル
ワ、吾老ヲバイエモ、ト云理ナリ。吾カ手ヲバ出ヌゾ。〳

(323) 麦裏有^ニ麵^ニ へ是モ、我手ヲ出ヌ、ト云用処也。ムキノ中ニ草麵ワ
有ソ、ト云ワ、吾手ヲ出ヌナリ。〳

(324) 因款結案 へ同心也。己カ咎ニ依テシハラレタ、ト云ワ、ドコニ我
手ヲ出シタル亶ゾ。〳

(325) 婆借裙子拜婆 (21ウ) 年 へ同心也。婆子ノキルモノヲ借テ、婆ノ
年ニアヤカル羊ニ、ト云ワ、吾手ヲバ不^レ出ナリ。〳

(326) 騎^テ賊馬^ニ趁^レ賊 へ同心也。人ノ取タ馬ニノツテ、又賊ヲ趁タトミ
ヨ。吾手ヲハ、ツイニ不^レ出亶ナリ。〳

(327) 体露金風 へ風カ体ヲアラワシタ、トミヨ。我手ヲハ出ヌナ
リ。〳

(328) 汝是惠超 へ我手ヲ不^レ出^レノ、他ノ物ヲ其假受用スル理也。吾家テ
ワ、一此ノ手段ガナクテワゾ。早^(畢)竟本有^レノ性テ置也。法眼宗ワ、
如^レ此可^レ看。〳

念一、貧處之通

(329) 蓋膽毛有多少 へ是モ、胸中ニ何モナイゾ、ト云理也。心間ニワ、
毛ガ有^レ亶ワ不^レ知、佛法・世法トモ尽^レタ理也。〳

(330) 曾經巴峽猿啼處、鉄鎖心肝寸断腸 へ心肝ニ一世亶ナキ也。如何ナ
ル鉄鎖心肝ナリトモ有^レラバ、巴江テワ、断腸スベキゾ。ト云ワ、
一点モ心肝ニナキ程ニ、三峽ヲ過ルトモ、断腸スマシキゾ。ト云
ワ、胸中ニ佛法モ世法モナイ證拠也。宗旨ノヲク心ナリ。〳

(331) 打地柴擲^ニ竈底^ニ へ胸中ニ一言モ可^レ言亶カナキ呈ニ、只打^レ地、ソ
バヘヨセツケヌゾ。アマリニガコナ程ニ、有^レ様サウニシタゾ。一
日僧ニ棒ヲ奪^レテ後ニ、ロヲハル也。胸中ニワ、腹ノワタワシラ
ス、ト云理ナリ。〳 (22オ)

(332) 趙州東壁掛胡芦 へ何テモアレ、胸中ニモノヲ持ヌ、ト云理也。少
モ中ニアラバ、胡芦デワナシ。佛法・世法共ニ、一点モナシ。是
ガ向上ナリ。〳

(333) 取柴一片擲^ニ在釜中^ニ へ釜中ニ柴ヲ入テ、ニヘキ亶ワ不^レ知、ト云心
也。又覺隱派ニワ、看目ノ手ニミル也。后ニ、ロヲハツタルワ、
目クラノタメニワ、口ガ眼コ也。何ニモ問テ心得ル程ニ、柴ヲ釜
中ニ入ルモ、目暗ノ證拠ナリ。〳

(334) 秘魔懷中撞入云、三千里外賺來我 へ胸中ニ何モナキ程ニ、道得モ
道不^レ得モ、杖下死^ト、ヤウアリサウニシ、人ヲヨセ付ヌナリ。
大禪佛祖之頭ヲ懷エツキ入テミレバ、真个何モナキ呈ニコゾ、三
千里外賺來我、ト云ナリ。〳

(335) 明朝依^レ樣昼^ニ胡蘆^ニ へ是モ、我カ処ニ、何モナキ程ニ、胡芦也。少
シモ在^レバ、ヲシアテム可^レ移ゾ、ト云理ナリ。〳

(336) 明朝依^レ樣昼猫兒 へ是モ、移^レノミスヘキ、ト云タワ、此ニ可^レ見亶ワ
ナシ、迄ナリ。〳

(337) 為^レ後人作^ニ榜樣^ニ へ是モ、臨^(濟)齊ノ、余リニシユウス亶カナキ呈ニ、
松ヲ種テ為^レ後人作^ニ榜^ニ、ト云也。是ワ、只居ヨリワ、ト拳ス
也。〳

拾拾二、心歸心之通(22ウ)

(338) 清淨本然、云何忽生山河大地。へ是ワ、何ト生スルトモ、此ノ心ヨリゾ、ト云心也。心ヨリ万像ワ出テ、畢竟心ニ歸也。瑯琊覺ノ声ヲバケマズ幾ワ、トコニサテ山河大地ワ在ゾ、ト云理也。山河大地トワ云ヘドモ、目ニモ不見也。此性テヤリ渡ス時、目ニワ不見也。へ

(339) 從無住本立一切法。へ是モ、同理也。此心ヨリ一切ノ法ヲ立タ迄ナリ。へ

(340) 三界唯心所現。へ是モ同理也。心ヨリ出テ歸心、出処ト歸処ト少モ別ニ不可見也。へ

(341) 從無住本流出万端。へ是モ、同心也。智モ心ヨリ尽ク万端ニ渡合タ迄也。へ

(342) 大智於心發。へ是モ、同心也。智モ心ヨリ、惠モ心ヨリ出生メ、心ニ皈也。心又無心也。智ハ無智也。無智ハ、是大智也。無心ハ、是本心ナリ。へ

(343) 昼春不昼楊梅桃李。へ是モ、心ヲ肝要ニスル也。春ノ融然タル本心ヲダニ見ツレハ、花ノ色ニナルワ、入ヌコトゾ。只本心ヲミルコゾ、肝要ナレ。へ

念三、窮變之通

(344) 甕裡走却鼈。へ是ワ、ツンドノツマル処テ、ヨク出身スル理也。鼈カツホノ中エ入テ、更ニ可出羊ナイ処コゾ、我家ノ出身ノクツ

ロキ処ヨ。甕ワ、カメノ甕也。へ(23オ)
(345) 老鼠入牛角。へ是同理也。牛ノ角ノ中ニツト入ル処テ、ヨク出身ナリ。へ

(346) 大疑下大悟。へ是モ、同理也。ツントツマル処テ、ヨク悟ル也。出身ノ理也。同夏也。へ

(340) 坐却舌頭參活意、扭回鼻孔弁生縁。へ是モ、同理也。ツントツマル処テ、參活句、ツントツマル処テ、弁生縁也。是カ、出身ノシ羊ナリ。へ

念四、不生滅之通

(348) 四更山吐月、殘夜水明樓。へ是ワ、月ノソツト出処テ、ハヤ爰エ明也、ト云心也。アレ共、心月ワ此エ来タテワナシ。出タレドモ出ヌ也。早竟不生不滅ナリ。へ

(349) 水自竹邊流出綠、風從花裡過來香。へ是モ、此エ流出シタレ共、竹ミドリガ、真个此エ来タテワナシ。チャツト移タ迄也。風モ花ノ香ヲソツト送来也。真个花ヲヒキ来ヌ程ニ、出ヌ也。不生不滅ノ理ナリ。へ

(350) 佛身雖無位、有生亦有死。へ是モ、出タレトモ出ヌリ也。佛身モ生シ来、死去タレトモ、早竟無位ニ皈ルトミレバ、不生不滅ナリ。へ(23ウ)

念五、極位之通

(351) 夜半正明。へ是ワ、洞上ノ極位ヲ、黒ガ明ス、ト云心也。正明ト云

ワ、マサシク明ム、ト云ナリ。〳

(352) 天曉不露 へト云ワ、天曉ワ、白也。其時黒処不露、ト云幾也。又夜半デモ、此正ワ不黒程ニ、正明ト云ワ、白也。天曉テモ不見ル呈ニ、不露ナリ。〳

(353) 牡丹花下睡猫児 へ是ワ、暗ガヨク明ス、ト云理也。睡猫児ワ、暗ノキム耳也。牡丹ワ、明ノキム耳也。暗テ明シタト可言也。又、暗カ極位ヲ明シタト云モ、又、昼クト云モ、在真ノ極位テワナキノ、ト云用処也。真ノ極位ニ至レバ、暗トモ黒トモサタワ有間敷也。明暗ノサタヲスルワ、主ト賓トヲ立ル位也。主中ニ至テ、主ノサタワナキナリ。〳

(354) 黒々明々三八九 へ是モ、黒ガ極位ヲ明スゾ、ト云理也。サテ、明々ト云也。三八九ワ、二十也。二十ワ、念ノ字也。念ワ、無念也。黒処カ、無念ノ処也。是カ、極位ナリ。〳

(355) 睡中消息太分明 へ是モ、睡中ワ睡ノキ々耳也。ソコヨリ太分明ト云ワ、明ムル理也。明ノ用処也。〳

(356) 如人暗中書、字々雖未成、文彩已彰 へ是モ、字ノ不彰処カ、洞上ノ極位、ト云理也。サテコゾ、暗中ノ字ナレ。〳

(357) 黒騎猫児面門班 へ是モ、黒カヨク明ス、ト云理也。(24オ) 黒猫児ニ白キ処ワナケレトモ、面門班也、ト云処テ、白ノ字ノ心ヲ明ス、ト云用処ナリ。〳

(358) 半夜烏鷄帶雪飛 へト云ワ、半夜モ黒、烏鷄黒也。雪ヲ帶ト云ワ、明スト理ナリ。〳

念六、其佩之通

(359) 鐘楼上念讚、床脚下種菜 へ是ワ、其佩ノ行李也。一点心ニツクルキモナキ也。何ニヲ目ニカケヌ行李也、向上也。又吾佩ト云理テワナキ也。只是ワ、其佩ノ行李也。〳

(360) 不用塩醬喫 へ是モ、不瑠琢理見也。別ニ味ヲ不付也。其佩ナリ。〳

念七、不借他力之通

(361) 強將下無弱兵 へ是ハ、好キ大將隨テ、又不隨理也。吾ト一ツハタラキヲナスコゾ、勇夫テワアレ。好大將ノ指南ハカリ受ルワ、兵ニハ不_レ在、ト云也。〳

(362) 孝子不_レ使_二爺錢_一 へ是モ、同透也。ヲヤノ扶持斗リヲキルワ、ヨキ子デワナシ。扶持ヲ受コゾ、ヨキ子ナレ。自力ト云リ也。〳

(363) 我自(24ウ)調心非_二汝子_一 へ是モ、同心也。隨テ不_レ隨、ト云道理ナリ。〳

(364) 猛虎不_レ喰_二伏肉_一 へ是モ、威ヲ振テ吾ト思也。伏肉ヲバ不喰ナリ。〳

(365) 大象不_レ遊_二兔徑_一 へ隨テ不_レ隨也。ホソキ路ヲバ踏ズ、吾トハタラクナリ。〳

(366) 東山陳中隱語 へ是ハ、吾家ノ秘密也。知音ノ者ハ知、不知音ノ者ワ不_レ知、陳中ノイン語也。本位ヲヨク心得レバ、鼻カムモ、シワフキヲスルモ、ヤカテ通也。是カ、宗門極位ナリ。〳

(367) 驢尾猪頭牛脚跡 へ理ノツムカヌ、ト云リ也。言語入ヌ心也。本位ヨリ看レバ、何ニモツムイタ言語ワナシ。

(368) 胡蜂不戀旧時業、猛将豈有家中死 へ是ワ、前ノ跡ヲ不レ跡、ト云理也。蜂サエ業ヲバ二度トワ跡ヌゾ。况ヤ宗門ノ大將カ、家中デ病死ヲバシユウズ、敵ト打合テ高名セテワ、ト云心也。此透多シ。

(369) 物見主眼卓豎 へ是ハ、ヤカテミテ取也。主ノ怒ル心ワ、眼ノキツト豎処テミユル、何トモ言イ出サヌニ、ミテ取ル社、好見ル理ナリ。

(370) 直得梁王ノ怒眼睛。 へ梁王ノ氣ケンノ悪クメ、怒ル目元ワ、ヤカテミタゾ。

(371) 見之不取、千歳難逢 へ是ヲミテ不レ取ハ、目モツテ何ニシユウニ、ヤガテミテ取タゾ。

(372) 眼裡有筋、眼有稜角 へ目ノ赤クカ(25オ) ドノ立タルワ、ミヘタモノヲ、ト云リナリ。

(373) 世尊陞座、文殊白槌 へ一言モトカヌニ、ミテトツタゾ。

(374) 馬祖陞堂、百丈卷席 へ同心ナリ。

(375) 下坡不レ走、快便難逢 へ下坡走処テ、快便可レ逢コトワ、ヤカテミエタゾ。此心ワ、寸シモサシヲクナカレ、ト云心ナリ。

(376) 鼓鳴犬吼。 へチャット聞テ取り、チャット看テ取、ト云リナリ。

(377) 水無筋力 能留三方斛船 へ是ハ、一向ニ知ヌゾ、ト云心也。千石万石ヲ船ヲ浮レトモ、水カカラ在ト知ラス、船モ水ニ浮トモ不レ知、サリトモ、舟ワ水ニイテ、ヨク行也。一向知ヌ、ト云リ也。

(378) 高原陸地不生蓮 へト云ワ、如何ナル種ナレトモ、カン地ニワヲヘヌゾ、ト云理也。私云、早地ゾ。早物ト云モ、佛地ヲ云也。佛地ニバカランテ至程ニ、早地ト云也。(果カ) サテ社、陸地ト云ワ、佛地ヲ云也。蓮花モ佛地ノモノナリ。陸地ニ生レ蓮ト云ワ、徹底佛地ノ時、沙汰ワナイゾ。

(379) 返披孤裘 へト云ワ、不露面目ト云用処也。下テ、入レ泥入レ水処ワ、本分ノ面目テワナシ。本分ノ面目トワ、不レ下処、他ニ不レ随ナリ。

(380) 千兵易得、一將難求 へト云ワ、妙処ノ用処也。何トテナレバ、吾コソ一將ト名乗トモ、吾ガ徳ニ依テ、大將ト崇ル也。是ワ、妙処ノ用也。一將トワ、妙処ヲサスナリ。

(381) 將謂藏頭、白海頭黒 へト云ワ、馬祖ノ問百丈知藏(25ウ) ナンドト云タル幾ワ、余リニ道ス叟カナキ呈ニ、カナタコナタエトヌリヤウテ云也。一人ワ頭カ白ク、一人ワ頭ガ黒キ迄ヨ、ト云幾也。別ニハ道リワ更ニナキ叟也。

へ類五大道在之。碧岩香巖ト在之。

曹山寂禪師、僧問、如何是道。師云、枯木裡竜吟。僧云、不會。師云、觸髅裡眼睛。後有僧問三石霜、如何是枯木裡竜吟。霜云、猶帶喜在。云、如何是觸髅裡眼睛。霜云、猶帶識在。又僧問曹山、如何是枯木裡竜吟。山云、血脉不断。云、如何是觸髅裡眼睛。山云、乾不尽。云、未審還有得聞者麼。山云、尽大地未有一个不聞。云、未審、竜吟是何章句。山云、也不知如何章句、聞者皆喪。曹山頌、枯木龍吟真見道、觸髅(26オ) 無識

眼初明。意識尽時消息尽、當人那弁濁中清。

〈類廿、猫犬在之〉風穴沼禪師云、五百猫兒爪距、養来堂中絶蟲行。分明上樹安身法、切忌遺言許外甥。へ女方ノ親類ヲ外ト云ナリ。石門聡、作麼生是許外甥底句。良久云、莫錯拳。

〈類一三、透化在之〉楊億侍郎將滅時、問環大師、某甲四大將欲離散、大師如何相救。環乃槌胸三下。楊云、頼過作家。環云、幾年学佛法、俗氣猶ヲ未除。楊云、禍不單行。環作嘘々声。楊尋書偈、令達李都尉云、漚生与漚滅、二法本来齐。欲識真歸處、趙州東院西、李見、遂云、泰山廟裡賣紙錢。亟至楊始熟睡、李憾之已逝矣。(26ウ)

生年八十四歳

勝岩叟(朱印二顆)

圓應室中法衣箱置之華岳藝叟(花押)

(終わり)

資料(二)『十則正法眼蔵』諸本の比較

〔翻刻凡例〕

一、本資料は、円応寺蔵『十則正法眼并抄』(「円応寺本」本文)、

円応寺本「抄」、『秘密正法眼蔵註解』(「註解」、『續曹洞宗全書』

「注解」所収)、龍泰寺蔵『祥雲山龍泰禪寺門徒秘參』所収「十

中世曹洞宗における本参研究序説(二)(飯塚)

則正法眼(「龍泰寺本」、正法寺蔵『月泉派秘參』所収「十則正法眼蔵」(「正法寺本」、大安寺蔵『本参』所収「十則正法眼」(「大安寺本」、以上の諸本を比較対照するものである。一、便宜上、序、各則(第一則〜第十則)、跋の十二項目に分けて、諸本を翻刻した。

一、翻刻に当たっては、先の『二十七透句』の「翻刻凡例」に準拠した。

(序文)

〔円応寺本「本文」〕

洞谷開山永祕密正法眼蔵卷序

(壺カ) 宝山比丘記

一華纒開、而九季少室坐冷。今惠可得髓、而末後倚位不_レ言。今_マ五葉既分、而千秋扶桑機昌也。然則洞門種子、竜_ノ、驟_ノ、鳳_ノ、翔_ノ、填_ノ、渠_ノ、壑_ノ、為_レ英_ノ、為_レ傑_ノ、扶_レ聖_ノ、救_レ凡_ノ、實_ニ希_ニ有_ニ也。雖_モ然若不_レ參_ニ古人_ノ古德_ノ公案_ノ、争_ニ得_ニ習_ニ後代_ノ兒孫_ノ。而今方_ニ拳_ニ古德_ノ之模範_ノ、聊_ニ以_ニ明_ニ禪林_ノ繁茂_ノ而已。向_ニ後_ニ拜_ニ吾_ノ兒孫_ノ。曹_ハ者_、詳_ニ審_ニ辨_ニ明_ニ、可_レ駭_ニ佛祖_ノ慈悲_ノ蔭_ノ之恩_ノ者也。其_ノ旨_{見_ニ後_ニ章_ニ矣。伏_ニ希_ニ興_ニ隆_ニ佛_ノ法_ノ、兒孫_ノ繁_ニ昌_ニ者也。}

秘密正法眼蔵卷

(一)

〔円応寺本「本文」〕

一、拳。靈山會上、百万衆僧前、世尊拈花瞬目、迦葉破顔微笑。世尊言、吾有正法眼藏涅槃妙心、實相無相、微妙法門、教外別傳、不立文字。今日親付屬摩訶迦葉。副貳傳化、勅阿難、如是傳來、嫡々相嗣、無令斷絶。

へ瑾上坐、右伏以、當昔會上、一人無此个拈花微笑時節、世尊當拈花之時、是什麼時節。又於迦葉微笑之時、又是什麼時節。若人直下見得、古今一時透徹去也。可謂不因今日、爭語昨夜夢。後來徑山清了禪師曰、世尊有密語。古渡春殘、迦葉不覆藏、落花流水。又雪豆智監禪師曰、世尊密語、迦葉不覆藏、一夜落華雨、滿城流水香。此是古人拳古明、今榜樣也。我且問諸人、當昔拈何花、笑何花。當此時、端的道看。打曰、蹉踢了也。又曰、還會麼也。唯一堅密身、一切塵中現。

〔註解〕

第一拈花微笑話

世尊當拈花之時、是什麼時節。又於迦葉微笑之時、又是什麼時節。若人直下見得、古今一時透徹去也。〈拈團扇瞬目云、有透徹底麼、有透徹底麼。不因今日事、爭語昨夜夢。〉抄云、因今日事底作麼生。徑山・雪竇之兩則幸。判云、此是古人舉古明、今榜樣也。古今句中自見不及再三。我且問諸人、當昔拈何花、笑何花。代云、瞬目破顔。抄云、有承當分、下第二義門、下注脚一看。代云、心花發明照十方利。當此時端的道看。打云、蹉踢了也。抄云、棒頭以前、當此時端的道看。代云、我眼本正、

因師故邪。抄云、已心花發明、照十方利、爲什麼邪。代云、悟不無、落在第二頭。〈再三云、棒頭以前者、非尋常不觸眼。打云、蹉踢了也者、拈何花、笑何花。大衆眼目定動、蹉於目前故打又云、還會麼。唯一堅密身、一切塵中現。抄云、如何領解。代云、隱密全該、現成公案。抄云、一切塵中現、正恁麼時如何。代云、良久云、我今盧遮那。抄云、堅密身又如何。代曰、夫實久遠實成如來。〈瞑目良久、唯一堅又如何。代云、拈花瞬目、亘古亘今。參。吾有正法眼藏涅槃妙心、實相微妙法門。〉便有意氣云、吾有正法眼藏、諸人分上作麼生。代云、隱密全該、現成公案。抄云、隱密與現成、爲有殺訛、爲無殺訛。代云、唯一堅密身、一切塵中現。涅槃妙心、涅槃者、不生不滅。久遠實成如來、妙心妙體上之飾、我今盧遮那。實相者、諸法實相、我今盧遮那。微妙、妙、又褒美之辭。夫實、久遠實成如來、寔非微妙哉。抄云、畢竟佛意作麼生。代云、萬古碧潭空界月、再三撈擁始應知。參。跋云、拈花微笑話、三世諸佛一大事因緣也。一大事因緣、唯一堅密身、一切塵中現。

〔円応寺本「抄」〕

一、世尊拈一枝、迦葉微笑。世尊云、吾有正法眼藏、涅槃妙心、實相無相、微妙法門——付囑摩訶迦葉。抄云、付囑底道理作麼生。代云、折梅向驛使、寄与樓頭人。又抄云、喚甚麼爲正法眼——法門。展開兩手云、十个指頭八个穴。

註云、折梅向驛使寄——人トハ、人ノ秘藏スル梅花ヲ折テ、所ケンダン人ニ向テ、アマリニ迷惑シテ、フツト云ヤウハ、此ノ花ヲバ樓頭人ニマイラセンガタメナリ。樓頭人トハ、其國ノ主人也。此ノ心ハ、世尊ニ迦葉ニ付嘱セウスト、カ子テ不レ得「□□フツト主眼ノ具シタ人ニタクミ不レ斗付与シタマデヨ。又了庵派、十个指頭八个穴□□トハ、用也。八个穴、ナヲ正法眼藏、涅槃——法門ト、穴□□ヲカズヘアワスル也。真□□正法眼——門ヨ。是レハ、花ニモ用処ナシ、拈処ニ用処アリト用也。拈処トハ、手中□□ナリ。無門ノ批判、懸羊頭賣狗肉、ト云心ハ、花ニ用処ハナイソ。拈ノ処能ク見、ト云心也。羊頭ヨリ下ヨク見ヨ。下ガ大事也。大事ノミ八个事ソ。ト云ハ、拈ノ手中好見、ト云心也。八个ノ穴ノ処見ヨ也。此ノ話ニワ、從始一タニ参得多キ也。口傳心授多也。更参三十季、唯佛与仏ノ——也。只ノ人不知不見也。當門派ニモ□□イ到此話多キ也。畢竟無師知、処取也。根莖枝葉因果同時、肝要也。

〔龍泰寺本〕

十則正法眼藏始也。

世尊拈華、迦葉刹竿、武帝達磨、六粗不階級、無靜說法、六害一句之話、青女離魂、托鉢下堂、仰山枕头之話、夾山道木曾之話。

世尊拈華。師云、拈処ヲ。代、学、師ノ前ニ至テ、童子ナドガ歩ル羊行テ、カアクリウ、ト拳ス也。心ハ、二ツヤ三ツヤノ子童ニ、父ガ鳴ケバ、此ノ花クリウ、ト云ワレテ、咲含タ如クタゾ。師云、迦葉ノ微笑ヲ。代、當人ノ咲含ム也。師云、句ヲ。代、聞々相合シ、

句々相通。是レハ、光山扣也。亦一説ハ、世尊・迦葉ノ立処ヲ。代、実相ハ無相デ拈ジテ走。師云、迦葉ノ微笑ヲ。代、無相コソ実相ヨ、ト微笑ノ走。師云、頌ニ尾巴已露、頌タヲ□□。代、天上天下——尊ト云尾巴ガ、爰デ露テ走。心ハ、尾巴ハ本位也。獨尊ト云ハ、無相ヨ。無相コソ実相ヨ。亦大洞ハ、世尊迦葉ノ立処ヲ。代、照体俱在位裡。師云、位裡デノ對シ羊ヲ。代、世尊ハ用処ニ在テ、体処ノ迦葉ニ對シ、迦葉ハ体処ニ在テ、用処ノ世尊ニ對シ走。師云、微笑シ羊ヲ。代、指ヲ以テ、師ヲ指テ、得道サウナヨ。師云、世尊ノ処ノ畢竟ヲ。代、九重密処、敝掛由来露ニ妙傳。又師云、不立——屬ヲ。代、極処密処亦何ント作シ、敝掛由来妙傳露。心ハ、敝垢、衣ト云ハ、仏衣一也。妙傳露向附属シタゾ。

〔正法寺本〕

十則正法眼藏。第一拈華話。師云、世尊ノ拈処ヲ。先ス是ワ、拈処ガ干要ダ。悪クスレバ、枯色ニナル。ト云ワ、四時遷謝ト看ルワ、枯レタ一ダ。拈処ノ眼睛ヲ、却外ノ春ト云タゾ。代、兩手ヲ握テ、一華開テ開五葉。心ハ、兩手ヲ握タソ。十个指頭、八个ノ阿ヲ見セシメタ一ダ。ト云ワ、本分ヨ。一華ト云ワ、心ヨ。本分ヨリ、五葉ト開ケタ。業性三昧ニ云バ、地水火風空ヨ。四方中央・五智・五佛トモ云イ、今末代ニ五家ト開ケタモ、此ノ一華ダ。師云、迦葉ノ微笑ヲ。代、兩手ヲ開テ、元ト無根本。心ハ、無根本ト云テ、何モ無イデワ無イ。拈処ガ無根本ト、領狀ノ笑ダ。ト云ワ、色相ノ上デ、本分ヲ看タ。師云、正法——藏。代、へ半目ニシテ、至テ、ア

ツカトシテ坐ス。師云、夫ワ何ントテ。代云、科頭^ニ箕居^ス、長松下、白眼他見世上^ノ人。心ハ、此ノ正法ヲ本位トモ云イ、末代ニワ正位トモ云タゾ。此ノ本位^ニ叶ガ、我ノ眼タゾ。眼ガ藏ダ。一切ヲ爰ヨリ受用シタソ。挙処ニ心ヲ付テミベシ。句モ、科——人ト云ワ、癩士ノ句面ダ。ト云ワ、アノ肌取捨憎愛ワ有テコソ。白——人、眼筋ワ出テムコソ、正法眼ヨ。ト云テ、アレガ夫レダテワ無イ。本分正法ヲ比ノミタ。亦女子ノ子^ノ産ム句面ニモ云ウ。長松ト云ワ、取り付テ居ル繩ノ一^ノダト云。箕居スト云ワ、母ハ箕ノナリテ居ル。白——人^ニミラル。只今生タ赤子^ノ眼ノ一^ノダ。サテ、正法眼デハ無イカ。師云、涅槃妙心ヲ。代、トツクト坐ソ、牙齒^ヲ三度鳴ス。心ハ、トツクト坐ソタワ、涅槃ダ。三度鳴タソ。沈マヌ一機妙心ヨ。サテ亦、涅槃ト云ハ、不生不滅、ムムムニ落ヌガ、妙心ダ。坐ト云イ、禪ト云モ、此ノ一^ノダ。師云、實相無相ヲ。代、我が指ヲ以テ、口ヲサシテ、亦空ヲサス也。心ハ、有為ノ法ヲ借ツテ、紅緑リト出ハ、實相也。ソコデ、無形無相^ノ主ヲサシ、無相ト云也。呈ニ、我が口ヲサシタワ、實相ヂヤ、空ヲサシタワ、無相ダ。空ト云ワ、佛性ノ空ヨ。我ハ、色相ヨ。師云、夫^ハ何ンテ。代、出息不涉諸縁^ニ、入息不居隱界^ニ。心ハ、出息ガ諸縁ニ涉ラ子バ、目前ニモ留ラヌゾ。入息ガ隱界ニ居セ子バ、自己ニモ収ラヌゾ。此ノトキ、實相ガ、無相ヨ。体有ル物ハ、終ニ尽テ、無相トナル。畢竟自己目前一致ヨ。

〔大安寺本〕

世尊拈花微笑話。師云、拈花ミ笑ヲ。代、是ハ誰ソ、ヲウ。師云、

句ヲ。代、春光乱漫花争^イ開ク。心ハ、世尊モ此ノ誰ヲ拈^レ見セシメタ処ヲ微笑モ、此誰ソニ通ジタ^一ヨ。誰ソヲ正法眼ト云イ、涅槃妙心トモ云タホトニ、急度拈^レノガ、此誰ソニ、相^レ実^シミエヌゾ。見エヌトキガ、無相ダ。無相ガ即チ実相ダ。爰ヲ即法身トモ云タ。此ノ誰ワ、終ニ下ラヌ主^一ヨ。ト云ワ、実城本覚如々ノ体ノ一^ノダ。爰ヲ拈^レ示スガ、ミ妙ノ法門ノ唱起シ用ダ。ト云ワ、教法ノ外カ、單傳ノ心^一ノ一^ノヨ。世尊ハ、拈花以心ヨ。迦葉ハ、ミ笑傳心タゾ。ト云テ、ニツデハ無イゾ。拈花ミ笑一心ダ。此一^ノ心ヲ摩訶大——屬トヲ仰タ。如^レ是^レ至^レ今^ニ嫡々相承ダ。ホトニ、句ノ心モ季々春來レバ、花色ク処々ニ鮮カナト云ニ、改メタ夏ハ無イゾ。ト云ワ、摺目^ノ不^レ中^一、瑕ズ付ヌ^一ヨ。爰ヲ取テ、拈花ノ髓ト云タ。亦無相ノ妙心ニ證契^ノ見レバ、此ノ妙心ガ、春來ニ乱蔓タルト云タ。其ノ證拋タゾ。唯一^{堅カ}堅密^ノ身ダ。一切塵中ニ現ジタゾ。此ノ妙心三昧ガ、流水ニ随テ流^レ出タ。暗香ト云モ、妙心ヨ。在レドモ、悟話^ノスレバ、蹉過了也。畢竟妙心相統^ノ一^ノヨ。

(2)

〔円応寺本「本文」〕

二、挙。阿難問迦葉尊者、師兄傳^ニ世尊金襴袈裟^一外、別傳^レ何物^ヲ。尊者召^ス阿難^ト。々應諾。尊者曰、倒^ニ却^ル門前刹竿^一著^セ。阿難大悟。瑾上坐、右伏^テ以、迦葉召阿難、直下分明也。莫^レ存^ニ擬議^一。阿難應諾端的、是什麼ノ声^ヲ。若^シ於^レ當^ニ下^ニ悟去^一、有^ニ什麼^ノ許多^一。古人曰、兄呼

弟應揚_レ家醜、不_レ屬_レ陰陽別是春。迦葉纔召_レ阿難。錯_テ直應諾_ス。錯當_ニ此_ノ時_ニ、如何_カ悟去_{ラン}。打曰、是什麼時節。還會麼。直下來也、急著_レ眼看。參。

〔註解〕

第二、門前利竿之話

迦葉召_ニ阿難_一、直下分明。搵云、如何。代云、眼中童子面前人。阿難應諾端的、是什麼聲。〈代嘘一聲、_レ系_ニ之乎者也_一、有_ニ迷途_一、取_ニ其要_一言、直下分明、眼中童子面前人。端的是什麼聲。嘘一聲、阿難諾、毫釐無_レ差。批判。亦問與_レ答相通。傳_ニ金襴袈裟_一外、別傳_ニ何物_一。阿難直下分明喏、直下分明。兄弟共全不_レ存_ニ擬議_一。阿難當下悟去、有_ニ什麼許多事_一。當_レ知、傳_ニ金襴袈裟_一外。別何物之欺_ニ師兄_一。利竿倒却著端的、傳_ニ是什麼聲之語_一。見_下瑩山老婆心、下_ニ第二義門_一、萬人著_レ機。古人云、兄呼弟應揚_ニ家醜_一、不_レ屬_ニ陰陽_一別是春。若作_ニ兄弟會_一將_レ錯就_レ錯揚_ニ家醜_一。阿難喏、當下悟、不_レ屬_ニ陰陽_一別是春。搵云、當下悟底作麼生。代云、阿難喏、見色明心、聞聲悟道。搵云、爲_ニ什麼_一道、不_レ屬_ニ陰陽_一別是春。代云、春色無_ニ高下_一、花枝自短長。搵云、短長則陰陽。代云、花枝作_ニ短長_一、會麼。迦葉纔召_ニ阿難_一、錯錯。什麼處、直下分明。搵云、道_レ莫_レ存_ニ擬議_一。代云、錯著_レ手麼。阿難直應喏。錯錯什麼處。端的是什麼聲、錯。當下悟去、何著_ニ異端_一。瑩山機。世尊傳_ニ金襴袈裟_一外、別何物。此問端下、迦葉不_レ召_ニ阿難_一、阿難不_レ應_レ喏。當_ニ此時_一、如何悟去。〈便打云、〉是什麼時節、還會麼。直下來也。棒頭正眼明知_レ日。急

著_レ眼看。隨而跋云、門前利竿之話、一切祖師發明榜樣也。阿難大悟、大悟發明。棒頭正眼、瑩山棒下。阿難僑慢不_レ倒哉。

〔円応寺本「抄」〕

二、迦葉利竿。搵云、呼喚、且置、迦葉云、門前利竿倒却着_ト道意旨如何。代云、美言滯_レ心首、常作_ニ緣廬場_一。注云、利竿ハ、說法_ニタツルモノ也。ホトニ、阿難、四十九季、教内_ニト_レマル也。ホトニ、迦葉ハ、ソノ多智多解_ヲステヨ、ト示ス也。教外別傳、不立文字、処、智解_ノナキ処也。智解、皆教内也。代、心_モ同心也。法眼_ノ語也。又瞎駟_{不_レ逢}靈山_ノ機、扶起_ス吾宗_ノ大法幢。了庵派_ニハ、句_ヲ付ル也。

〔龍泰寺本〕

迦葉利竿。師云、此外別_ニ何_一モノヲカ傳ヲ。代、左右拳手ノ、是_レワ佛邊是_ハ祖邊、二三度拳_ノ阿難ヨツ_レ。師云、傳底ヲ。代、阿難ヨツ_レ。亦廣額猪兒_ニ行_ク時キハ、キツト喚_ハス當頭ヲ。代、某甲ハ和尚ノ境界_ニ住シ、和尚ハ某甲ノ境界_ニ住_レ走。師云、恁麼ノ時如何。代、眼中童子目前ノ人。師云、世尊ト廣額トキツト見合セタ當頭ヲ。代、世尊ハ廣額ガ境界_ニ住、廣額ハ世尊ノ境界_ニ住_レ走。師云、恁麼時如何。代、眼中_ニ人_一。心ハ、世尊・廣額_ニツナイゾ。句モ、眼中ノ童子ガ目前ノ人タ、ニツナイ_一タゾ。師云、迦_ニ何物傳ヲ_一。代、阿難ヨツ_レ。ト低頭_ノ三度_ト拳也。師云、句ヲ。代、兩口_一舌。師云、兩口_一舌ヲ。代、阿難ヨツ

ト挙ス也。永昌寺ノ一也。亦光山和尚挙派ハ、前ト一ツ也。句ハ別也。代、瞎駙不_レ受_レ靈山_ノ機、扶起_ス我宗大法幢。心ハ、瞎駙ノ肌エノ時キ、正法眼藏也。時キ、我宗大法幢也。

〔正法寺本〕

第二、迦葉刹竿之話。師云、阿難應諾_ノ幾ヲ。代、世尊モヨツ、迦葉モヨツ、阿難モヨツ、某甲モヨツ。師云、夫_レハ何ントテ。代、人吞水冷暖自知如_(ママ)。師云、自知_シ羨_(様)ヲ。代、暖イゾ。中道ゾ、ト云道里_(理)ワ、他ヨリワ受ケ走ヌ。心ハ、師兄——傳ル外ニハ、何ヲ傳テゴザ在ルゾ。ヨツ、他ヨリ受ケヌ道理ヲ傳ヘタゾ。句モ、人吞——自知。人_ニ習ウ物ガ、サテ、刹竿ト云ワ、説法度生時キ立テ、人ヲ集ル。サテ、修行デワ、會得・解會ガ幢コダ。ヨツト云処デ、梵行・修力ハ、タヲレタワ。師云、刹竿倒却ヲ。代、瞎駙不受_レ靈山_ノ機。心ハ、瞎駙ト云テ、世間不淨_ノ駙馬ト計リ云テワスマヌ、修力・識惑ヲ分ツワ、俄慢ノハタヨ。其ノ湿氣ノ無イ、平常ノ心地ノ衲僧ノ一ヨ。此ノ人ノ取り傳ル道里ワ、有ツテコソ。解會ハ、靈山ノ幾ダ。向ウ正法ニ陶タ_レダ。

〔大安寺本〕

△門前刹竿話。師云、世尊金襴——物、トラセラレタ幾ヲ。代云、師_ノ前エテ悠然ト師ヲ見テ居ル。師云、證拠ヲ。代云、聞々相通、眼々相對ス。亦聞々相通、心々相合ストモアリ。心ハ、金ラン衣トサスワ、表像ダトミレバ、此心ハ金ランノ外ダゾ。爰ヲ、阿難

ト召セバ、ヨツ、此ノ声ガ、其人ダデハ無イゾ。ヨツト云処エ、出タ心ガ在ルゾ。ト云ワ、迦葉モ當日ノ拈ズル処デ通ジタ妙心ヲ、今日シラシメテゴ_(ザア)——ルゾ。ホトニ、ヨツト云タワ、今ランノ紋綵ダ。其ノ声エノ内ニ在ル心衣ヨ。爰ニ叶ツタ迦葉・阿難一般一休ダ。ホトニコソ、ヨツト云直下分明デハアレ。挙処ノ底モ、キタヲ不_レ存ヌ_一ヨ。阿難、迦葉ニ對メト見ルワ、タワ_一タゾ。ヨツト云、此ノ正當、本覺法身、向上如々ノ本師ニ相見シタ。句ノ心モ、悠然トメ、按排_(ハ)ヲバナレタ正當、向上本覺ノ師ト、聞々——對シ、心々相合シタ_一ヨ。向一般ニ呈ニ、阿難ト召ス。ヨツト云正當ニ、吾家ノ大事ガ有リ、陰氣陽光_ニ居セヌ春意ガアルゾ。ト云ワ、声前ノ一句外_ノ一物ノ事ヨ。爰ヲトコデ三會シタゾ。ナレバ、ハツチト打ツ此時節デ皈シタ_一ダ。爰ヲ直下来也トヲセラレタゾ。急_ニ眼ヲ付テ見ヨ、ト云ノ幾モ、キタヲ存ズレバ、ヘダ_ニルゾ。

△阿難應諾。師云、應諾。代、師ノ前ニ居メ、阿難、ヨツ。心ハ、爰ヲ以_テ仏心傳心ト云タ。阿難ト召セバ、ヨツト答エタ。師_ニ不_レ学_(ナラハ)子父不_レ習_一ヨ。我レト自知ヨ。以心傳心デハ走ヌカ。師云、句ヲ。代云、庐山不_レ識真_ノ面目——在_ニ山中_ニ。心ハ、庐山ト指スハ、我レヨ。我レニ真ノ面目ハ具_ノ居タゾ。ホトニ、ヨツ、爰ニ出タワ、在レドモ、我レ具シタトハ、知ラヌゾ。ト云ワ、阿難、ヨツ、ト云、此ノ正當、我レガ山中デ居タゾ。山ト云ワ、移動無イ渠レガ体ノ事ヨ、ト云直下、我レガ渠レデ居タ。向ウ此ノ身ヲ山中シタ_一ダ。別_ニ會得ハ出デヌ_一処ガ、本覺ノ師ト一体一心同眼タゾ。

(3)

〔円応寺本「本文」〕

三、拳。梁武帝問達磨大師、如何是聖諦第一義。大師曰、廓然無聖。帝曰、對朕者誰。大師云、不識。帝不契。瑾上坐、右伏以、廓然無聖。不立真俗、不論教觀。縱是三世諸佛、也瞻望不及。六代祖師、也傳授不得。此是田地穩密時管也。又云、對朕者誰。好个消息還見麼。大師曰、不識。為什麼不識。々々是現成公案也。夫現成者、山本是山、水本是水。只許老胡智、不許老胡會。參。

〔註解〕

第三、廓然不識之話

廓然無聖、不立真俗、不論教觀。教中云、真諦以明非有一、俗諦以明非無。真俗不二即是聖諦第一義。瑩山拈提、不立真俗立處。不依教觀、縱是三世諸佛、也瞻望不及。六代祖師、也傳授不得。故跋云、廓然不識之話、佛祖不傳不授之妙也。此是田地隱密時節也。抄云、如何此是田地隱密時節。代云、虛空世界皎皎地、無絲髮許與汝作見解。抄云、教意與瑩山拈提、如何辨別縑素。代云、虛空非有、世界非無、上下和融皎皎地。真俗不二、聖諦第一義、此是教意。然問如何是聖諦可足、第一義叮嚀也。達磨亦答廓然可足、無聖剩語也。當知聖諦一義殺訛與廓然無聖殺訛。然黃檗一說云、虛空世界皎皎地、無絲髮許與汝作見解。鳴。就

言誦訛、階級見、全非達磨黃蘗本意。又云、對朕者誰、好箇消息還見麼。代云、將鏡鑑、却為兩箇。故大師云、不識。為什麼不識。不識是現成公案也。夫現成者、山本是山、水本是水。抄云、什麼道不識。代云、現成公案不會、大難大難。若將鏡鑑、却為兩箇、只見山水、現成底公案未圓、如何。對朕者誰、不識。現成公案不會、大難大難。許老胡知、不許老胡會。代云、一見便見不再見。是亦虛空世界皎皎地、無絲髮許與汝作見解。所以一切聲色、是佛之慧目。以此句可定當始末。廓然、虛空世界皎皎地、現成公案。對朕者誰、不識、不會、大難大難、無絲髮許作見解、無聖。抄云、為什麼道、夫現成者、山本是山、水本是水。代云、所以一切聲色、是佛之慧目。抄云、為什麼道、無聖。代云、官不容針、和通車馬。抄云、和與官如何辨縑素。代云、淨知妙圓、體自空寂。

〔円応寺本「抄」〕

三、聖諦第一義。抄云、如何是真俗不二、聖諦第一義。代云、虛玄大道、無□□宗。又抄云、磨云、廓然無聖。帝云、對朕者誰。磨云、不識。代云、大通智勝佛、千劫——不得成佛道宣。又虛玄大道トハ、教外極妙窮源、処也。是又無着、真宗也。此句、人天眼目、着語也。廓然無聖、処、誰不識、大通智勝佛、上テ、全篇可見合。大通智勝佛、上テ、仏法、現スルト云□□也。不得成佛道也。武帝對朕ニスルモノハ誰ソ、ト不知ルガ、「」ト達磨不識見也。瑩山批判云、三世諸佛瞻望不及、六代祖師傳授

不_レ得。對_レ朕_ニ者誰_ツ。好_ク个_ノ消息還_テ見_ル麼。為_レ什麼不識ナル。現成公案、山不_レ可_レ知_ニ是_レ山_ト、水不_レ可_レ知_ニ是_レ水_ト、更_ニ無_レ入_ル処、柳_ハ緑花_ハ紅、不_レ會大難可、老胡_ノ知不_レ及_ル処也。若_ク及_ル処ナラハ、聖凡有_レ間斷、不識_レ処聖凡無_ニ、佛祖不_レ會、_{□□}無間斷、意識不_レ及境界、心王不_レ動_レ地也。是不識上一句也。世尊密語、廓然無聖也。迦葉不_レ覆藏、現成公案也。計較不_レ及_ル処也。内外一如也。峩山先師、旭日入_レ壁照_レ書得_レ其旨云_ル。達磨不_レ會大難曰、不識_レ処也。又於_レ此話參得多_シ。了庵派ニハ、誰不識_ツ主中主_ニ用也。又白井門派ニハ、笑入_レ芳塵_ニ爛漫_□用也。云心_ハ、此_ノ君子_ノ五陵_ノ公子_ノタチトウチマジワリテ遊_ハ、イツレガ本_ノ主ヤラウ、マ「_□」ク、ヘダテナシ。ホドニ、誰不識_ト用也。又予師金岡_ノ參得_ハ、對_レ朕者誰_ソ。□武帝_ノキト、達磨_ノ不識_ト用別也。更參セヨ。

〔龍泰寺本〕

武帝達磨。師云、第一儀ヲ。代、立身又手ノ立ツ。師云、句ヲ。代、無影樹下合同船。心ハ、第一儀ノ処ハ、ヒヨットツム立ツタマテヨ。ナントモ云エバ、第二儀ヨ。句モ三位ニ用ル則ンバ、洞上デハ、無影樹ト云ハ、本位ノ_一、下_□云_ハ、中ノ_一也。合同船ト云ハ、三位トモニ欠ヌ_一也。爰デハ、第一儀、立身又手、無影樹下迄ヨ。ヒヨットツム立ツタ処ニ、枝葉ハ出ヌゾ。在ルガ、合同船ト云ハ、其二餘タ物ノガナイゾ。亦大洞ハ、第_一儀ヲ。代、天子無_ニ父母。師抄云、天子——無イガ、何ントテ、第一儀デハアルゾ。代、天子無_ニ父母トハ云イ走カ。師云、廓然——聖ヲ。代、摸羊

ノ天子ヲイダク羊ノ廓トシテ忘_レ倚。心ハ、是ハ上參也。前ハ天子無_ニ父母ト、ハヤ位ガ走り、沙伏ヲシタゾ。サテ忘_レ倚トハ、天子ニヨリ付カヌ処タゾ。時ガ、第一儀ダ。爰ハ至極——抱_レタ処ノ_一ヨ。又第一儀ヲ。代、天子デ走。師云、ナントテ天子ガ第一儀デハアルゾ。代、天子無_ニ父母トハ、云イ走ヌ。末モ一ツ也。師云、廓然——識ヲ。代、天子ヲ抱_ク振舞_ノ、廓トノ忘_レ倚。依ハ、是モ義也。紫極——抱_ト云心一ツ也。

〔正法寺本〕

第三、武帝達磨。師云、聖諦第一義、廓然無聖問答ヲ。代云、師胸ヲ丁ト打テ、莫_ニ計較_{スル}。師又打テ、夫レモ計較ヨ。代、其レモ計較デ走。師云、計較ダゾ。師云、着語ヲ。代、計較纔生、鷹子過新羅_ツ。心、帝_ノ教意ヲ肝要ト持テゴザ在ル処ヲ、活法ヲ以テ、計_一ダゾ、——タゾト、クツト追放シテゴザ在ル。句モ、ワツカモ解會ガ生ズレバ、活法真逸物ヲバ、取遁シタ_一ヨ、トミル処デ、祖教不_レ二ノ田地ニ至ツタ_一ダ。

〔大安寺本〕

△廓然不識話。師云、第一儀ヲ。代云、天子デ走。師云、何ントテ。代、天子無_ニ父母_ニ時、第一代ノ人デ走。師云、句ヲ。代、天竺貴徹_ノ元不_レ功_ニ。心ハ、聖諦第一儀ノ処ト云ワ、十暗ノ帝位デ、暖風_ニシマヌ。尺持黙々帝王ガソレダ、ト見ルワ、見_中テタゾ。不識_ノ心ノ_一ヨ。ホドニ、爰ヲアノ摺ヌ帝位_ニタヨツテミタゾ。ホトニ、

父母在ル天子ノ一_イデハ無イゾ。ト云ハ、對_レ漢タガ、不識ノ一人ノ事ヨ。ホトニ、弘瑾(紹)和尚モ、廓然無聖、不_レ立_ニ真俗_ヲ、不_レ觀、ト云被仰タゾ。此廓ニソ居タ。聖諦ノ天子ハ、三世諸仏、歷代ノ祖師モ望ミ見ニ不_レ及、見難イゾ。田地穩密ノ主ノ一_イヨ。ホトニ、句モ真俗ヲ不立、天子ノ主ハ、天然ノ貴胤デ、修行ノ功ニ居ヌ人ヨ。此主ガ、朕ニモ對シ、胡僧ニモ伴タゾ。如_レ是對_レ朕_ニ來ル者_ヲ、宗旨デハ、好个ノ消息底ト云タゾ。扱テ亦、其体ハ露現セヌ時、不識ノ一_イデ居タゾ。ホトニ、好个ノ消息底ノ主ワ、柳_ニハ暗イト消息ヲ通ジ、花ニハ明カニ通ジテ居タ。向現成ニアラワレタガ、父母ノ胎ヲ借ラヌ一人ト見レバ、公案デ居タゾ。亦不識ノ一_イ、是現成公案、トヲセラレタゾ。此ノ公ト云ハ、父母無イ天子ノ一_イヨ。此公天子ガ、森羅万像ヲ案ト成テ出デタガ、其ノ相ハミエヌ時、不成ノ一_イヨ。時、鳳凰池ノ功ヲ帶ヌゾ。山高水冷ナモ、此公案ヨ。向斗心得ル、會得スルワ、老胡ノ知ヨ。代、山高水冷ナコソ、老胡ノ會、活祖ノ髓タゾ。師云、問答ノ聞ユル羊ニ句ヲ。代、廓_ト而忘_レ依_テ。心ハ、聖——義ノ一_イ処ハ、声色香味ヲ分タズ、白直ノ尻ノ肌ガ、廓然トノ如何ニモホガラカニ、佛辺ノ曇リガヲムワヌゾ。向忘ジタ依テ、向見ルガ、問答一般タゾ。

(4)

〔円応寺本「本文」〕

四、拳。青原行思禪師、僧問、當_ニ何_ヲ所務_カ不_レ落_レ階級_ニ。師云、聖

諦亦不為。僧禮拜。瑾上座、右伏_テ以_テ、明歷々ノ處、露堂々ノ時、無_レ階級無_レ途轍任運。々々_ニ常_ニ如_レ是_ノ矣。石頭贊_ニ藥山_ノ偈_ヲ曰、從來俱住不_レ知名、任運相_ヲ將_テ只麼行_ス。從_レ古聖賢尚_ヲ不_レ識、造次ノ凡流豈_レ可_レ明。要_{セバ}會_ニ聖諦亦不為之話_ヲ、須_レ參_ニ个_ノ頌之意_ニ。畢竟如何。衲被蒙頭、坐、冷暖都不_レ知_ヲ。參。

〔註解〕

第四聖諦亦不為之話

明歷歷處、露堂堂時、無_ニ階級_ニ無_ニ途轍_ニ任運。任運常如是矣。代云、虛空世界皎皎地、無_ニ絲髮許_ヲ與_レ汝_ノ見_ヲ作_レ解。虛空世界皎皎地、此時無_ニ絲髮許_ヲ作_ニ聖見_ノ解。石頭贊_ニ藥山_ノ偈_云、從來俱住不_レ知名。任運相將_テ只麼行、從_レ古聖賢尚_ヲ不_レ識。造次凡流、豈聖可_レ明。要_レ會_ニ聖諦亦不為之話_ヲ、須_レ參_ニ箇頌之意_ニ。欲_レ參_ニ此頌之意_ニ、先須_ニ石頭_ノ藥山問答之起子細看_ニ。正宗贊_ニ石頭傳_云、藥山一日在_ニ石上_ニ坐。師見問曰、汝在_ニ者裡_ニ作_ニ什麼_ニ。山云、一物不_レ爲。師云、恁麼則閑坐也。山曰、閑坐即爲也。師云、汝道_レ不_レ爲。不_レ爲_ニ箇什麼_ニ。山云、千聖亦不_レ識。藥山石頭會裡人、一日在_ニ石上_ニ坐。石頭見問曰、汝在_ニ者裡_ニ作_ニ麼_ニ一句探頭。在_ニ者裡_ニ三字、時節句中子細看。何則、問_下汝在_ニ石上_ニ作_ニ什麼_ニ乎、問_下汝在_ニ我者裡_ニ作_ニ什麼_ニ乎。直目視云、_レ者裡者什麼處、一物不_レ爲。當知、僧問_ニ青原_ノ一問一答與_ニ此起_ニ相類。然就_ニ行思之名_ニ置問也。當_ニ何所務_ニ不_レ落_レ階級_ニ、聖諦亦不為。隨而跋云、聖諦亦不為之話、歷代祖能行到處也。能行者

不可見能行。能行到處者、能所之二也。斷能所、能人所境、能所人境之二也。當知青原・石頭・藥山、洞下囊祖兩三師、問答相通。恁麼則閑坐也。一物不爲閑坐也探頭、閑坐即爲也。閑者喫茶飯酒冷煖。就萬事恁我意。在石上一坐一物不爲、衲被蒙頭坐、冷煖都不知。拶云、藥山意旨如何。代云、法尚應捨、何況非法。三問一物不爲、冷煖不知、汝道不爲不爲箇什麼。再三探頭、千聖亦不識、言箇什麼。名非石頭・藥山、千聖亦不識、從來俱住不知名。藥山一日在石上坐。石頭見問云、汝在者裏作什麼。一物不爲、任運相將只麼行。從古上賢尚不識、千聖亦不識、造次凡流豈可明。代云、到則到、諸佛大休喝田地、不到則休。然本則一問一答、當何所務不落階級、聖諦亦不爲。到則到、諸佛大休歇田地、僧禮拜、不到則休。故跋云、聖諦亦不爲之話、歷代祖、能行到處也。拶云、且道、能行時如何。代云、向上一路、千聖不傳。拶云、爲什麼道、能行到處。代云、向上無爺孃、向上無男女、冷煖都不知。〈再三云、能行到處者、能所已前沙汰了。與到之意、行時全到。譬如三月在天則萬水皆有月、月沒天則萬水月共沒。然能行列處沖無形。故云、到則到、諸佛大休歇田地、不到則休。

〔円心寺本「抄」〕

四、青原行思、僧問、不落階級何所務。師云、聖諦亦不爲、答話意旨如何。代云、虚空無内外、心法亦如斯。注云、心空性何へタテガソウズカ、不落階級理也。聖□ト「」空性也。

如幻翁批判ニ、本来無名相、聖「」在此中。任運「」々々、古今無間斷。此時空中何モ坐セスト云コトナン。又古今無間、空用処ナリ。瑩山和尚云、衲被蒙頭坐冷煖——只自知。此叱高上ナリ。只イクマテ也。此時何階級ガアルヘキゾ。是カ、聖諦也。何モ不爲行李也。又投子青頌、無見頂露雲急、却外灵枝不帶春。那边不坐空王殿、争肯松田向日輪。是ハ、此主那边不坐、又何日輪天子ノ位不坐、ドコホドデアルラント、不犯「」也。了庵派如斯用。吾宗那边透過、有出身路処也。石屋派テハ、不「」漢地「」、忍心用也。此叱不落階級一人也。聖諦又不爲人ナリ。

〔龍泰寺本〕

六祖不階級 師云、不——級ヲ。代、師ノ前ニ至テ、ニツコト笑含ム也。恁麼時如何。代、丹鳳啣玄珠栖遲玉樹。亦不——級ヲ。代、不汚染テ走。師云、恁麼時如何。代、説似一物即不中。嫌路ワ何ント云モ、ソレハ階級ダゾ。功作短練ヲ経ルゾ。ソレハ修行シ、諸解学得ノ間タゾ。畢竟不階級ト云ハ、一心一物ノ一ヨ。此ノ心ニ階級ノ沙汰ハナイゾ。呈ニ、丹鳳ト云モ、至鳥ノ一ヨ、心鳥ノ一ヨ。六祖一生涯ハ、不汚染テ建立シタ家タゾ。此主ハ、説似スレバ即不中タゾ。類則ハ世尊拈花、迦葉利竿、道吾女人拜。

〔正法寺本〕

第四、聖諦亦不爲。師云、不落階級処ヲ。代、チャット抽身ス。

心ハ、階級ト云ワ、功作修行ヨ。元嶺南人デ、黃梅ノ一衣ヲ傳タホトニ、其ノ間ダニワ立タヌゾ。何ントモ拳セ、ミナ階級ヨ。拳処モ、何ントモ展ベバ、階級ヲフム呈ニ、抽身ガ不階級當人ダ。師云、何ントテ。代、一トモ二トモ云ワレヌ処デ走ウ。心ハ、手ツカヌ処也。手ヲ付バ、傍人ヨ。師云、恁麼時如何。代、白一色デ走。心ハ、スラス、ミガムヌ、根本ノ白米也。ト云ワ、産出ノ仄ニジマヌゾ。々々々ト云モ、悟リヨ。師云、着語ヲ。代、純一無雜、具足清白。心ハ、一ト云ハ、根本ヨ。乍カキノ仄デ、一ヲ專ラニシテ、マジリ者無イ境界ヨ。其ノ肌ヲ、清白ト云タ。悟リガ、面ヲ出ダサヌ悟ハ、玄関所務ヨ。師云、聖諦亦不為ヲ。代、トツクト閑座。師云、恁麼時如何。代、入テ只皈ル。心ハ、聖諦ト云ワ、人ナラバ主、木ナラバ核子ダ。亦不為ト云ワ、聖諦ヲモ々々ト以タヌ呈ニ、拳著モ、何トデモ、云イハ無イゾ。只座シ、只皈ツタ迄デヨ。閑座ナラバ、ナセリダ。

〔大安寺本〕

△聖諦亦不為話。師云、問答ヲ。代、師ノ前ニ座シテ云、渠無_ニ國土_一。師云、句ヲ。代云、渠元来不_レ落_ニ階級_一。心ハ、所務階級ニ落ヌト云ハ、此聖諦ノ_一ヨ。青原ノ家デハ、所住ナイ、其ノ心ノ_一ヨ。ト云ワ、曹溪ノ一粒ノ米子ノ_一タゾ。是ヲ聖ト云イ、伊レト云タゾ。答処デ、問意ノ憶着ワ聞エタ。ナコ着モ渠レト云ワ、紛レヌゾ。無_ニ國土_一トハ、伊レニ生処出処ハ、在テコソ。ナゼ——バ、伊ト云ワ、明歷々露堂々ダゾ。乾坤大地ニ第二人無イゾ。爰ヲ、大

人ノ相ト云タゾ。時、別_ニ居マ走ズ。居処ガ在テコソ。伊ハ、黒白月花トモニ伴ウタガ、亦ソレニ染マヌゾ。時、誰レモ弁タ人ハ無イゾ。當日曹溪大師モ、甚麼物——来ル、ト云テ置キ、薬山ハ皈方丈シ、亦要_レ頭——去レト、保護ノゴ——ルモ、更_ニ諱ナシガタイ事ヨ。ホトニ、瑾和尚ノ方語ノ如ク、石頭ノ薬山ヲ讚メゴ——ル偈デスンダゾ。此ノ伊ワ、徒来億劫ヨリ拶眼ノ云、爰ニ住ノ居タゾ。在ルガ、誰レモ諱ナラ喚得タ者ハ無イゾ。此ノ渠ガ消息ニ隔碍ハナイゾ。時、任運——行タ_一タゾ。在レドモ、從_レ古——不識、々々デ、果タシタ。造次ニモ顛肺ニモ在ガ、明メタ_一ハナイゾ。ト云テ、不_レ知_レノ果ソ_一デハ無イヨ。代ノ句ガ證拠ダ。此ノ句モ兩羊_ニ心得ルヨ。衲——頭肌ノ時、冷暖トモニ知ラヌゾ。処ガ、伊レ洩底ヨ。サテ亦、此伊レワ、冷ニモ暖ニモ通タゾ。衲——頭話、禪徒ガ、此ノ理ヲ知ラヌゾ。亦衲——頭ノ肌ノ時、階級ヲ知ラヌ人ヨ。

(5)

〔円応寺本「本文」〕

五、拳、曩祖洞山悟本大師、問_レ雲岩、無情說法何人_ガ得_レ听_ク。岩曰、無情听得_リ。山曰、某甲為_レカ、什麼不_レ聞。岩堅_ニ起_テ拂子_一曰、還聞麼。山云、不_レ聞。岩云、老僧說法猶_テ未_ダ聞。何況_ニ無情說法乎_一。山當下_ニ有_リ省。乃述_テ偈_一云、也大奇々々々、無情說法不思議。若_シ將_レ耳听声不_レ現、眼処聞_レ声方_ニ得_レ知_ル。瑾上坐、右伏以、此_ハ是_レ大悟大徹底時節_{ナリ}。若_シ聞_カ、按山談_レ般

若^レ、何疑^シ主山説^フ真如^一。露柱燈籠^モ、亦^タ復^タ如^レ是^一。當^ニ無情説法時節^一、是什麼時節^一。若^レ會得[、]利々衆生説[、]三世一時説常^一説[、]熾然^ノ説無^ク間歇也^一。東坡居士^參照覺^ニ、有^レ入^レ処[、]乃述^ニ己^一懐[、]云、溪聲便^テ是^レ廣長舌、山色豈^レ非^ニ清淨身^一。夜來八萬四千偈、佗日如何^ノ舉^ニ似^レ人^一。已^ニ是^レ舉^ニ似^レ人^一了也。還^テ聞^ク麼^ヤ。又曰、溪聲廣長舌、山色是^レ清淨身。夜來八萬四千偈、他日^ノ舉^ニ示^レ人^一。前頭曰、如何^ノ舉^ニ示^レ人^一。這裡却曰、舉^ニ示^レ人^一、是^レ同^カ是^レ別^カ乎。若能^テ听^ク得[、]無情説法^ノ話^一、一^ニ任^ス它^ノ何^カ不^レ中^レ云^ニ、舉^ニ示^レ人^一。且道、聞得^テ舉^ニ示^レ人^一時如何。雲岩与洞山、照覺及東坡、一時^ニ穿^ニ却^レ鼻孔^一了也。還^テ會^ク麼^ヤ。良久云、無説之説正説。參。

〔註解〕

第五 無情説法之話

囊祖洞山悟本大師、問^ク雲岩、無情説法何人得^レ聽。岩云、無情聽得。勝上座不^レ然。無情説法何人聽得。代云、有情得^レ聽。拶云、大衆有^ニ聽得底麼。代云、眼聲耳色。故云、眼處聞^レ聲方得^レ知。拶云、誰是説主。代、豎^ニ起團扇^一。拶云、説^ニ什麼法^一。代云、三世一時説。故云、當^ニ無情説法時^一是什麼時、是什麼時節。若^レ會得、利利衆生説、三世一時説。利利衆生説則爲^ニ什麼^一。但道^ニ無情説法^一。拶云、如何是衆生説。代云、作家相見惱門親。東坡居士、參^ニ照覺^一有^ニ入^レ處^一。へ乃述^ニ己^一懐^ニ云、溪聲便是廣長舌、山色豈^レ非^ニ清淨身^一。夜來八萬四千偈、他日如何^ノ舉^ニ似^レ人^一。已^ニ是^レ舉^ニ似^レ了也。還聞麼。又云、溪聲廣長舌、山色清淨身。夜來八萬四千偈、他日如何^ノ舉^ニ似^レ

人^一。前頭云、如何^ノ舉^ニ似^レ人^一。這裏却云、舉^ニ似^レ人^一。是^レ同^カ是^レ別^カ乎。若能^テ聽^ク得[、]無情説法^ノ話^一。一^ニ任^ス他^ノ、何^カ處^ニ不^レ舉^ニ示^レ人^一。且道、聞^ク得[、]舉^ニ示^レ人^一時如何。雲岩與^ニ洞山・照覺及東坡^一、一時^ニ穿^ニ却^レ鼻孔^一了也。四大老皆令^ニ案山主山霧柱燈籠拂子溪聲山色説法^一、故被^レ穿^ニ鼻孔^一。直饒不^レ令^レ説亦被^レ穿^ニ鼻孔^一。へ直饒不^レ令^レ説、又被^レ穿^ニ鼻孔^一。何則意不在言、來機亦赴。豎山之意、無説之説正説。拶云、如何是無説之説。代云、鑑在^ニ機前^一。故跋云、無情説法之話、吾囊祖明心悟道初也。拶云、明心悟道底作麼生。代云、溪聲廣長舌、山色清淨身。故云、見色明心、聞聲悟道。

〔円応寺本「抄」〕

五、洞山悟本大師問雲岩、無情説法何人得^レ听^一。岩云、無情聽得。山云、某甲爲^レ什麼不^レ聞。岩豎^ニ起^レ拂子^一云、還聞麼^ヤ。山有^レ省、乃云、也太奇々々々、無情説法不思議。若^レ將^レ耳听^レ聲、不現、眼処^ニ聞^レ聲方得^レ知^一。此^ノ心^ハ、無情説トハ、不説ナリ。不説ナレハ、不^レ聞也。是^カ真^ノ般若ナリ。代云、吾亦不聞、汝^亦無説。無聞無説真^ノ般若。コレハ、須菩提坐^ニ岩谷^一、帝釈天花^ヲ乱墜^スナリ。須菩提一向只坐^ニタル処^一ガ、真^ノ説ナリト、帝釈ワ、カンズルナリ。亦如^ニ幻翁批判^一云、無情説法、有情聞底道理^ハ、寒来^ハ衣^ヲ重^子自^ラ禦^レ寒、熱来^ハ弄^レ扇子^ヲ自^ラ除^レ暑^一。更^ニ有^ニ軌則^一麼也。曰心^ハ、寒^カ人^ニ衣^ヲカサ子サセウト不^レ思、熱^カ扇子^ヲ弄サセウト不^レ思。サリナガラ、寒^カ来^レハ衣^ヲ重^子、熱^カ扇子^ヲツカウハ、無性説^ヲ、有性^ノ人^カウケタ^一。代云、風送^レ漁舟便到^レ岸、雨催^ニ樵子^一令^レ飯^一家。是^モ、風

雨^キ漁人山翁^ヲ送ラウトハ、不送也。又了庵派^ニハ、虚空説法何^レ用^レ口、森羅万象尽説法。大悟シ用ハ、千聖無^シ解會^也。大悟[□]。

〔龍泰寺本〕

洞山無^情説法。師云、無^一法ヲ。代、露柱ハ露柱ト説キ、灯炉ハ灯炉ト説キ、柳ハ緑リト説キ、花ハ紅イト説デ走。師云、句ヲ。溪声廣長舌、山色清浄心。心ハ、三寸ノ舌頭ヲ以テ説イタラバ、其レハ臭フヨ。先聖ヨリノ舌先キヨ。鷲ハ白ク烏ハ黒イゾ。爰ハ、達磨不識、二祖モ不可得ダ。亦大洞ハ、無情説法ヲ。代、灯籠ハ灯籠ト語テ出デ、露柱ハ露柱ト語テ出テ走。師云、恁麼時如何。代、眼処^テ声聞^キ、耳処^テ分^レ色^テ走。心ハ、能クサエ本位ニ至レバ、眼処^テ声ヲ聞キ、耳処^テ色ヲモ分タデハ。師云、畢竟ヲ。代、本^ト無相中^{ヨリ}生^レ見^レ終日語話シタガ、別ノ物デハ走ヌ。亦無情説法ヲ。代、師ノ前ニ至テ倒臥^ノ、鼻声カウ^ク。師云、句ヲ。代、風吹^テ石臼^一念^ニ摩訶^ヲ。亦無^一法^シ羊ヲ。代、心説ハ不説、真聞ハ不聞デ走。師云、畢竟ヲ。代、師ノ前ニ至テ、珠数^テモナンデモ、チャツト耳ニ盖ウ也。心ハ、ツムツケテ聞タガ、聞キニ落ヌゾ。時本位^テ居タゾ。

〔正法寺本〕

第五、洞山無情説法。師云、無情^ノ説法^ノシ羨ヲ。代、説カヌガ、無情^ノ説法^デ走。師云、夫^ハ何^ノトテ。代、無言無説真般若。師云、般若ノ体ヲ云へ。代、良久。師云、夫^ハ何^ノトテ。代、理^ハ走ヌ。心ハ、説ニ落テ談論ニ落バ、有情ダ。此^ノ無情^ノ説法^ヲバ、無情^ノ耳^デ

聞タゾ。呈^ニ社^ソ、無言無説真般若タゾ。般若ハ、空体也、ト云タゾ。良久ガ、空体^ノミセシメ羊ダ。八還ノ内ニ、宗ハ虚空ニ歸ト云モ、向ダ。

〔大安寺本〕

△無情説法話。師云、無^一法^ヲ。代、師ノ口ヲ閉口ス。師云、其ノ心ノ聞ル羊ニ句ヲ。代、風来時點頭。心ハ、此ノ話ワ、瑾和尚ノ被仰タガ、哲処タゾ。無^一法^トハ、大悟大徹ノ時節ノ正當ヨ。爰デ、無説ノ説ニ叶タ^一ヨ。處ガ、正説タゾ。向ウ説法シタゾ。雲岩ノ堅^ニ起^ニ松子、返テ聞ヤトヲセラレタモ、大悟大徹ノ正當ハ、拈子マデヨ。露柱灯籠迄デヨ。爰ヲ、ヨウ聞イタガ、処ヲモ不^レ聞カト、悟本禪師モヲ叶イ無イホトニ、老僧ガ手ヲ引ク処ヲサエ知ラヌ人ガ、如何ニ況ヤ無^一法^ヲヤ、ト被仰テ、當下省^レ処^ノゴ^一ルゾ。其證拠ニ、偈ヲ述テゴ^一ルゾ。當下ト云ガ、肝要タゾ。無情ニナル正當下ノ事ヨ。爰ヲ、當テゴ^一ルゾ。正當ハヤ大奇々々マデヨ。無^一法^タゾ。ト云テ、會得^ノ出^タ事^デハ無イゾ。此声エヲ耳ヲ以聞イタラバ、四十九季ノ説タゾ。サテ、聞^レ声^ト云ハ、聞キノ出ヌ^一ヨ。ト云ハ、大悟大徹ノ當正ヨ。爰デハ、ワツト叫^ブ正當、按山ノ談ズル般若ヨ。主山デ、ホツキト啼タガ、真如ノ妙言タゾ。無情ノ正當、主山案山ヨ。処ガ、即チ般若体、真如実相ヨ。向斗亦會スレバ、刹竿ヲ堅テ伸ルニ也。生死ニナルゾ。句ノ心モ、大悟ノ正當、山ノ杉柏迄ヨ。爰ワ、風来レバ、ウゴイタ迄ヨ。向説イタ法タゾ。向誰レモミルゾ。瑾和尚ノ腕力ガノウデハ。ナン

ト大徹無相ノ正當ハ、大人ノ相ヨ。向ミタトキ、上天下界、大人相
デ柱エタゾ。ヘダテ無イゾ。時溪水ノサツ／＼ト瀧タモ、此大人ノ
舌談ヨ。遠山ノ縁樹ノ濃カナモ、其低ノ大人ノ相、無情底ノ清淨身
デハ無イカ。入処ノ正當、八万四千ノ偈ヲ談ジエタリヨ。夜来トヲ
イタワ、入処ノ時節ニ、弁白ハ無イゾ。処ガ、夜半三更ヨ。爰ワ、
他人ニ向タゾ、ト伸ラレテコソ、偈ノ時ハ、向タゾ。瑾和尚ノ則ン
バ、他ト云ハ、取りミチダセバ、能ク無——法ヲ聴取シタ時、他ニ
一任タゾ。他トハ、大人ノ相ヨ。他ニ一人ス。処デ、水雲・洞山・
照覚・東坡モ一句ニ、本位鼻孔ニ摸着シタ。サテ、無情當人ヨ。

(6)

〔円応寺本「本文」〕

六、拳。白馬遁儒禪師、問僧、語底默底、不語底不默底、搵是搵不
是、作麼生對。僧無對。師乃打。
瑾上坐、右伏以、語默動靜、搵是搵不是。タレ等外別以何祇
對。个僧無對。知法者懼。還較些子。末後一棒、功不
浪施者也。我且問諸人、六根不具、七識不全時、以何什麼對。
何不禮拜了退。又香巖樹上之話、与个六外一句同可見。
若道得樹上之話、會六外一句者也。且道、樹上・六外共
不立。直至這裡、你如何轉身吐氣。打曰、參。

〔註解〕

第六 六外一句之話

語默動靜、搵是搵不是、是等外別以何祇對。瑩山扶無對僧云、
知法者懼、還較些子。雖與麼、箇僧知法懼、不免吞氣。末
後一棒、功不浪施。我且問諸人、六根不具、七識不全時、以什
麼對。是不可與前一般見。前疊六句、於語默引下、請語
默外。是六根不具七識不全時、驅揚而問。瑩山代云、何不禮拜了
退。禮拜不可見祇對。知法懼退時、六根不具、七識不全、子細
點檢。知法懼不祇到。不免吞氣。末後一棒、功不浪施。瑩山
拈提、知法禮拜。轉身退不免惱後棒。拶云、大眾如何。代云、
藏身露影。且道、樹上六外共不立、直至這裡、你如何轉身吐氣。
打云、參。知法懼者、無對吞氣。禮拜退者、轉身吐氣。直至
這裡、你如何轉身吐氣。和語打。斬頭謝答。故跋云、六外一
句之話、天下衲僧、吞吐不得底也。拶云、吞吐不得底、大眾如何。
八再三云、六根不具、七識不全時、以什麼對。何不禮拜了退。
是六外別地見、殊途同轍。其故禮拜退。藏身露影、影全有句全
無句、有無與語默相類。其通處非有非無非有非無離其四句
、絶其百非、出格自在。所究竟、露底影與吐底氣、不可
不自知之。直至這裡、你如何轉身吐氣。打見披露影之功而
已、箇棒弱如何上。

〔円応寺本「抄」〕

六、白馬儒禪師問僧、語默動靜、搵是搵不是作麼生。僧無語。師乃
打。代僧作麼生。代云、適来猶記得。此心ハ、ハヤサキニ云ツ

ルワ、ト云心也。尽、ハライタテル処デ、「」マツシロニ云タナリ。此僧、無對、見事ナリ。堂山判云、無對、処、知、法者、懼、還「」子、末后、一棒、功不浪施者。取句、趙婆吸酢。又、縦滄海變終為「」。香巖樹上、話、類則也。又、放身捨命正此時。了庵派用也。

〔龍泰寺〕

白馬六外句 語底黙底、不語底不黙底、惣是惣不是ト、クツト嫌イ落サレテ、学、師ノ前至テ礼三拜ノ、恩大難酬。心ハ、語黙背觸共ニクツト嫌イツメラレテ、向ゾトカクツト當的スル処デ、万劫ニモ難酬恩ヲバ知ツタ_イヨ。亦一説ハ、此ノ恩父母越タリ。師拶云、恩ト持タラバ、万劫ノ繫駟楸ヨ。代、学、師ノ膝ヲ丁ト打テ、和尚モ繫駟楸、某甲モ繫駟楸ヨ。心ハ、ヨクツナガルバ、其ヲモヌケタゾ。師云、六外ヲ。代、学、師ノ前ニ至テ、標然ト立テ、坐具ナドヲホックト取り落シテ、揺風架頭巾、ト拳ス也、師云、句ヲ。代、所作皆以弁、既知到涅槃。心ハ、語底黙底、不語底不黙底、惣——是、六外ト云ハ、語黙動静ノ外タゾ、ト嫌ワレテ、案山子カ幽冥ナドノ羊ニ、標然ト立ツタ処ハ、架頭巾斗タゾ。呈、句モ皆六外ノ間ハ、所作ノ間ダ、外カ到涅槃ダ。同香巖樹上ガ類則也。師云、人樹——作麼生對、ト云タル幾ヲ。代、学、師ノ前ニタヨ、ト至テ、坐具デモ、珠数デモ、瓶風ニナリトモ何ニナリトモ掛ケ拳。亦ナドナゲホックト取落ス也。心ハ、只一ノ坐具ニ殺シナサウ為タゾ。此ノ時ヨリ對シスマシタゾ。師云、句ヲ。代、揺

風架頭巾。師云、樹上頭ハ道易、樹下頭ハ道難シヲ。代、樹上頭ハ道ニ依テ易ク、樹下頭ハ通シニ依テ難イゾ。師云、巖呵々大笑ヲ。代、未_レ語先分付_ス赤身ノ人。心ハ、齊_濟下デハ、接シツメル処ニ在ル相續ダ。呵々大笑ガ、赤肉ノ人タゾ。亦畢竟ヲ。代、未語——赤身人。心ハ、アノ境界ヲナントト云タモ、サデハ無イゾ。只タ二ツヤ三ツノ童子ノスジモナク云タ_イガ、ヨク叶タゾ。是ハ、出身ノ路也。虎頭上坐ノ処ハ、脱体ノ道也、古老ノ香巖樹上ノ代、踏_レ雪破草鞋、掛_レ梅花_ニ在_レ枝_ニナサレタモ、向也。

〔正法寺本〕

第六、_レ外ヲ云へ。総是——是ト、クツト追詰テ於クベシ。其ノ驀下デ、一句云へ。代、ホカト托開ス。師云、恁麼——何。代、唾涕ヲ吐掛ル也。云、夫、何ントテ。代、機位不_レ離、毒海_ニ墮_レ在_ス。師云、恁麼時如何。代、但_レ飯ル。心ハ、自己_ノ離派也。冤家ト看ル也。

〔大安寺本〕

△六外一_ノ句話。師云、六外一_ノ句ヲ。代、師ノ前ニソロリト透テ、坐具ヲ針カ障子掛テ飯ルヨ。師云、ソレハ何ントテ。代、只ダキレ座グナドガ、引ツ掛タマデヨ。代、所作皆已_ニ變。心ハ、語黙——淨、総是不是。六外ガナクテハ。サテ語黙ヲ以テモ呈イセヨ。會処承當ヲナサズノサエ、拳サバ、當的底デア郎ズ。會セヌゾ。是モ不是モ、當的ヨ。ソコロモ総ニ不是トツキ放ツタガ、モチヨウタゾ。ホトニコソ、無對ヲモ、ヒシト打タゾ。サテ、許サヌ行処デワナイ

カ。拳着ノ心モ語黙——不是作麼生ノト、クツト接シツメラレテ、語黙ヲ離レタ境界ワ、何ント、只此ノ人ノ左右ヲ、キレザク、キレ衣ナドノ掛タマデヨ。ホトニ、此僧無對ノ処ヲ、瑾和尚モ讚テゴ——ル。此僧無對。法ヲ知者ヲソル。還較^{レリ}此^{此ニカ}子^ト被仰タ。無對ガ、六外ノ一句ニ、較^タ一^ダ。此子トハ、本分ノ一ヨ。六外淵底ノ時、六根不是——不全タゾ。亦此話ヲ、向上ノ万機休罷トモ見デハ。句ノ心モ尽ク能夏了ツテ、ナニモ隔テ碍ナイ肌ヨ。所作皆已弁迄ヨ。此ノ肌ガ、特上ノ話當人タゾ。手ニ枝——又境界デハ無イカ。爰ガ、生下未分、本来ノ我レニ契當タゾ。向陶タ時、六外共ニ不^レ立^ゾ。時ガ、正法眼タゾ。

(7)

【円応寺「本文」】

拳、五祖大滿禪師問僧、倩女離魂、那个^カ是^レ真底。僧無對。瑾上坐、右伏以、是^レ个^ノ時節、離^レ君臣偏正之所^到、非^ニ禪道佛法之妙理^ニ。若云^ハ一个^ト、已^ニ是^レ兩個、為^レ什麼一个^{ナル}。若曰^ハ兩個^ト、已^ニ是^レ一个、為^レ什麼兩個^{ナル}。且^ク道^エ、那个^カ是^レ真底。釋迦牟尼佛陀、現^ス千百億化身^ヲ、觀音大士、具^ス許多^ノ耳眼^ヲ、是同^カ是^レ別乎。所以曰、上至有頂天、下至鼻獄^(阿脱カ)。皆如金色、故無^ニ自他^ノ相^一無^シ人我^ノ相^一。是个^ノ時節、那个^カ是^レ釈迦、那个^カ是^レ觀音。又文殊於酒肆・姪房・屠処之^三處^一過^ス夏。迦葉欲^ク擯^出而^近權^ニ。現^ス百千萬億^ノ文殊^ヲ。釈迦云、釈葉擯^出那个^ノ文殊^ヲ。迦葉無對。是个^ノ時節、那个^カ

是文殊、那个^カ是^レ迦葉、那个^カ是^レ真底。試道看^ク、釋迦言中有^レ響^キ。乃云、擯^出那个^ノ文殊^ヲ。若會得^ハ此^ノ話頭^ヲ、見^シ倩女離魂之話^ヲ。又五祖轉生也恩義、問^ニ此^ノ話^ヲ。故云、目前無^レ闍梨、此間無^レ老僧。為^レ什麼如此。身心一如^{ルカ}故^ニ、死人口裡活人舌、活人路上死人行。此時節妙圓非^ニ隱顯^ノ照^ニ。全身活卓々、大用不當機。觀面露堂々、無^レ佛性無^レ祖道。一切智々清淨、無^ニ無^ニ二分、無^レ別無^レ斷故。畢竟如何。倩女離魂、那个^カ是^レ真底。參。

【註解】

第七 倩女離魂之話

^(點カ)默^ニ檢^ニ倩女離魂之話^ノ所^レ引^ノ之^ノ類^ニ、則釋迦千百億化身、觀音許多手眼、文殊三處過夏。ハ釋迦化身、觀音手眼、文殊人口門、是等皆見^シ佛祖勇猛精進之力。√判云、釋尊言中有^レ響。乃云、擯^出那箇文殊^一。ハ同跋云、√倩女離魂之話、諸佛諸祖、勇猛精進之力也。拶云、爲^レ什麼。ハ打頭云、√是箇時節、離^レ君臣偏正之所^到、非^ニ禪道佛法之妙理^ニ。只見^シ倩女勇猛精進之力。拶云、如何自知。代云、道佛法之妙理^一。只見^シ倩女勇猛精進之力。拶云、如何自知。代云、殊^レ途同^レ轍。拶云、有^ニ定當分^一麼。代云、善惡不二、邪正一如。又五祖轉生之恩義、同^ニ此^ノ話^一。故云、目前無^レ闍梨、此間無^レ老僧。爲^レ什麼^一如是。身心一如故。代云、覓^レ心不^レ可得。ハ直視云、√目前。ハ有^ニ其意氣^一云、√此間無^ニ賓主相^一、無^ニ老弱相^一。五祖轉生、老人即^ニ雅子^一、雅子即^ニ老人^一、那箇是^レ眞。死人口裡活人舌。代云、舌頭無^レ骨、活人路上死人行。代云、十方薄伽梵、一路涅槃門。雖^ニ與

麼、約_二衲僧門下_一、死人口裡活人舌、活人路上死人行。如何又祇對。代云、舌頭同死活一路。此時妙圓非_二隱顯照_一。全身活卓卓、大用不_レ當_レ機。靦面露堂堂、無佛性無祖道。是前再釋也。何則活人路上、全身活卓卓。死人行、大用不_レ當_レ機、死人口裡、無_二佛性_一無_二祖道_一、活人舌、靦面露堂堂。一切智智清淨無_二、無二分、無別、無斷故_一。上至_二有頂天_一、下至_二阿鼻獄_一。皆如_二金色_一。畢竟如何。倩女離魂、那個是真底。代云、淨智妙圓、體自空寂。抄云、阿那箇淨智妙圓。代云、一切智智清淨。妙圓之意、無_レ所_レ漏、無_レ所_レ缺。所_レ究_レ竟、所以、一切聲色是佛之慧目。

〔円心寺本「抄」〕

七、倩女離魂。那個是真底。傳燈抄云、王藻清曰、張鑿女有柔婉、母語_テ王寅_ニ曰、我女稼汝及長。父鑿不_レ許。王寅_(憤カ)慎然入京。乃柔振_レ名一代。一日舟行□「□」也。寅云、汝是誰也。鑿女也。曾□□今遂其□。寅喜_テ其美入_レ蜀生二子。□□將二子到鑿。々驚曰、我女□□它、其魂有□□。故曰、倩女離魂。如幻翁云、此話全篇宏智八句相當當ル也。百億分身処々真也。瑩山云、一切智々清淨、無二、々々分、無別、無斷故。又云、御_レ影道_レ真_ト、如何下語。一僧云、分明紙上張公子、尽力高声喚不_レ膺。五祖栽松道者_ノ機用_ツ、青原密語_云、影搖千尺竜蛇動、声撼半天_ノ風雨寒。又、判云、影見_レ竜全非_レ竜。又、見_レ蛇亦非_レ蛇。只松影耳。其作_レ風_ノ聞_ハ、全非_レ風、作_レ雨亦非_レ雨。只松声耳。「若」「五祖亦虚也。五祖亦真也。抄云、倩女離魂、那個_カ是真底。代、「」如照像。又、

水銀無瑕、何魏無真。コレハ、假_カ真_ト用也。代、心_モ影_ニ有形也。又、鏡_ハ分身_ノ用_処ナリ。又、疎影横斜水清瀾。梅花_ハ月_ノ夜_ニ水_ニ印_シタル影_カ見_タ也。是□_ガ真_ト用也。又紙上張公子_モ、昼分明_ニ見_テ喚_タル心_ハ、假_カ真也。御影_ヲ真前_ト云_キ、此心也。又兩手展開_ノ云、左右逢源。了庵派_ニ、手展開_ハ空_ノ用_処、兩手共空也。ホトニ、左右逢源也。

〔龍泰寺本〕

倩女離魂。師云、那個是真底ヲ。代、那個_モ是真底_デ走。心_ハ、那個——底_ト見_タ時_キ、ドツコモ本位_デ拄_ヘタゾ。此人ナラサル_処ハ無_イゾ。師云、句ヲ。代、百億分身_処々身_{。心_ハ、百億ニ化身_シタガ、此ノ一人ト見_レバ、処々ニ分身_シタゾ。其ノ分身_シ羊_ハナント、柳緑リ花紅イ、桃紅李白、向分身_シタゾ。亦無_二々々無_レ分別無斷故_一、向_レモ_レ拳也。亦四十八則ノ時_キハ、青女離魂_シ羊ヲ。代、師ノ前_ニ至_テ、物ヲ書ク摸羊_スル也。句ヲ。代、心随万境轉、々_処實_ニ能幽也。トツコモ此ノ真底ノ主人_デ拄_ヘタゾ。此ノ心_ハ、万境ニ轉_シタゾ。在_レドモ、是カト取_テ出_サヌ時_キガ、幽_デ居_タゾ。呈ニ、三界無法、亦瑞聞大悟_モ向也。那個_ハ不——底_ト見_タ時、ドツコモ一片_ノ聞_デ拄_ヘタゾ。兩女ガ一女_ニ合_シタ_モ向也。}

〔正法寺本〕

第七、倩女離魂。師云、倩女離魂_シ羊ヲ。代、一个ハ伊_レ、一个ハ從來誰_デ走。師云、一人_ト成_リ羊ヲ。代、師ノ額_ト、我額ヲ、ハツチト打_合ル也。師云、恁——何。代、空_合空。心、ハツチト打_合

セタハ、物我相應ノ時節也。兩女ト成タワ、法身自性ト、幻化ノ空身ト分ツ也。サテ、能ク見籠ダレバ、空ガ空ニ合シタ迄デヨ。師云、真底ヲ。代云、太極已前無此話。心ハ、真底ト云ニ、沙汰ハ無イ、太極ヲサヘシラレヌニ、況ヤ已前ト云ニ、話ハ有ツテ社ソ、ト云テ、此ノ界ノ不始先キノイデワ無イ。正法ノ陶リ派ノイヨ。爰ヲ眼トシ、藏トシタ。

〔大安寺本〕

△清女離魂話。師云、倩女離根、^(ママ)那个是真底。代、夫レカトスレバ、夫デモナク、夫レデモナイカトスレバ、夫レデ走。師云、句ヲ、代、兔馬在角、牛羊無角。心ハ、兔馬——無トモ云ワデハ、爰ガ真底タゾ。真底ト云ニ、形相ハ無イ、定ラヌヨ。又、兩個ハ一個タゾ。其ノ故ワ、瑾和尚ノサマク、拳テゴ——ル。只真底ハ、一個トゴランジタ。其ノ證拋タゾ。尺迦牟尼仏——化身、観音大士——手眼ヲ具メゴ——ルワ、サテ是同乎是别乎。所以言、上天——下獄^(他)。皆金色ノ如クト云ワ、トツコモ仏光デ住エタゾ。向ミタ時、自化ノ相ガ、在テコソ。又迦葉ノ、文殊ヲ、酒——処ノ三処過夏、ト云テ、擯セントノゴ——ル。在レドモ、一切千万億文殊デゴ——ルナリ。処ヲ、尺迦云、迦葉——出セン、ト被仰タ。処デ、大小ノ迦葉モ、ツマツテゴ——ル。ト云ワ、トツコモ真底ノ文殊ノ体デ拄エタゾ。ホトニ、試ミニ道エ看。何ント。瑾和尚ノカドメデ御ランジテノ、手ノ開キ被成羊ガ、修正タゾ。尺迦言中ニ有響、ト云ワ、ドツコモ一体ノ文殊ナ者ヲ。何ニヲ擯出シヨウズゾ、ト云ノ即今ダ。

ト云ワ、弱イゾ。此ノ真底ワ、那个ノ文殊ヲカ擯出セントラセラレタ。言中ニ在ルイヨ。向ミレバ、ザツト吹イタモ、真底ヨ。向ミレバ、那个モ文殊、那个モ真底ヨ。ホトニコソ、觀面露堂々デハ在レ。此話ニ叶ツタラバ、五祖轉生ノ恩儀モスモウゾ。自他人我相無イ時、目前無^ツ閻梨、此間無^ニ老僧^一イヨ。時、心身一如タゾ。諷而一体ノ全身デハナイカ。ホトニコソ、一切——在ント、向斗云エバ、瑾和尚ノ拳ハナイゾ。倩女——真底デ於タゾ。

(8)

〔円応寺本「本文」〕

八、拳、徳山宣鑑禪師、一日托鉢下堂。雪峰見乃問、者老漢、鐘未鳴、鼓未響、托鉢^ソ向什麼処去。山低頭回^レ方丈。峰拳^ニ似岩頭^ニ。々曰、大小徳山未^レ會^ニ末後^ノ句^一。山聞^テ令^レ侍者喚^下岩頭^{上来}、問^テ云、汝不^レ肯^レ老僧^ヲ那。頭密^ニ啓^ス其^ノ意^ヲ。山乃休。瑾上坐、右伏以、徳山只是任運^ノ如是。岩頭・雪峰共^ニ是眼中着^レ屑、弄^レ巧作^ス拙。徳山低頭而飯方丈、是什麼造作^ツ。若以内外・偏正・人境・賓主^ヲ當^テ之^ニ、未^レ夢^ニ見^ル。在^リ。托鉢低頭飯^レ方丈、有什麼易難^カ。又雪峰示衆云、望^テ亭^与你相見^了也。烏石嶺^与你相見^了也。僧堂前^与你相見^了也。僧堂前即不^レ問、望^テ亭[・]烏石嶺、什麼処^カ相見^去也。鵝湖驟步飯方丈、保福便入^ニ僧堂^一。是箇時、是什麼宗旨。些子無^ニ氣息^ノ処^一。若會^得此話^ヲ、即見^ニ徳山托鉢^ノ話^一。

畢竟如何。一種平懷、泯然自盡。又曰、錯。猶有末後句在。你如何見。參。

【註解】

第八 托鉢下堂之話

畢竟如何。一種平懷、泯然自盡。又云。錯。猶有末後句在。你如何見。參。以末判、自打頭可見合。一日托鉢下堂。雪峯見乃問、者老漢、鐘未鳴、鼓未響、托鉢向什麼處去。山低頭回方丈、無向方、無背方、未會末後句。代云、一種平懷、泯然自盡。何猶有末後句會麼。山聞令侍者喚岩頭來。問曰、汝不肯老僧那。一句探頭。言肯有向方、言不肯有背方。密啓傍人何計。山乃休。一種平懷、泯然自盡。又雪峰示衆云、望州亭與汝相見了也。烏石嶺與汝相見了也。僧堂前與汝相見了也。後保福舉問鵝湖、僧當前即不問、望州亭・烏石嶺、什麼處相見去也。鵝湖驟步歸方丈。保福便入僧堂。知於僧堂前之商量歟。幸僧堂前即不問、鵝湖驟步歸方丈、保福便入僧堂。是箇時、些子無氣息處。岩頭・雪峯共是眼中著屑、弄功作拙。岩頭弄功作拙、德山任運如是。爲什麼道、未會末後句。非弄功作拙哉。雪峯眼中著屑、托鉢句面不可見托鉢。托鉢下堂什麼處去。非眼中著屑哉。又云、錯。望山當德山、何則已泯然自盡。何又探頭汝不肯老僧那。然猶有末後句在。果密啓下、山乃休。非龍頭蛇尾哉。當昔山僧道、不肯老僧那。引老漢入此窟、說什麼密啓。一種平懷、泯然自盡、是那箇一種。代云、是法平等、無有高下一。

又如跋云、古人放行任運作略也。拶云、放行箇什麼。代云、是法平等、無有高下。

【円応寺本「抄」】

八、德山托鉢下堂シタル心ハ、ナニ心モナク、フツト行キタケレハ、出テタマテ也。アルヲ、雪峰、此老漢、鐘未鳴鼓未響、托鉢何処カ去ル、ト云タル心ハ、声色以前、カト云「低頭シテ飯方丈ハ、飯タケレハ、飯タマデ也。岩頭、此老漢不會末后句、ト云心ハ、アマリ何事ナイホトニ、様アリサウニ云也。又密啓、只耳モノヲ云様ニシテ飯也。明、陞堂シテ云、ヨノツ子ノ事ヲナシカラス。此老漢會末后句ト云モ、様アリサウニ、云イナシタマデ也。三季活ヲ得タリト云モ、ハタシテ三季シテ死シタルハ、云イアワセタマデヨ。德山托鉢シテ下堂与飯方丈、有諸訛麼。代云、心々不觸物ニ、歩々不涉縁。雪峰、此老漢——何処去ト道意旨如何。代云、天桃窓下背花眠。又、世界混然未發叱。又、睡中消息太分明。岩頭云、此老漢不會末后句。又密啓其意。又、會末后句岩頭意旨如何。代云、明眼衲僧皆賺拳不賺拳、又不相弥。德山機、スエマテ同者也。岩頭機、末マデヤウガマシケニ云テ、人ヲタブラカス也。雪峰ハ声色已前ニラク也。三人ノ手ダテ、別々也。ハタシテハ、同シ者也。又大源門徒、於岱藏主會下參得。師云、末后句不會云タルキヲ云へ。鼓未鳴鐘未——下堂スル密啓ノ処云ハ、同用也。無門頌、末后与最初是不句、若是末后ト云ハ、岩頭・德山共未見夢有、ト云タモ、死叱節ヲ「」ル者ハナシ、ト

云心也。ホドニコソ、宗旨末后トハ、同シ死底ノ処ナレトモ、行李ニ到テ、只死ナウズマデヨ、ト云ハ、高上也。「「最初トハ、別也。頌ニヨクアウ也。コレガ、宗旨末后ナリ。最初末后トハ、大死底ノ一句云ヘ云ヘ、ト示ス処ナリ。

【龍泰寺本】

徳山托鉢下堂 師云、托鉢ノ堂ノ下リ羊ヲ。代、師ノ前ニ至テ、何ニトノウ、トツクト坐シテ、ハヤ時キガ出テキタヨナ、ト拳ス也。心ハ、正法眼道体洩底也、師云、畢竟ヲ。代、師ノ前ニ至テ、只タ飯ル也。畢竟ト云ニ、一ハ無イゾ。至道ノ消息也。任運ノ消息也。通処ノ一也。亦閑遊、閑ハ便チ坐シ、遊ハ行テ坐シタ消息也。亦獨則ニ長イ一在リ。是ハツタケ物也。

【正法寺本】

第八、托鉢下堂。師云、鐘——堂ヲ下タキヲ。代、兩手兩脚打垂テ、大口忘ト然ノ居ス。師云、恁麼(抜カ)時如何。代、理亶渾然無内外。心ハ、老倒シタト云テ、七俊八俊ニ及ンデ、諸漏ノ尽タ羊ナ一デワ無イ。鐘ヲ鳴シ、鼓ヲ打ト云ワ、威儀ヲ不乱、禅道・佛法ノ間ダヨ。其間ダノ忘想ヲ打尽、正法ニ洩底ノ肌ノ一ヨ。爰ヲ、道体ト云タ。ホトニ、内外表裏ノ忘ジタ処ダ。爰ヲ、末后ノ句ト云モ、忘ノ尽キテ、二足踏マヌワ。師云、雪峰ノ——去ト云、雪峰ノ幾ヲ。代、師ノ耳ニ物ヲ云様子ヲノ飯ル。師云、ソレワ何ントテ。代、鉄槩鐵蒺藜(ツツカ)確々。心ハ、徳山——下タモ、肌ノ知り難タイ一ヨ。又雪峰

ノ、此老ホイメワ、鐘モ鳴ラヌニト云タモ、難計事ダ。爰ヲバ、鉄——々、トミ羊ズ。ト云テ、ヲソロシイ一デハナイ。正法眼洩底末后ノ肌ニ、路スヂノ看エヌヲ云タ。サテ、商量ノ法ニハ、毒意ナゾ。難瞞ナド、弄ジテ可置。師云、岩頭密——啓キヲ。代、前ト同拳ス。師云、恁麼——何。代、道元無言。心ハ、兩尊共ニ、此道体洩底ノ人達デコサ在ル、トミテ、密啓ノハ、爰ニ至ツテ、言ハ無イ。蚩山ノ一種——尽(ト)、著語被成タモ向ダ。

【大安寺本】

△托鉢ノ堂ヲ下タル幾ヲ。代、金釣抛ツ四海。師云、雪峰——向甚麼処去ルト云キヲ。代、随レ邪遂レ悪。師云、低頭ノ飯方被成タ幾ヲ。代、咬レ人獅子不レ露爪牙。師云、峯拳ニ似岩頭ニタルキヲ。代、酒——吟。師云、大小徳山——末后句ト云キヲ。代、仏口邪心。師云、山聞令ニ侍者——不レ肯那、トヲセラレタ幾ヲ。代、久参——過。師云、梯ヲ不レ渡、久参デハ無イゾ。渡タラバ、賊デハ無イゾ。代、勘破了也。師云、岩頭密——意ツタルキヲ。代、師ノ耳本エヨツテ、物ヲ云ウ用ニノ飯ル。爰ニ、梶原ガ頼朝ノ耳、日ニ三度カイダ雑談ヲ引也。天下何事モ無イニ、キモヲツカム也。徳山岩頭ノ出合モ向ウ也。亦花叟派デハ、真ノ獅子兒能ク哮吼ストモ、爰ヲ拳ス也。心ハ、其ノ意ヲ啓スルガ、獅子ノ一句タゾ。百獸ワ、悩裂ヨ、ト云ハ、少シモ無ニ氣息(マ)肌エヨ。爰デ、諸双林ワ、膽魂ヲ喪シタゾ。師云、山便休去タキヲ。代、休レ釣飯来不レ繫レ船。心ハ、打頭ニ四海ニ抛タ。釣絲ノ手ヲ収タゾ。大用ニヲチツイタ也。此肌

ガ、一个ノ虚舟迄ヨ。休処虚舟駕レ彼タマデヨ。不レ繫ト會得ノ繩サ
クガ付ヌ也。師云、明日陞——同、ト云タ幾ヲ。代、改レ頭換レ面
無シ人知。師云、岩頭大笑云、徳山——如何、トラセラレタキヲ。
代、荊棘林中在ニ通天活路子。師云、雖笑——、ト云タキヲ。代、
鬼箭落ニ風前。亦十目視処、十指々処、此ノ句好シ。代ノ理ヲバ、
瑾和尚ノ、徳山任運、トラセラレタガ、翻約タゾ。任運ハ、ハコブ
ニ任ストヨシダ。ト云ハ、道洩底ノ消息ニ、繫留ハナイゾ。居ナガ
ラ、此土西天ニ通タ消息ガ在ルゾ。爰ヲ九季不レ知人、幾——沙
ト云バ、落居ニ向ニシウンシタ。任ウンノトキ、飯方丈ワ、
僧堂ニ入タガ易難ナイゾ。時キ、与レ你相見タゾ。此ノ肌エガ、活
路子タゾ。一種平懐ノ肌ガ、末后ノ句タゾ。忽然ノ理、不識上ニ在
テ、天理ニ叶ウト云ワ、泯絶鈍鉢ノ境界ヨ。爰ガ、一種末后ノ句タ
ゾ。你ノ体ヨ。別ニ二人ハ無イゾ。爰ガ正法眼密啓ノ心タゾ。

(9)

〔円応寺本「本文」〕

九、拳、惠寂禪師、因僧問、法身還解ニ説法ニ也無。山曰、我不レ得
説、別ニ有人ノ説得。僧曰、説得底ノ人何ニ在。山推ニ出ス枕子ヲ。瀧
山聞得曰、寂子用ニ劔刃上ノ夏ヲ。
瑾上坐、右伏以、个僧向ニ利劔下ニ、不レ惜レ命根、致シ一問來レ。仰山
不レ犯レ鋒鋦、密ニ把人ノ頭。當推ニ出枕子、別ニ有レ妙処。還作シ得シ答
ニ説得底ノ人耶、又作シ得シ枕子ト麼、又作シ得シ推出ノ人ト麼。於レ此

如何承當。我又推ニ出ス蒲團ヲ。諸人還見麼。嘘一聲云、如是。參。

〔註解〕

第九 枕子之話

説得底人何在。山推ニ出枕。代云、瓠瓠投手纏瓠瓠。天真無ニ造作
故。跋云、枕之話、古徳不レ得レ犯レ鋒傷レ手底手段也。拶云、瓠山
什麼道。寂子用ニ劔刃上事、不レ犯レ鋒鋦、密把人頭。代云、殺人刀
不廢ニ一毛。活人劍不度ニ一毛。暗把人頭、殺人刀不廢ニ一毛。
不レ犯レ鋒鋦、活人劍不度ニ一毫。暗把人頭、寂子劔刃上生殺同時、
情無情全同、人頭與ニ枕子ニ不二也。推ニ出枕子、瓠瓠投手纏瓠瓠。
暗把人頭、箇僧頭、在ニ仰山手裡ニ爲ニ什麼、天真無ニ造作。箇僧頭、
不廢ニ一毛、還作シ得答ニ説得底人耶。又作シ得枕子ト麼。又作麼得
出麼。於レ此如何承當。我又推ニ出蒲團。代云、閑坐不レ堪レ久。諸人
還見麼。虚一聲。(嘘カ)代云、珍重。主人欠則客便去如レ是。代云、本來
究竟等。拶云、本末究竟等底作麼生。代云、語默動靜體案然。(安カ)瑩山
爲ニ別路見。本末究竟等、何則生殺同時、情無情全同。語默亦然、
動靜亦然、待對之同、皆以ニ體眼ニ可見。

〔円応寺本「抄」〕

九、仰山惠寂禪師、因僧問、法身還解説法也無也。師云、我不レ得
説、別ニ有人説得タリ。僧云、説得底人何在。仰山推出枕子ヲ。瀧
山聞得云、寂子用ニ劔刃上夏。瑩山云、我亦推出蒲團、急坐スル
正當、無念無相也。慕此タガ、好何モキル処ナリ。コレハ、自

己法身ノ答ルナリ。此ノ^{ルカ}眈^{ルカ}、ヤブリハ也。又枕ヲ案スルホドニ、クヒノ臺ノ用処也。蒲團^{モ急}坐^{スル}正當ハ、無念無相也。慕^コムガ、好ナリ。枕ヲ案^ンテ極睡^ス。到处^ガ、法身也。慕^コ極睡^ノ眈[、]何^ニモナイソ。ホトニ、劔刃上也。代、因^ッ。又、頭落又不知。又法身ノ説法トハ、無説也。無語ノ処^カ、最初呈スル無分也。

〔龍泰寺本〕

仰山枕子話。師云、枕子推出出シ羊ヲ。亦問答一般ニトモ。代、師ノ前ニ、ナニト無ク至テ、低頭ソイビキラカク模羊ヲスル也。師云、句ヲ。代、頭落^モ亦不知。心ハ、此ノ拳派ハ、當人也。師云、一説ハ、拳派ハ一ツ也。句ヲ。代、殺人刀一毫^モ不破、活人劔一毛不損。心ハ、悪クスレバ、最処ノ劔光劔幾ニナルゾ。亦サビメニナルゾ。此ノ古則ニ、泰叟ノ鼻ヲチントカンデ、千手千眼不審^ク、ト被抑タモ向也。畢竟悟上ノ出逢也。枕子ヲ推出シタヲバ、ナント見ウズゾ。胡盧ガ手ヲ展タト見ウ迄ヨ。亦睡入テ、ソツト驚時分、ウント云テ、枕子ヲ推出スル振舞ナス也。

〔正法寺本〕

第九、枕子推出話。師云、法身ノ説法シ羊ヲ。代、放身^ノ、手脚ヲ踏展テ、其ノ時ヲ作ス。師云、恁——何。代、佛祖從來不^レ通^レ行。心ハ、三寸ノ舌頭ノ回ヌ、此ノタムチガ、法身ノ説法ダ。悪クスレバ、四十九季ノ説ニナルト云ワ、解會ニ、纏ルゾ。此ノ時節、佛祖ノ消息ノ及バヌイタ。ト云ワ、自己ノ妄想ヲ佛祖ト云也。師云、夫

ハ——テ。代、虚空々々會不作、即是法身。法身々々會不作、即是虚空。心ハ、舌頭ノ回サレズ、クツト牢関ニ追詰メラレタ処ガ、虚空ダ。ト云ワ、佛性ノイヨ。此ノ空ニ至テ、至タト會セヌ時キガ、法身虚空タゾ。爰ニ立テミレバ、雨竹風松、ミナ説法度生ヨ。會ヲナセバ、隔ルゾ。師云、仰山枕子推出ノ幾ヲ。代、至テ、チャツト頭ヲ出^ル。師云、恁麼——何。代、要頭斫持去^ル。心ハ、法身ノ説法ニ至ツテハ、何ントモ展ベラレス。枕子ヲ推出シタ心ハ、我ガ頭ノ要ナラバ、斫テワ行カシ。説向生ズ道里^理ハ走ヌ。ト云ワ、正法自性當人ダ。爰ニ、陶ルガ、劔刃刀鋒ダ。ホコサキヲ露サズ、此ノ僧ノ只中ニ透シタ^イダハ。サテ、能ク弄ジ得^タイデワ無イカ。

〔大安寺本〕

△仰山枕子話。師云、問答ノ意氣ヲ。代、師ノ頭ヲ取テヲシ着ケテ云^ツ、頭落生也。句ヲ。代、吹毛元不動、徧地是刀鎗。心ハ、瑾和尚^モ、此僧ノ働キガ在ル、ト御覽ジタゾ。法——法スヤ無ヤト云イ、説得ル底、何^ニカ在ルト、指シ皈エスガ、向^ニ利劔下ニ命現ヲ惜マヌ幾ダ。処ヲ、仰山我不^レ得——説得タリ、トラセラレタガ、鋒鋌ヲ犯サヌ、此僧ノ人頭ヲ押ヘタ。ホトニ、枕子推出ス。法身説法ヨ、トミレバ、推出ノ處^ニ、妙處ガアルゾ。ト云ワ、鼻下ノ口裡デ伸ルヲ、説法トハ云ワヌゾ。ギタニ不^レ落、チャツト枕子ヲ出^ノコソ、法身説法ヨ。會ヲナシタラバ、泥團ヲ撮^ダイヨ。法身ハ無相トミレバ、枕子ヲ出シタモ、扇子ヲ出シ、團センヲ出シタモ、法身ヨ。拳処ノ心ハ、意氣^ニ云タガ強イゾ。句ノ心モ、別ニ有^レ人説得タリ。ト

云々ハ、持ッテ開テ動ジタガ、吹毛デハ無イゾ。アレドモ、爰デ、此刀鋒徧法界ニ柱エタゾ。ナーバ、法身洩底ノ時キ、紅々白々ガ、法ノ鋒キタゾ。向ミエルガ、正法眼タゾ。

(10)

〔円応寺本「本文」〕

十、拳、夾山善會禪師、因僧問、如何是道。山云、大陽溢目、萬里不掛片雲。僧云、学人不會。師云、清淨之水魚自迷。僧禮拜。瑾上坐、右伏以、只个一段大夏、本來具足。莫求悟、本無迷。歷々不昧、處處現成。為什麼不會。時人自是似騎牛覓牛。又僧問巴陵、如何是道。陵云、明眼人落井。若眼目分明、須見路直行。何用落井。若會取此話、乃見曰清淨之水魚自迷公案。還會麼。天晴無雨、汝何不見日月。參。

〔註解〕

第十 道不會之話

如何是道。大陽溢目、萬里不掛片雲。拶云、箇僧不會且置。大衆如何會。代云、午日無影。又僧問巴陵、如何是道。陵云、明眼人落井。若眼目分明、須見路直行、何用落井。巴陵答棄箇僧、剩程眼眼分明、什麼不見道。若會取此話、乃見云清淨水魚自迷公案。還會麼。天晴無雨、汝不見日月。代云、萬古碧潭空界月。再三撈擁始應知。此句如洞下常用。萬古碧潭與空界與

月之位、向去用之。今依此古則如用之。直視云、碧潭空界月可見。不可見向去見之。三節五節取其要道。天晴無雨。大陽溢目、萬里不掛片雲。歷々不昧、處處現成。碧潭空界月、清淨水、眼目分明、魚自迷、不見日月。又問巴陵僧、剩程眼目分明、什麼不見道。又僧問夾山、如何是道。大陽溢目。萬里不掛片雲。學人不會。箇僧自迷不見道。故跋云、道不會之話、古者垂手救弊底様子也。當知、夾山・巴陵共垂手救弊、老婆親切。凡道有二途。道體與道路之二也。如何是道、大陽溢目、萬里不掛片雲。瑩山判云、只箇一段大事、本來具足、莫求悟本無迷。歷歴不昧、處處現成。然非迷悟外道哉。又第一則云一大事因緣與此云一段大事。其意一船。只箇道體也。又僧問巴陵、如何是道。明眼人落井。瑩山判云、若眼目分明、須見路直行。用何落井。此時道、道路云義也。子細默檢、巴陵之意、剩程眼目分明者、只平人眼、不悟眼。什麼不見道、又不留迷。然是非迷悟外道也。

〔円応寺本「抄」〕

十、夾山會因僧問、如何是道。山云、大陽溢目、万里不掛片雲。僧云、学人不會。師云、清淨水魚自迷。僧禮拜。瑩山云、歷々不昧、處處現成。又清淨水魚自迷、自是似騎牛覓牛。注云、答話心、拶開眼云、虚空無内外、心法亦如斯。又内外虚玄、徹底空寂。是レハ、目前真大道、答ナリ。アルヲ、此僧、見ワツスホドニ、魚ノ水ニ迷ガ如、空中ニ坐シテ、空中ヲ看テシラ

ヌゾ、ト云心也。代、目前真大道、不見(織カ)饑毫也大奇。

〔龍泰寺本〕

夾山道不會話ヲ。代、師ノ前ニ丁ドノウ至テ、キツト拶眼ノ、日ノカツノトノ、チャツト指向タ羊ニ摸羊ヲスル也。心ハ、大陽目ニ溢レテ、万里ニ片雲不掛シテ、邊際ノ見エヌ也。時ガ、道ノ淵底也。清浄水魚自迷。魚ト云ハ、心魚ノ也。悪クスレバ迷ウズゾ。道淵底ノ時、心魚ヲ収ターダゾ。師云、句ヲ。代、無心体得無心道、一、体得無心道亦休。心ハ、無心ヲモヨク休シタ時、道淵底也。亦圓通寺デハ、拳派一ツ也。師拶ヲ下ス。觸目不會ノ道ヲ云エ。代、運足イソクシ焉。知路イソクシ。拳ス也。類則、明眼人落井ト云モ、向也。是八十則正法眼藏之終也。花叟派。祥雲山龍泰寺本参也。

〔正法寺本〕

第十、夾山道不會。師云、大陽ノ定ヲ。代、兩手ヲ結ンデ、圓相ヲ作ス。心ハ、一圓ノ処ガ、大陽ダ。師云、目ニ溢レ羊ヲ。代、拶眼ス、閑カニ。師云、其ハ何ントテ。代、法々自位住ス。師云、万里ニ雲一。代、師背ニシテ坐ス。師云、恁麼何。代、身空境寂体如々。師云、清浄ノ水ヲ云へ。代、清浄ノ水ヲ云へ。師云、魚自迷ヲ。代、駒見井々見駒。先ズ是ワ、宗門ノ大道ノ一ダ。大陽不掛処ヲ、学人不會ダ。々々ガ、大道ダ。不會ノ時キ、片雲ハ掛ラヌ。時キ、清浄ノ水デ、コミハ起ラヌ。魚ト云ワ、念魚ト云テ、一

念ノ不レ動主ノ眼睛ヲ云タ。呈、拳処モ、大道一圓空ヨ。サテ又、不會道ガ、花紅ト住、烏ハ黒ト欠道無イ、諷テ能ク溢レターデハ無イカ。溢ハ、盈也、滿也。何ニモ入ミチタ。背ニシタワ、師ニヨルワ、片雲ダ。ト云ワ、迷悟ノ一ダ。如是無ニ向背賓主ニ時キ、身空共ニ如々ノ体ヨ。処ガ、清浄ノ水ダワ。爰ヲ、少シモ引遠違レバ、ニゴル。魚自迷、駒ノ井ヲ看タニワ、未タ意ガ在ル。井ガ駒ヲ看タト云ニ、何ンデモ會ワ出テヌ。サテ亦、清水ニ遊魚ノ浮ンダヲミデワ。目ニ無開合。フラリトシテ、動揺無イ、純一無雜チヤ。何ノ階級ニ落ズ、——真トニ、正法眼ダ。爰(マ)爰(マ)ヲ、吾家ノ藏トシター社ソ、多イニ、十則正法眼藏ト唱ルモ、爰ノ和合共也。可秘ノ。礼拜去。

正法寺月泉大和尚本参ノ唱イ、他派不可有、秘極処也。

〔大安寺本〕

○夾山道不會話。師云、問答ノ意ヲ。代、師ノ前ニ至テ、何ントナク座レ飯ル句ヲ。代、体得無心々々道一、体得無心道亦休ス。心ハ、先ヅ此ノ道ト云ワ、大道ノ一ヨ。爰ヲ問ホトニ、大陽溢目アツル。処デ見ヨ。ナレバ、此道ノ根体ト云ワ、拶眼ノ上ニモ在ル。向見タトキ、左視右視ガ道体ヨ、爰ヲモ會セヌホトニ、清——迷トヲセラレタ。道ニ淵底ト云ワ、魚ヲ水中ニ栖ンダガ、水ヅハシラヌゾ。向迷ウタ処ガ、本来ノ道ノ具足シヤウダ。歴々不昧ノ処ガ現成デ、何レノ処ガ、道ナラヌ一ガ在テコソ。向在ルヲ心得ヌニ依テ、牛ニ騎テ牛ヲ覓メタホトノ一ヨ。代モ、ナントナク坐シタガ、不岩底ノ左

右、道ノ淵底ダ。道ニ淵底正ズハ、無心ヲモ休セデハ。爰デ具足シ
タ正法眼、本来ノ道デ走ヨ。十則正法眼、快庵派秘參也。韓嶺和
尚、洲山ニ代々総領一人斗傳付也。

(跋)

〔円応寺本「本文」〕

瑾上坐、右伏以、拳古德機縁一十則了也。一々透得。第一、拈花
微笑之話、三世諸佛一大事因縁也。第二、門前拶竿之話、一切祖師
發明榜樣也。第三、廓然無聖、不識之話、佛祖不傳不授之玄妙也。
第四、聖諦亦不為之話、歷代祖師能行到處也。第五、無情說法之
話、吾曩祖明心悟道初也。第六、六外一句之話、天下衲僧吞吐不得
底也。第七、倩女離魂之話、諸佛諸祖勇猛精進之力也。第八、托鉢
下堂之話、古人放行任運作略也。第九、枕子之話、古德不_レ得_レ犯_レ
鋒鋌傷_レ手底手段也。第十、道不會之話、古者垂_レ手救_レ弊底樣子也。
学人須_レ欲_レ成_レ大善知識。先_レ參_レ此_レ一十則大事。若參不得、未_レ許_レ
稱吾兒孫。實哉斯言、可_レ秘矣。

於能劬洞谷山永光禪寺丈室五十四世瑩山比丘紹瑾書之。

〔註解〕

瑾上座、拳古德機縁一十則了也。一一透得。第一拈花微笑之話、
三世諸佛一大事因縁也。第二門前利竿之話、一切祖師發明榜樣也。
第三廓然不識之話、祖佛不傳不授之妙也。第四聖諦亦不為之話、歷

中世曹洞宗における本參研究序説(二)(飯塚)

代祖能行到處也。第五無情說法之話、(吾カ)五曩祖明心悟道之初也。第六
六外一句之話、天下衲僧吞吐不得底也。第七倩女離魂之話、諸佛諸
祖勇猛精進之力也。第八托鉢下堂之話、古人放行任運作略也。第九
枕子之話、古德不_レ得_レ犯_レ鋒傷_レ手底段也。(手脱カ)第十道不會之話、古者垂
_レ手救_レ弊底樣子也。学人須_レ欲_レ成_レ大善知識。先_レ參_レ此_レ一十則大
事。若參不得、未_レ許_レ稱_レ吾兒孫。實哉斯言、可_レ秘。
学人須_レ欲_レ成_レ大善知識。先_レ參_レ此_レ一十則。十則句脈科段、其通處不_レ
可_レ不_レ參。直饒參_レ得_レ大事、若參不得、未_レ許_レ稱_レ吾兒孫。大事者判_レ
第一則拈花微笑之話、云_レ三世諸佛一事因縁也。又判_レ第十則道不_レ
會之話、云_レ只箇一段大事、本來具足。第一則、第十則、本來究竟_(未カ)
等、大衆望受_レ所_レ易_レ見句、通_レ所_レ難_レ見意。實哉斯言、可_レ秘矣。
能州洞谷秘密、越州能勝拔閱、能隱能顯。拶云、隱顯相多少。代
云、唯一堅密身、一切塵中現。

秘密正法眼藏注解

國恩寺東窓下書之

〔円応寺本「抄」〕

瑾上坐右伏以拳古德機縁一十則了也、一々透得。

第一、拈花話、三世諸佛一大事因縁也。第二、門前拶竿話、一切祖
師發名之榜樣也。第三、不識話、佛祖不傳不授之如也。第四、聖諦
亦不為話、歷代祖師能行到處。第五、無情說法之話、五祖明心悟道
初也。第六、六外一句話、天下衲僧吞吐不得底也。第七、倩女離魂
話、諸佛諸祖勇猛精進力也。第八、德山托鉢話、古人放行任運作略

也。第九、枕子之話、古徳不_レ得_二犯_レ鋒鋌_一傷_レ手底_一手段也。第十、道不會話、古徳垂_レ手救弊底様子也。学人須欲_レ成_二大善知識_一、先参_レ此一十則大事。若参不得、未_レ許_レ称_二吾兒孫_一。實哉斯言、可秘々々。於能州洞谷山永光禪寺丈室五十四世瑩山比丘紹瑾書之。

〔龍泰寺本〕

△無し。▽

〔正法寺本〕

△無し。▽

〔大安寺本〕

△無し。▽